

< | + + + + + + + + + < | 男女共同参画推進センター報告書 | <

> | > > > | 平成 | 年

29

京都大学

男女共同参画推進センター報告書

平成30年3月

目 次

ご挨拶	1
運営体制	2
I 「広報・相談・社会連携」事業	3
1) Women and Wish フォーラム 4	4
2) 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）	5
3) 講義・ゼミ	12
4) 女子高生・車座フォーラム 2017	13
5) 第 12 回女子中高生のための関西科学塾	21
6) 男女共同参画推進センターNewsletter	23
II 「育児・介護支援」事業	43
1) 平成 29 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」	44
2) おむかえ保育	52
3) ベビーシッター育児利用支援	54
III 「病児保育」事業	57
1) 病児保育室「こもも」	58
IV 「就労支援」事業	75
1) 研究・実験補助者雇用制度	76
資料	
1) 男女共同参画推進センター関係者名簿	87
2) 男女共同参画推進センター会議議事	88
3) 京都大学の教員・学生数	91
4) 京都大学の女性研究者・女子学生の状況	93



ご挨拶

理事・副学長

京都大学男女共同参画推進センター長

稲葉カヨ

平成 18 年に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の下で設立された「女性研究者支援センター」を中心とした活動も 12 年目に入っています。この間、平成 26 年度には、「女性研究者支援センター」を発展的に改組し、男女共同参画推進本部のもとに「男女共同参画推進センター」を設置しました。そのため、支援の対象も女性研究者のみならず教職員・学生へと広がってきました。

平成 27 年 4 月には、山極総長の下にアクション・プラン（2015 年度～2020 年度）を公表しています。その中では、「男女共同参画推進本部・推進センターを軸にして、基盤整備の拡充を進めると共に、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援という 3 つの目標を設定し、本学における男女共同参画の一層の進化を進める」としています。また、その後発表された「WINDOW 構想」の末尾の W は“Women and Wish”を表すとし、「男女共同参画推進アクション・プランに基づき明るい希望を持てる環境を整備します」と明記されました。

それを裏付けるように、平成 26 年 7 月に思修館の学寮「船哲房」の 1 階に入居したセンターの待機乳児保育室では、定員増により以前より多くの待機乳児を受け入れることができるようになっています。また、9 月からの開室を 4 月へと変更し、利用者の利便性の向上に努めています。

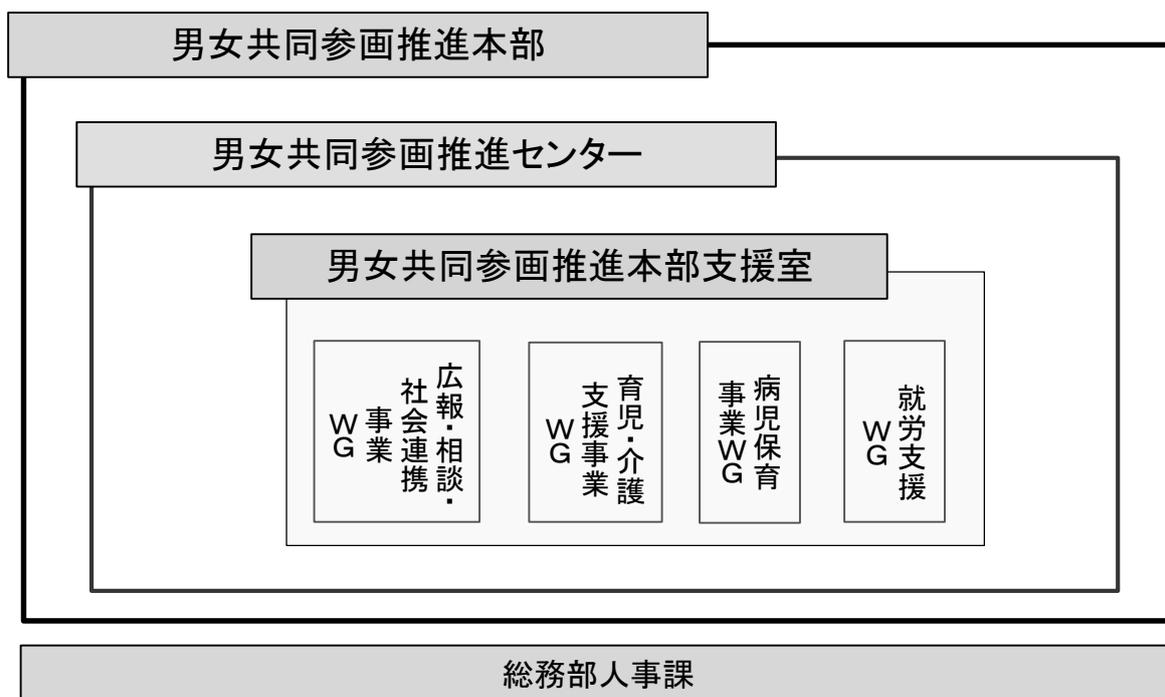
今年度は 5 回発行したニューズレターでも、多くの方々に楽しみにしていただいている「連載：研究者になる！」では 63 人目の教員に登場していただきました。京大の女性研究者を紹介する「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」も Vol.4 を発行することができました。教養教育でも、ILAS セミナー「ジェンダーと科学」や「偏見・差別・人権」の講義において本センターの運営に関与する教員が大きな役割を担っています。さらに、京都大学進学を目指す女子高校生を対象として開催した「女子高生・車座フォーラム 2017（第 12 回）」には、東北から九州にまたがる地域から、多くの女子高校生とその保護者の参加を得ることができました。

学内の男女共同参画を推進している本センターにとって大切なイベントは、女性教員懇話会との共催として今年度も開催した第 4 回“Women and Wish”フォーラムです。総長の出席を得て、多くの出席者との対話の中で、課題に立ち向かう姿勢を示していただいたことは大きな成果でした。しかし、教職員共に女性の方が、男女共同参画に対する関心やセンターの活動に対する認知度が低いという問題も浮かび上がっております。

このような状況ではありますが、さらに多くの方々への事業の周知を図り、活動の重要性を御理解頂けるよう、ホームページの刷新を始めとして広報に積極的に努めていきたいと考えております。そのため、今後もなお一層のご理解、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

運営体制

男女共同参画推進本部のもと、京都大学の男女共同参画を推進するために、男女共同参画推進センターが設置されています。本センターには男女共同参画推進本部支援室をおき、そのもとに学内教員を委員とする4つのワーキンググループを設置して、それぞれの事業を企画・運営しています。



役職	氏名
男女共同参画推進センター長	稲葉 カヨ (理事・副学長)
男女共同参画推進本部支援室長	佐藤 亨 (情報学研究科)
広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査	今村 博臣 (生命科学研究所)
育児・介護支援事業ワーキンググループ主査	小西 由紀子 (理学研究科)
病児保育事業ワーキンググループ主査	足立 壯一 (医学研究科)
就労支援事業ワーキンググループ主査	喜多 恵子 (農学研究科)

I 「広報・相談・社会連携」事業

広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ活動報告

広報事業では、3月2日にWomen and Wish フォーラム 4「女性研究者の働き方・生き方を考える」を女性教員懇話会との共催で行った。基調講演およびセンター利用者による講演に続いて、総長との意見交流をおこない、京都大学のWindow構想における本センターが果たすべき役割を再確認した。

社会連携事業としては、関西の他大学との連携で第12回女子中高生のための関西科学塾を開催した。京都大学では、11月19日に実験講座を行った。また、12月23日には女子高生・車座フォーラム2017を学内にて開催した。両イベントとも多数の高校生および保護者が参加し、次世代の女性研究者としての役割を担う世代に、早い段階から大学の教員や学生と交流する機会を提供することができた。

そして、センターの活動について、ウェブサイトやニュースレターを通して、学内外に広報活動を行った。



広報・相談・社会連携事業WG主査 今村 博臣

■H29 活動記録

- | | |
|-------------|--|
| 4月28日(金) | ニュースレター「たちばな」第73号発行 |
| 5月20日(土) | ニュースレター「たちばな」第74号発行 |
| 5月29日(月) | 日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」 |
| 10月29日(日) | 研究・イノベーション学会 第32回年次大会女性エンジニア活性分科会 企画セッション:稲葉カヨ |
| 9月20日(水) | ニュースレター「たちばな」第75号発行 |
| 11月10日(金) | 栃木県立宇都宮女子高校 京都大学訪問・講義:稲葉カヨ |
| 12月23日(祝・土) | 女子高生・車座フォーラム2017 |
| 12月25日(月) | ニュースレター「たちばな」第76号発行 |
| 2月20日(火) | ニュースレター「たちばな」第77号発行 |
| 3月2日(金) | “Women and Wish”フォーラム4「女性研究者の働き方・生き方を考える」 |



シリーズ“Women and Wish”フォーラム 4

「女性研究者の働き方・生き方を考える」

日時:2018年3月2日(金)

12:30~14:20 ※受付・開場 12:00

場所:国際科学イノベーション棟会議室 5a・5b

参加費:無料

対象者:京都大学に所属する教職員・学生

定員:40名(先着順)

申込:予約制

京都大学男女共同参画推進センター(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>)のフォーラム申込入力フォームよりお申し込みください。

山極壽一京都大学第26代総長は六つの活動指針の頭文字をとった標語 *WINDOW* を掲げています。その結びの“W”は、男女共同参画社会実現のための“*Women and Wish*”です。男女共同参画推進センターでは、シリーズ「*Women and Wish* フォーラム」を開催し、センターや総長への要望を伺うとともに女性研究者が直面している問題点、あるいは数値目標だけでは語ることのできない目標の解決に向けたディスカッションを行います。

12:30~12:40	開会挨拶 山極 壽一 総長 稲葉 カヨ 理事・副学長、男女共同参画推進センター長 司 会 今村 博臣 広報・相談・社会連携事業WG主査
12:40~12:50	男女共同参画推進センターWG主査の挨拶と各事業紹介
12:50~13:05	「働き方改革と女性研究者」 島田 裕子 大学院法学研究科 准教授
13:05~13:15	「おままごと お鍋は使わず レンジでチン」 田鶴 寿弥子 生存圏研究所 助教
13:15~13:25	「センターを利用して」 大西 龍貴 医学研究科 博士後期課程
13:25~13:35	休憩
13:35~13:50	「育児・介護と業務の両立に対する女性教員のニーズ」 プレゼンテーション 女性教員懇話会
13:50~14:15	総長、WG主査、教員懇話会、利用者によるディスカッション
14:15~14:20	閉会挨拶 佐藤 亨 推進本部支援室長



第十回

京都大学 たちばな賞

応募者募集

この京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的として創設されました。



対象

学術上優れた研究成果をあげた本学に所属する45歳未満（昭和48年4月2日以降生まれ）の若手女性研究者のうち下記条件を満たす者

【学生部門】 応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること。

【研究者部門】 博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

顕彰

- **たちばな賞** 正賞：賞状 副賞：記念品及び賞金10万円
(研究者部門・学生部門 各1名)
- **奨励賞** 正賞：賞状 副賞：記念品及び賞金8万円
(該当者がいた場合のみ)



応募受付期間

平成29年11月1日(水)～11月30日(木)

【協賛】

株式会社ワコール

●応募要領などの詳細について

京都大学のHPからダウンロードしてください。 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>
お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話：075-753-2283

第10回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）応募要領

1. 趣旨・目的

京都大学における若手の女性研究者の優れた研究成果を讃えるため、平成20年度に「たちばな賞（京都大学優秀女性研究者賞）」を創設しました。本制度は、学術上優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資することを目的としています。

2. 応募条件

昭和48年4月2日以降生まれの本学に所属する女性の大学院生及び女性研究者（研究を職務に含んでいる者。ポスドク及び日本学術振興会特別研究員を含む。）のうち、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者で、以下の条件を満たす者とします。なお、過去に学生部門でたちばな賞を授与された者も、研究者部門に応募することができます。また、過去に奨励賞を授与された者も、受賞対象となる業績が異なる場合に限り、次年度以降に本賞へ応募できます。

【学生部門】

応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること（医学研究科医学専攻及び薬学研究科薬学専攻にあつては博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科及び総合生存学館の博士課程にあつては後期に相当する課程を含む。休学中の者は除く。）なお、募集年度において京都大学通則第33条に規定する懲戒を受けている者は応募できません。

【研究者部門】

博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

3. 顕彰

受賞者は、各部門1名ずつとし、表彰状と副賞（記念品及び賞金10万円）を授与します。また、該当者がある場合は、奨励賞として各部門原則1名に表彰状と副賞（記念品及び賞金8万円）を授与します。

4. 提出書類

- ①応募調書（様式1／PDF）
- ②これまでの研究の概要（様式2／PDF）
- ③推薦状（様式3／PDF）
- ④業績目録（A4／形式自由／PDF）
- ⑤その他特記すべき事項（特許・書評・新聞記事などの参考

資料（形式自由）／PDF）

⑥応募対象となった書籍、論文の別刷（主なものを学生は3編以内、研究者は5編以内／PDF）

上記③の推薦状については、応募者の研究をよく理解している、本学に所属する常勤の研究者が作成してください。③以外の書類については、応募者本人が作成してください。

5. 提出方法

(1) 提出書類は、応募者が直接、下記連絡先にメールに添付して提出してください。

(2) 提出書類①～⑥については、PDFにして提出してください。なお、⑥については、表紙、目次及び該当部分を抜粋したPDFを提出してください。

PDF file が大容量になる場合には、大容量文書にて提出もしくはCD に焼くかUSB メモリーに入れて学内便にて提出することも可とします。

6. 応募受付期間

平成29年11月1日（水）～平成29年11月30日（木）

7. 選考及び選考結果の通知

学内に設置された選考委員会において、書面審査による第一次選考を行います。第一次選考通過者にはヒアリング審査による第二次選考を行い、受賞者を決定します。

なお、ヒアリング審査は平成30年1月下旬に実施予定です。

また、第一次選考通過者には、平成29年12月末日までに第一次選考のご連絡及び第二次選考ヒアリング審査用の資料の提出を依頼いたしますので、よろしくお願いたします。

受賞決定の通知は、平成30年2月上旬頃に行い、学内外へ公表します。

8. 表彰式

平成30年3月2日（金）午後に行います。また、表彰式後に受賞対象となった研究成果の発表をしていただきます。日程等詳細については、別途、受賞者に通知します。

9. その他

(1) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。

(2) 受賞者の氏名、略歴及び受賞の対象となった研究業績等は公表されますので、予めご承知願います。

(3) 提出書類に含まれる個人情報 は、厳重に管理し、本表彰の事業遂行のためのみに利用します。



第十四回

京都大学

「たちばな賞」表彰式



京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的とする賞です。

〈受賞者による研究発表〉

たちばな賞

受賞者

学生部門

森本 千恵

(医学研究科 博士後期課程2年)

「網羅的SNPs解析を利用した実践的血縁鑑定法の開発」

研究者部門

石井 美保

(人文科学研究所 准教授)

「西アフリカと南インドにおける宗教・自然・近代に関する人類学的研究」

奨励賞 受賞者

学生部門

華井 明子 (医学研究科)

研究者部門

三宅 可奈江 (医学部附属病院)

日時.. 2018年3月2日(金) 午後15時~16時
場所.. 京都大学国際科学イノベーション棟5階
シンポジウムホール

プログラム

- 15:00~15:05 開会の挨拶 稲葉 カヨ(京都大学理事)
- 15:05~15:15 表彰式・ワコール賞贈呈
- 15:15~15:25 総長挨拶
- 15:25~15:35 来賓祝辞 安原 弘 展(株式会社ワコール代表取締役社長)
- 15:35~15:45 研究発表1【学生部門】 森本 千恵
- 15:45~15:55 研究発表2【研究者部門】 石井 美保
- 15:55~16:00 閉会の挨拶

表彰式は、山藤総長より、表彰状と記念楯が授与されます。
副賞として、㈱ワコール 安原代表取締役社長より、ワコール賞が授与されます。
表彰式のあと、たちばな賞受賞者による研究発表を行います。

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話 075-753-2283
URL:<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>



2017年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

受賞者略歴

【たちばな賞】



【学生部門】

森本 千恵

現 職：医学研究科医科学専攻博士後期課程 2年、日本学術振興会特別研究員(DC2)

専門分野：法医遺伝学

研究テーマ：網羅的 SNPs 解析を利用した実践的血縁鑑定法の開発

(略 歴)

2014年3月 京都大学医学部人間健康科学科検査技術科学専攻 卒業

2016年3月 京都大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程 修了

2016年4月 京都大学大学院医学研究科医科学専攻博士後期課程 進学

2017年4月 日本学術振興会特別研究員 DC2

(受賞歴)

2016年 日本DNA多型学会第25回学術集会 優秀研究賞

(研究概要)

法医鑑識領域におけるDNA鑑定では、マイクロサテライト(Short Tandem Repeat : STR)15ローカスの繰り返し数をキャピラリー電気泳動にて型判定する検査法が国際的にも広く用いられている。この検査法を用いて親子鑑定などの血縁鑑定が行われるが、二者間では親子・兄弟といった第1度血縁の判定が限界であり、その他の血縁関係の判定は困難である。そこで、マーカーとして一塩基多型(Single Nucleotide Polymorphisms : SNPs)を使用した、二者間における新たな血縁鑑定法の開発を行った。SNPsはSTRに比べ個々の多型性は低いが、染色体上に存在する数が圧倒的に多く、また、DNAマイクロアレイなどで網羅的に解析できるという利点がある。ヒト常染色体上に散在する約17万箇所のSNPsを対象ローカスとし、二者間でのSNPs共有数から染色体共有指標(index of chromosome sharing : ICS)を算出した。ICSとは、この分析法のために独自に考案した指標であり、二者の各SNPsの共有数を基に算出する。つまり、鑑定対象とする二者間の染色体の共有度合いを反映した値であり、二者の血縁関係に近いほどICSの値は大きくなる。コンピュータ上で模擬家系のSNPs型を作成し、各血縁関係においてICSがどの程度になるかを推定したところ、ICS値は血縁関係毎に有意な差が認められ、またいとこ(第5度血縁)でも高精度で判定可能であった。また、染色体共有のパターンの違いをロジスティック回帰モデルにより確率的に評価したところ、これまでは識別不可能であった同一血縁度の血縁関係でも鑑別が可能であることを発見した。さらに、日本人ボランティアから収集したDNA試料を用いて本法の検証を行い、高い精度で実際の血縁関係と一致することを確認した。従って、本法は実際のヒトDNA試料でも応用可能な方法と言え、今後、大規模災害時や孤独死における身元不明遺体の身元確認に大きく貢献できることが期待される。現在、DNA断片化の進んだより法医実務に近い試料においても、本法が使用可能かどうか実験的検討を行っている。



【研究者部門】
石井 美保

現 職: 人文科学研究所 准教授

専門分野: 文化人類学

研究テーマ: 西アフリカと南インドにおける宗教・自然・近代に関する人類学的研究

(略 歴)

1996年3月 北海道大学文学部卒業

1998年3月 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了

2002年3月 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了

2002年9月 博士(人間・環境学)の学位取得(京都大学)

2002年4月～2006年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)

2006年4月～2008年3月 一橋大学大学院社会学研究科専任講師

2008年4月～2010年3月 一橋大学大学院社会学研究科准教授

2010年4月 京都大学人文科学研究所准教授(現在に至る)

(受賞歴)

2007年6月 第2回日本文化人類学会奨励賞

2008年12月 第35回澁澤賞(公益信託澁澤民族学振興基金)

2018年2月 第14回日本学術振興会賞

(研究概要)

非西欧社会を主な研究対象としてきた人類学では、これらの諸社会が近代以降に経験してきた変容の諸相を、植民地化や市場経済化をはじめとする大規模な社会経済変化との関連において分析するという論調が主流を占めてきた。なかでも人類学の重要な研究テーマである呪術・宗教研究において、近年の非西欧社会における呪術や妖術の新たな勃興は、グローバルな政治経済状況に対するローカルな抵抗として、あるいは欧米を中心として全世界に浸透していくモダニティの新たな側面として論じられる傾向にある。これに対して本研究は、「近代西欧」の鏡像として非西欧社会の呪術・宗教実践を捉えるのではなく、具体的で詳細な事例の提示と分析を通して、当該社会における宗教実践の独自性を明らかにするとともに、さまざまな宗教実践の中に具現される、人々とその身のまわりの世界(=環境世界 *Umwelt*)との関係性を、「近代」という分析軸のみならず、自然(nature)ないし野生(wildness)という領域を含めて考察することの重要性を提起してきた。アフリカとインドという二つの地域を対象とする本研究に通底する問題意識と目的は、つぎのように要約できる。すなわち、①一見すると近代合理性と相反するようにみえる在来宗教の諸相を、地域社会のミクロな生活実践と歴史的変容の中で検討することによって、それぞれの社会において在来宗教の持続と変容を生みだしてきた独自の論理を明らかにするとともに、②近代合理的な論理や諸制度と宗教実践との再帰的な関係性を明らかにすることである。また、③自然環境と密接に結びついた在来宗教の動態を仔細に検討することを通して、近現代世界において人間はいかに自然=野生の領域と関係しており、その関係はどのように変容しているのかという普遍的な問題を探究することである。以上の問題意識の下、受賞者は西アフリカと南インドにおいて長期調査を行い、近現代世界における人間と自然、宗教実践の関係とその動態を明らかにしてきた。1999年から2007年にかけてはガーナ共和国南部で調査を行い、①地域社会における精霊祭祀の動態と政治経済変化の関係、②西アフリカにおける諸民族の越境的な移動と交渉の歴史、③宗教実践を通じた主体と環境世界の相互的な形成と変容について明らかにした。2008年以降は南インドに調査地を広げ、①地域の土地や自然と不可分に結びついた神霊祭祀と、地域社会における土地保有・母系制・ヒエラルキーとの関係、②近代法制度の変遷と宗教実践の変容、③大規模開発に伴う環境運動の興隆と神霊祭祀の新たな展開について調査研究を行い、その成果を刊行した。

【奨励賞】



【学生部門】
華井 明子

現 職: 医学研究科博士課程 3 年、日本学術振興会特別研究員(DC1)

専門分野: リハビリテーション科学

研究テーマ: がん化学療法に伴う副作用を予防する非薬物介入法の開発
(略 歴)

平成 21 年 3 月 京都大学医学部保健学科 作業療法学専攻入学 卒業

平成 21 年 4 月 医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院(作業療法士)

平成 26 年 3 月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程 修了

平成 26 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 DC1

平成 30 年 3 月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修博士後期課程 修了見込み

(受賞歴)

平成 27 年 2 月 3rd International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals Merit Award

平成 27 年 6 月 MASCC/ISOO International Annual Meeting Best Poster Award

平成 28 年 7 月 第 14 回日本臨床腫瘍学会 学会奨励賞

平成 28 年 9 月 第 15 回コ・メディカル形態機能学会 学会奨励賞

平成 29 年 3 月 5th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals Merit Award

(研究概要)

近年のがん治療においては予後延長だけでなく生活の質の維持向上が重視されている。そこで抗がん薬治療中の生活の質の向上を目指し副作用予防のための介入を開発した。

はじめに抗がん薬治療中の制吐薬誘発性便秘を予防するプログラムの効果検討を行った。

吐き気や倦怠感がある抗がん薬治療中はランニングなど一般的に知られる運動は負荷が強過ぎ、適度な運動方法は明らかになっていない。そこで化学療法中でも低負荷で簡便に実施できる「便秘を予防する適度な運動」のプログラム(マッサージ・体操・排泄姿勢のコントロール)を考案し、30 名の乳癌患者を対象にランダム化比較試験を実施してその効果を検討した。通常治療群と比較してプログラムを実施した介入群では抗がん薬治療中の便秘に関する自覚症状が有意に軽く、本研究によりプログラムが便秘予防に効果をもたらすことを明らかにした。

次に化学療法誘発性末梢神経障害(しびれ)を予防する冷却療法の効果検討を行った。

抗がん薬の副作用である手足の末梢神経障害(しびれ)は効果的な治療薬や予防手段がなく、一度発症すると長期にわたって患者の QoL を低下させることが知られていた。本研究では、抗がん薬点滴中に保冷剤でできたフローズグローブ・ソックスを装着して手足を冷却することで、手足の局所血流量および抗がん薬の到達量を減らし、抗がん薬による局所的な副作用を予防する冷却療法について効果を示した。本研究は世界で初めて CIPN の予防効果を示した臨床試験として多くの媒体で報道され注目を集めている。

がん化学療法に伴う副作用を予防する非薬物介入についてはエビデンスが少ない状況であるが、今後そのニーズは高まってくることが予測される。現在これらの介入方法がより多くの対象者に届くよう保険収載等に向けて活動を行っている。



【研究者部門】
三宅 可奈江

現 職：医学部附属病院 放射線診断科 特定病院助教

専門分野：画像診断・核医学分野

研究テーマ：乳癌の画像診断：PET による機能診断とマルチモダリティイメージング

(略 歴)

2002 年 3 月 京都大学医学部卒業

2013 年 3 月 博士(医)学位取得(京都大学)

2013 年 4 月 京都大学医学部附属病院・放射線診断科・特定病院助教

2013 年 10 月 Stanford University・Dept. of Radiology・Visiting Assistant Professor

2017 年 7 月 京都大学医学部附属病院・放射線診断科・特定病院助教

(受賞歴)

2005年 京滋乳癌研究会 学術奨励賞

2010年 Global GCOE Program“Center for Frontier Medicine” Travel Award

2012年 Global GCOE Program“Center for Frontier Medicine” Travel Award

2013年 Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2013, Poster Award

2016年 京都大学医学部附属病院 放射線科 さんさん会賞

(研究概要)

本邦において乳癌の罹患率・死亡率は増加し続けている。また、本邦での 30 歳代から 50 歳代までの女性の癌死原因の第 1 位であり、職場あるいは家庭で中心的役割を担う年齢層の女性をおかす疾患として社会的な問題でもある。陽電子放出断層撮影法(PET)検査は陽電子放出核種で標識した放射性医薬品を体内に投与し、その集積分布を体外より描出できる核医学検査の一つである。しかし従来の PET 装置は空間分解能が低く、比較的サイズの小さな乳癌原発巣の評価には限界があった。そこで、高分解能型乳房専用 PET 装置の開発に携わり、装置・画質の検証・適正化を重ねて、乳癌患者において詳細な腫瘍集積を描出させることに成功した。また、腫瘍 PET 検査において本邦で唯一保険適応となっている FDG を用いて、乳癌における PET の臨床的意義やその特徴を多角的に検証した。将来的には PET は癌の病態形成に関わる様々な分子のイメージングを可能にしうる特異的な画像検査と考えており、FDG 以外の PET 製剤の応用にも取り組んでいる。また、米国にてマンモグラフィ、超音波、MRI などの従来の乳癌画像検査法についても研鑽を積み、参考書執筆などの教育活動や、PET と癒合せたマルチモダリティイメージングにも取り組んでいる。PET を交えた乳癌画像診断の進歩は、乳癌診断の向上とより適切な治療戦略の実践に繋がるものとして臨床的価値が大きいと同時に、乳癌の病態解明に貢献しうるものと期待される。

講義・ゼミ

■ILAS セミナー「ジェンダーと科学」

平成29年度のILASセミナー「ジェンダーと科学」では、1回生を対象に少人数での講義、討論などを通して、ジェンダーについての基礎知識や考え方を身につけました。講師3名で講義を行いました。

回	講義日	氏名(所属)	テーマ
1	4月11日	竹内 里欧(教育学研究科)	ILASセミナーの目的と内容について
2	4月18日	〃	ジェンダーと科学(1)
3	4月25日	栗屋 智就(医学研究科)	ヒトの発生・発達から考えるジェンダーと性差(1)
4	5月2日	〃	〃(2)
5	5月9日	〃	〃(3)
6	5月16日	〃	〃(4)
7	5月23日	山内 淳(生態学研究センター)	性の進化について(1)
8	5月30日	〃	〃(2)
9	6月6日	〃	〃(3)
10	6月13日	〃	〃(4)
11	6月20日	〃	〃(5)
12	6月27日	竹内 里欧(教育学研究科)	ジェンダーと科学(2)
13	7月4日	〃	〃(3)
14	7月11日	〃	討論とワーク・ショップ

火曜日5限(16時30分～18時)、男女共同参画推進センター会議室にて



■全学共通科目「ジェンダー論」

落合恵美子教授の全学共通科目「ジェンダー論」では、現代日本のジェンダーを広い視野に位置づけて理解し、課題解決の方法について自ら考える力を養いました。また、ゲストスピーカーをお招きし、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブ、日本及び世界の他の地域のジェンダーの状況や課題についてお話をうかがいました。



女子高生・車座フォーラム 2017

京都大学を知ろう 研究者と語ろう



京都大学の受験を目指す女子高校生の皆さん!

受験の前に京大の教育・研究を知り、
研究者や大学院生・学部学生と話をしませんか?

2017.12.23 (土・祝) 10:00-17:00

会場 京都大学国際科学イノベーション棟
シンポジウムホール、他

募集定員 女子高校生100名程度 (先着順)
保護者50名程度

主催 京都大学男女共同参画推進センター

共催 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

申込方法

男女共同参画推進センターホームページを
ご覧いただき、申込んでください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

申込期間 2017年9月25日(月)~11月24日(金)

お問い合わせ 606-8303 京都市左京区吉田橋町
京都大学男女共同参画推進センター-mail:
w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp tel:
075-753-2437

女子高生・車座フォーラム2017

京都大学を知ろう 研究者と語ろう

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、色々な疑問をお持ちのみなさん、京都大学の企画する「女子高生・車座フォーラム2017」にいらっしゃいませんか？

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと「京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。フォーラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域があるのか、なぜ今の分野を選んだのかといった大学進学に関わる話をはじめ、研究の面白さや苦勞、専門職や研究職など大学卒業後の将来設計のための心得、あるいはまた、具体的に、たとえば子育てと研究生活の両立方法、研究論文の執筆や学会発表といった研究者の仕事内容など、さまざまなテーマについて、教員や大学院生、学生が疑問にお答えします。

保護者の方々の参加も募集します。どうぞ奮ってご参加ください。

プログラム

10:00~10:30	受付
10:30~10:35	開会の挨拶
10:35~10:55	京都大学の紹介
10:55~11:10	入試に関する説明
11:10~11:30	女性研究者の講演
11:30~13:00	昼休憩
13:00~13:40	講師紹介・グループワークの説明・移動
13:40~15:00	グループワーク「車座になって話そう」 ●校生 講師・京大生とのグループワーク ●保護者 京大生との交流(13:30~15:00)
15:00~15:10	移動(休憩)
15:10~15:50	まとめ
15:50~16:00	休憩
16:00~17:00	入試に関する質疑応答

グループワーク希望学部

- (A) 文学部 (B) 教育学部 (C) 法学部 (D) 経済学部 (E) 理学部
(F) 医学部(医学) (G) 医学部(人間健康科学) (H) 薬学部 (I) 工学部
(J) 農学部 (K) 総合人間学部(文系) (L) 総合人間学部(理系)

お持ちしています！

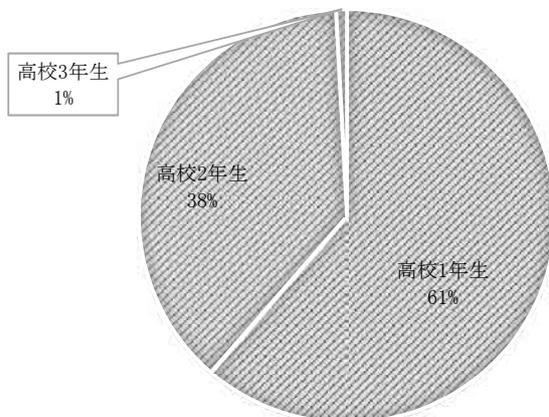


■車座フォーラム参加者アンケート1

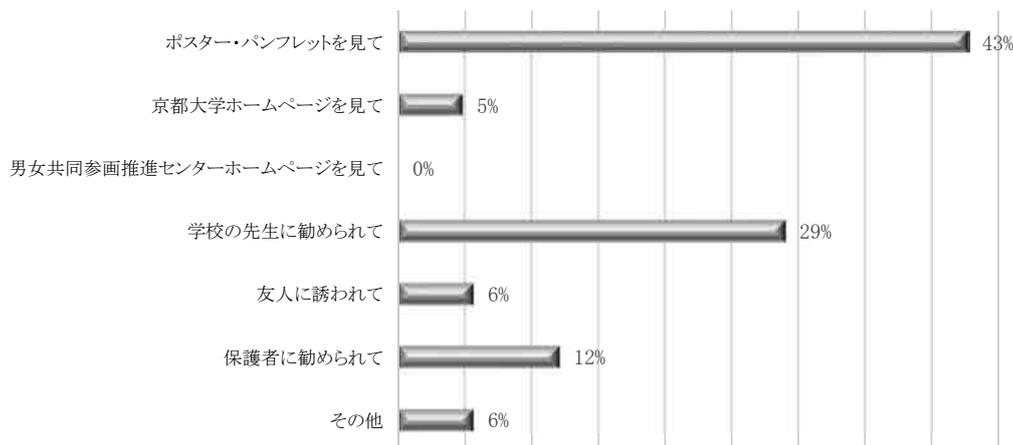
高校生

あなたの学年を教えてください。

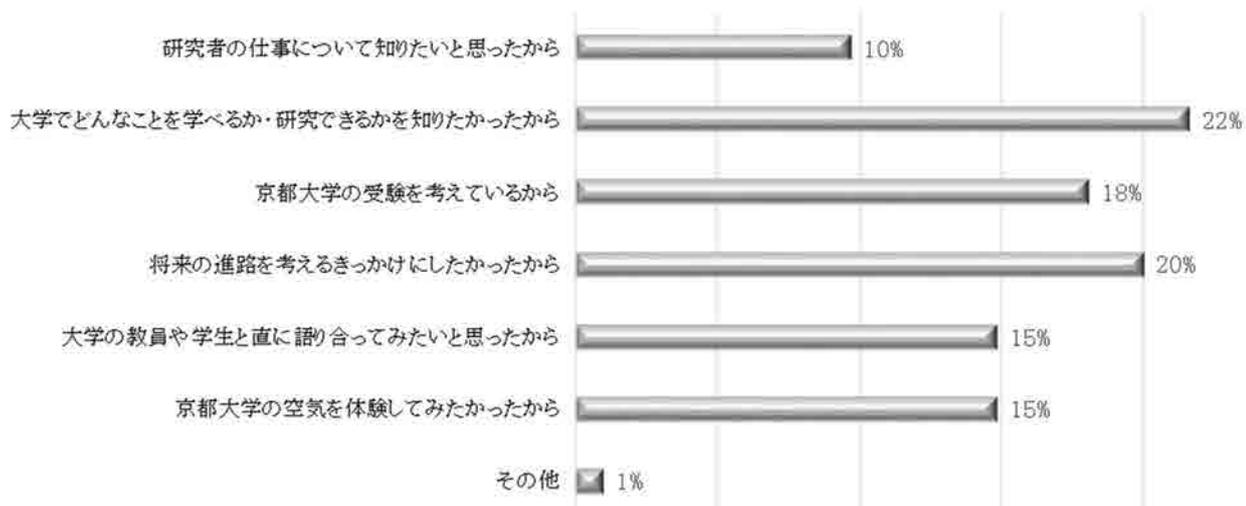
■ 高校1年生 ■ 高校2年生 ■ 高校3年生



あなたはこの車座フォーラムを何でお知りになりましたか？

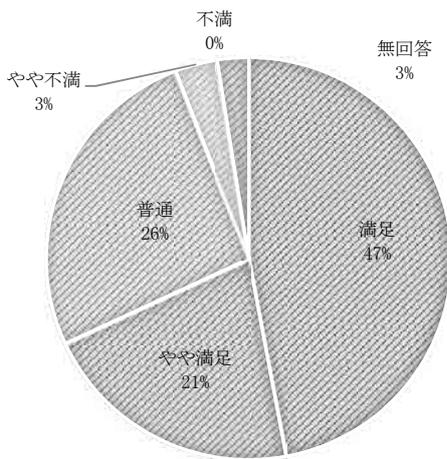


あなたがこの車座フォーラムに参加しようと思った動機は何ですか？(複数回答可)



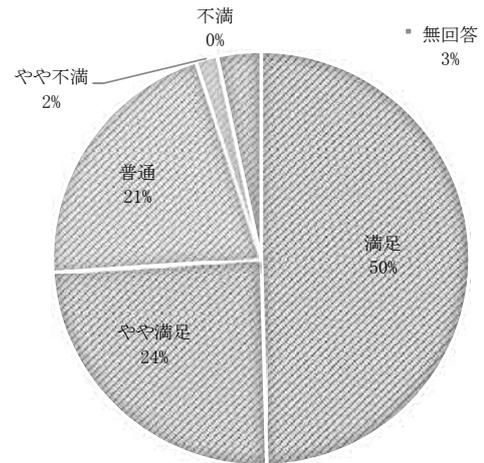
京都大学の紹介

■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■無回答



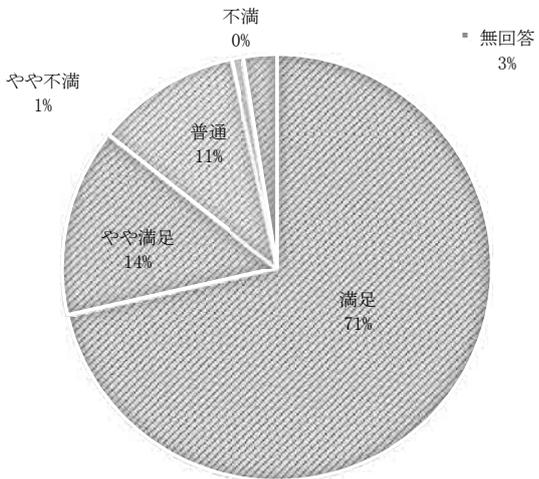
入試に関する説明

■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■無回答



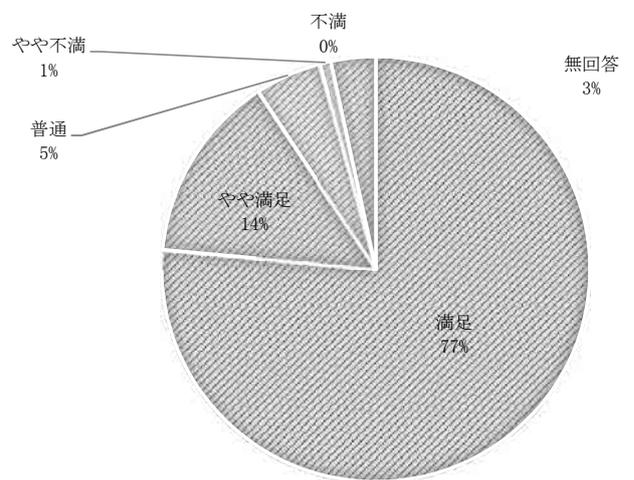
女性研究者の講演

■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■無回答

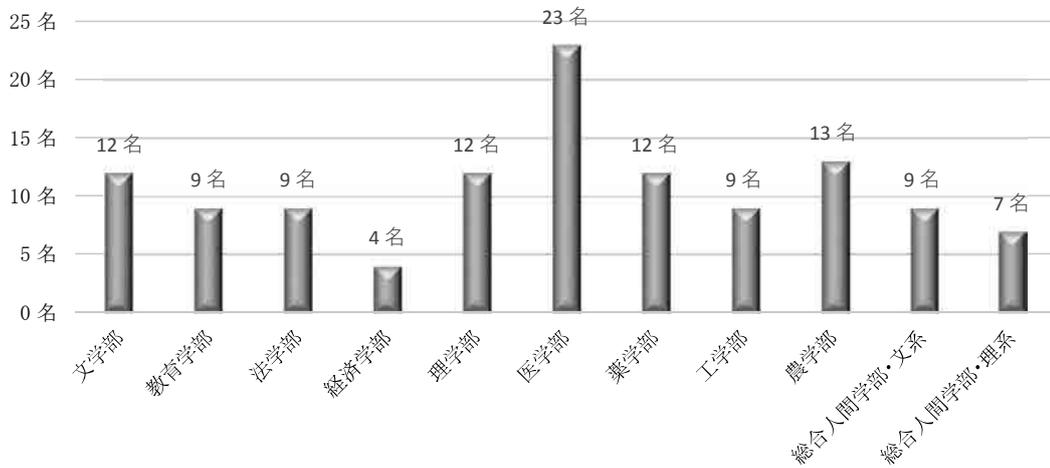


グループワーク(午後)

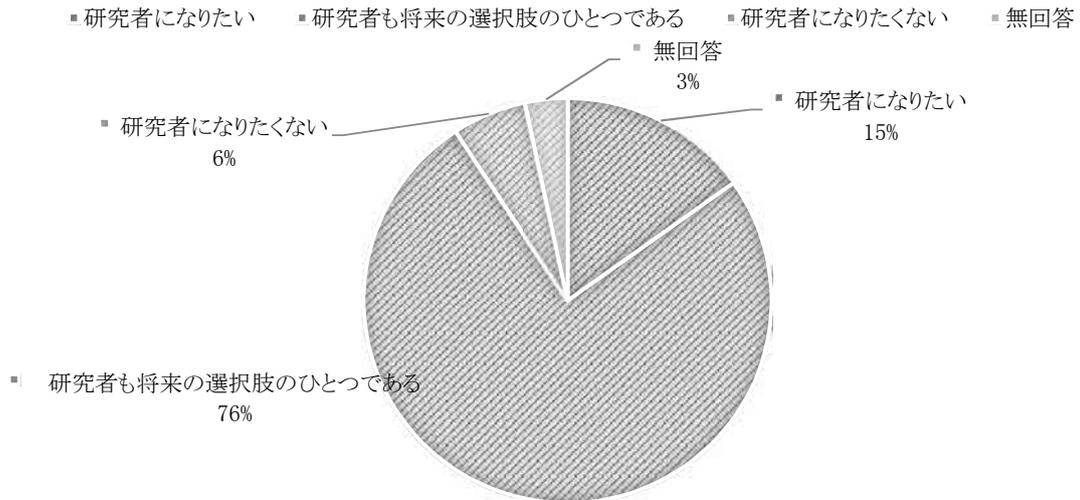
■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■無回答



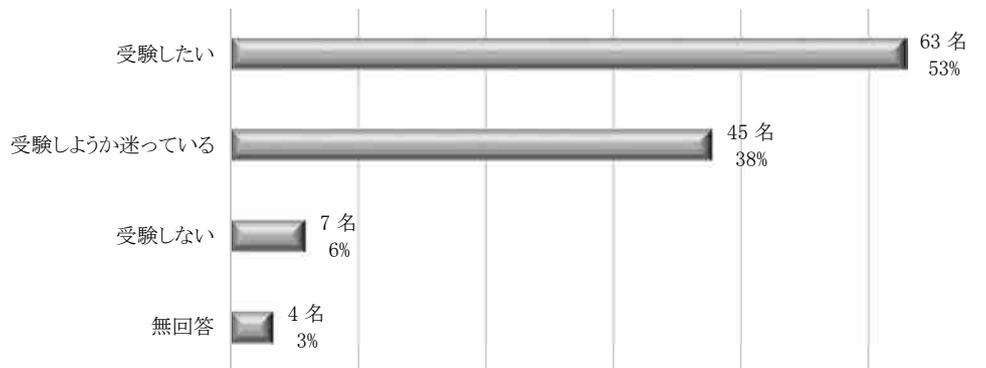
グループ討論希望学部



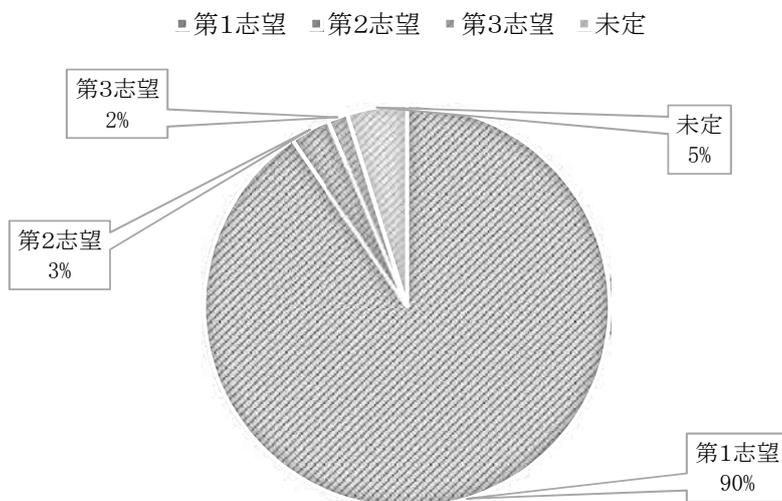
このフォーラムに参加して、将来、研究者になりたいと思えましたか？



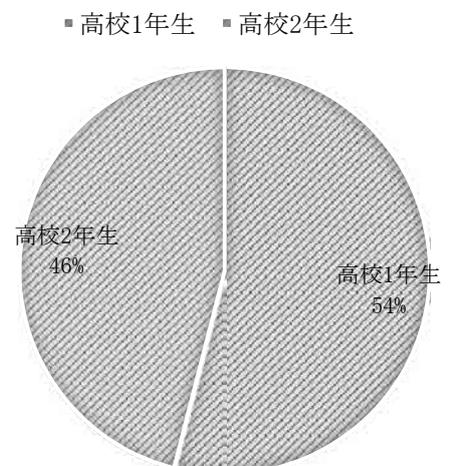
このフォーラムに参加して、京都大学を受験したいと思えましたか？



受験志望者

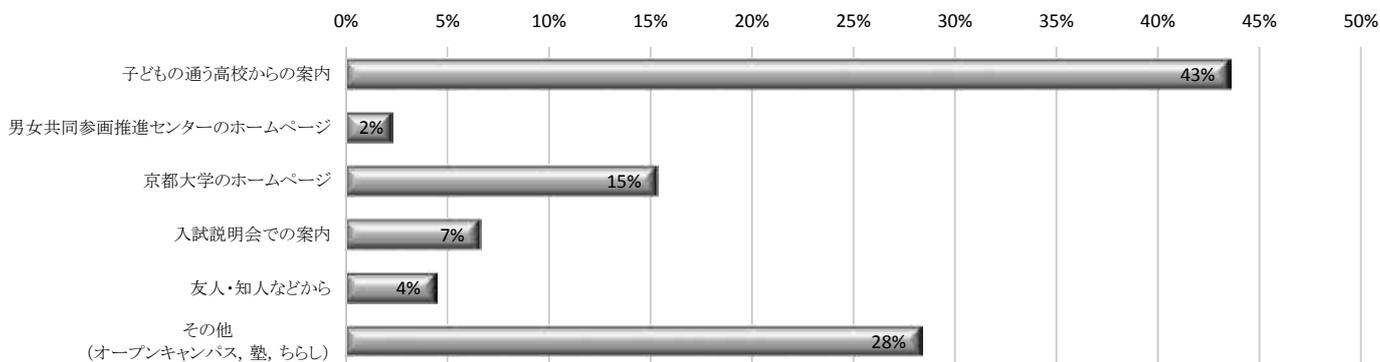


学年別受験志望者

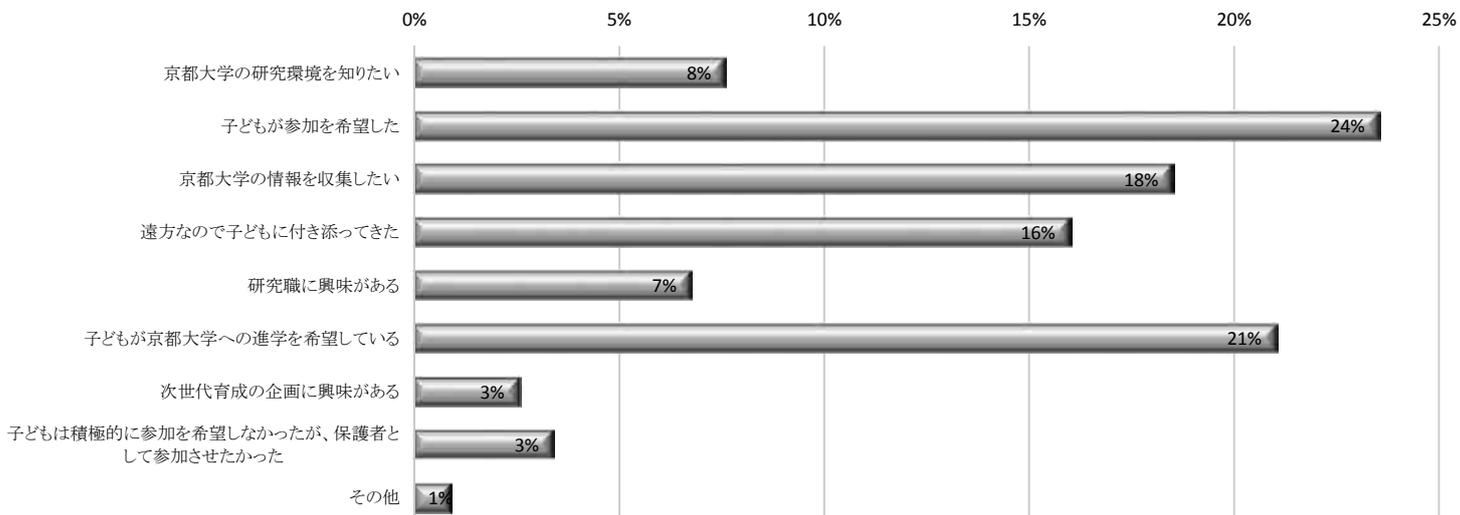


保護者

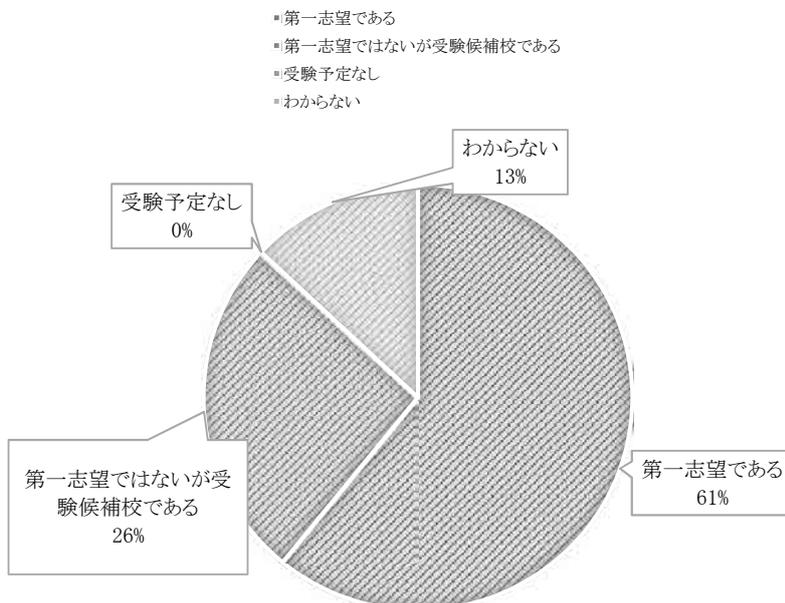
車座フォーラムを知ったきっかけ(複数回答)



参加の動機(複数回答)



子どもの京都大学受験について



■車座フォーラム参加者アンケート2

高校生より

- ・とても楽しかったです。研究についての具体的な説明も、学生さんの日常生活の様子も、インターネットを開いても聞けないようなことをたくさん聞くことができ、嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・私が参加した教育学部は京大の全学部の中で1番教授の方の女性の割合が高いと伺ったので、私のやりたい学問の研究をする際には「女性だから」という条件はデメリットよりメリットの方が多いように感じました。グループワークは、わきあいあいとした雰囲気、みなさんが大学について、また学問についてすごく積極的に質疑応答をしていたので、疑問に思っていたことをすっきりできたことはもちろん、この先生や学生さんたちの中で勉強したいと強く思いました。
- ・研究とは難しく、簡単にはできないと思っていましたが、興味を持ったことに徹底的に向き合い、まずはやってみることで成果がでるものなのだと分かり、とても関心がわきました。また大学では、人の役に立つ研究を行っていることが分かり、将来へと繋がる研究でもあることを知ることができました。グループワークでは、教授さん学生さんがどんな質問にも丁寧に答えて下さってたくさんを知ることができ、ますます京都大学が魅力的に感じられました。
- ・学部で学ぶ学問が、将来的に自分にどのように役に立つか、実生活でどのように生かされるのかを講師の方から伺えて、魅力を感じました。とても有意義な時間になりました。ありがとうございました。
- ・研究の事や留学、大学生活などを聞かせていただき、自分の大学へ入った後やその先の就職将来のことなどを深く考えるにあたって、抽象的だったものが具体的に考えるきっかけになったと思います。
- ・医学科に進みたいと思っているので、池田先生の講演、お話にはとても興味を持ちました。外科、スポーツドクター、眼科、耳鼻科には元々興味が多かれ少なかれあったのに対し、他の科には一切なかったんですが、今日義村先生のお話を聞けば聞くほど精神科も良いなと思い始めました。本日は貴重な体験をありがとうございました。
- ・研究者の皆さんのお話をきいて、それぞれ仕事とプライベートをうまくバランスをとってやっていて、自分の将来についてポジティブなイメージをふくらませることができました。
- ・グループ討論の中で、女性の仕事と出産、結婚について話題になりましたが、想像していたよりも大変な両立ではなく、自分で時期を考えて、周りのサポートを受けながら活躍していくことは可能だと分かりました。女性差別問題がよく取り上げられる世の中ですが、確実に女性の立場は良い方向に向かっていると実感しました。
- ・研究には興味があるけれど、博士課程までいくと30歳手前までなってしまう。というのが大変かなと思っていました。今日、長い人生の中の数年間とおっしゃっていたのが、印象に残り、少し気が楽になったので、あとはどれくらいつきつめたいと思えることができるかなと思いました。
- ・今まで思い描いていた薬学部と京都大学の薬学部を重ね合わせながらお話をお聞きしました。ネットなどで見ていた限りでは知り得ないほど詳しいことを直接知ることができる良い機会になりました。
- ・まだ、世の中で男性の活躍が目立つが、その中でも女性の活躍を知ることができて、私もそうなりたいと思いました。京都大学の魅力がすごく伝わってきていい刺激になりました。ありがとうございました。
- ・医・工とかの連携→これからの時代。将来的に考えると、たくさんの学部と融合している。つくりだす→工学部 今回の車座フォーラムで、現代学生の生の声、先生の生の声が聞けて本当に楽しかった。いろいろな話が聞けて、生半可な考えで学部を選ぶのは誤りだと分かりました。今回の集まりは良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・実際の立場の方から意見を聞くのはとても興味深く面白かったです。この機会のおかげで、多少なりとも視野が広がったように思います。素敵な催しを開いていただき有難うございました。
- ・近年、物理、化学、生物といった境界がなくなってきたという話を耳にしたことがあるのですが、工学部の方々の話を聞いていても本当にそのことを感じました。いろいろなお話が聞けて有意義でした。
- ・高校とは違って、自分の興味のあることを自由に研究できるスタイルには、とても魅力を感じました。男女共同参画社会を推進していく今後、女性研究者が活躍できる場も増え、今までにないような女性ならではの視点からの研究も増えていくと良いと思いました。
- ・もともと京大を第1志望に考えていたが、理系に進んだ女子学生はどのような進路を進むのか上手くイメージできず、学部も決めかね

ていたためすごくいい機会だった。研究者は向いていないかも思っていたが今日参加してみて、イメージが変わった。自分の進路のひとつとして真剣に考えてみたい。

- ・ 大学でしている研究や研究者としての仕事とか、とても分かりやすく説明して下さい、イメージが湧いた。学部の特徴なども分かって、これからの進路選択に役立たせたいと思う。研究者になることについてくわしく考えたことはなかったけど、それも選択肢のひとつだなと感じた。
- ・ 研究者になるという道や、他の仕事にもつく道など様々なことを視野に入れてたくさん悩みたいと思います。他人の考えや流行などに流されず、自分という個人で何をしたいか、やってみたいことをしっかり考えて勉強していきたいです。
- ・ 農学部での研究は、理学部や工学部として共同して行っているという事をはじめて知りました。女性は結婚や出産もあり、研究職に就くのは難しいというイメージを持っていましたが、小杉先生のお話を聞かせて頂いて、私も研究職について興味を持ちました。全体での池田先生のご講演はとてもおもしろかったです。生物に興味があるので、もっと詳しいことを知りたかったです。グループワークでは書いた質問に全て丁寧に教えてくださったので、京大についてたくさん知ることができ、京大生になりたい気持ちが高まりました。ありがとうございました。
- ・ 何らかの目的をもって、やはり研究を続けていたり、それが他の人のためになっているという結果がでる、ということが分かってよかった。実際にどんなことをしているかを聞くことにより、研究者に対するイメージが少し明確になった。

保護者より

- ・ 1年生で文理選択するので、12月という時期はとても良かったです。開始時間についても、遠方からの参加者への配慮がありありがたかったです。
- ・ ゆっくりと時間をとっていただき、子供にとってはこれ以上ない将来への道標となったのではないかと思っています。親はいつ、子どもの手を離せばいいか再度、考えさせられています。遠方からの参加です。
- ・ 京大のことがわかってきました。娘が志望したい気持ちも納得できます。この恵まれた環境で好きな研究をさせてあげたいと思いました。
- ・ 検索サイトの教育に関するページに車座フォーラムの案内があったので、参加することになりました。あらゆる媒体に開催告知があるとうれしいです。(高校を通じての案内がなかったため)オープンキャンパスもいいですが、女性ならではの視点からのお話が大変興味深かったです。
- ・ 実際に生の学生さんに答えていただいたので、とても解りやすかったです。いまだに受験に対して漠然としたイメージしかなかったのが不安でしたが、京大生の皆さんも高3くらいまで悩んでいたお話を聞いて安心しました。
- ・ 少人数でじっくり話を聞く機会は大変貴重で、しかも女子学生にフォーカスを当てた企画を継続的に実施いただいているのは、さすが京都大学という思いです。ありがとうございました。学生の皆さんも、保護者の様々な質問に丁寧で誠実に答えていただき、人間としても素晴らしい方々ばかりで、そんな中で学生生活を送れたら素晴らしいという気持ちに本人もなったと思います。具体的な勉強の内容やサークル活動など、ここでしか聞けないようなお話をたくさん伺えて有意義な一日でした。来年は志望もある程度決まっていると思いますので、是非また参加させたいです。
- ・ ていねいに、ご準備いただき、大学の情報・状況を生で感じることができました。又、学生さんたちが、正直に、研究生活について語って下さり、学生生活の充実をうかがえました。
- ・ 参加してとても良かったです。特に学生さんの生の声はとても参考になりました。地方の高校生ですが、思い切って参加して良かったです。
- ・ 研究職のイメージ(勝手な)世間から隔たりのある所で、何の役に立つかわからない事をやっている世界(もちろん役立つ事も有るには有るが)と思っていたが、池田先生の講話はそのイメージを完全に覆すものでした。心の底から感動し、また自分の無知を痛感しました。人は1人では生きれない。人のために生きる事のすばらしさを教えていただきました。ありがとうございました。

第12回女子中高生のための 関西科学塾 参加者募集

6/18 (日) 締切

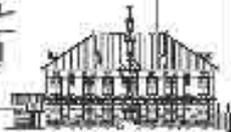
数学や理科が得意かどうかなんか関係ない
まずは **楽しい!** ということを感じてほしい

全参加でも、部分参加でもOK! A~Eは無料。Fは6000円(宿泊費・食費等)

A

奈良女子大

2017年 **7/30** (日) 午後
企業や大学で活躍する女性研究者による講演&理系大学生との交流会。
講師：自動車機器開発 三菱電機株式会社 池上季美果さん、他。【定員100名】
身近なロールモデルと気軽に話そう!



B

神戸大

2017年 **8/3** (木) 午後
神戸大の練習船「深江丸」で体験クルージング。船を使った実験の解説、海事科学部の女子大生との交流など。【定員40名】

大海原に飛び出そう!



C

2017年 **10/15** (日) 午後
小グループに分かれて実験。実験コースは裏面参照。
【定員220名】



大学の研究を体験!

大阪大

大阪府大

大阪市大

D

2017年 **11/19** (日) 午後
小グループに分かれて実験。実験コースは裏面参照。
【定員250名】



大学の研究を体験!

京都大

神戸大

E

2017年 **12月上旬** (土) 午後
(日は後日BHPで公開)。見学会、企業で働く技術者との交流会。農業機械、水道用鉄管のトップメーカー クボタ。
【定員100名】科学で広がる世界を見よう! 科学の現場で働く女性技術者と交流しよう!



奈良女子大

Kubota

F

2018年 **3/17** (土) ~ **18** (日)
実験から、結果の整理、考察、発表準備、発表まで。1泊2日の充実の2日間。【定員80名】

実験の背景にある原理現象を理解!



奈良女子大



問い合わせ先: 奈良女子大学 関西科学塾事務局 E-mail: kagakujuuku_office@cc.nara-wu.ac.jp (詳細は裏面参照)

主催: 奈良女子大学(理学部、理系女性教育開発共同機構、男女共同参画推進機構)

共催: 京都大学(男女共同参画推進センター、理学研究科)、大阪大学、神戸大学、大阪府立大学、

大阪市立大学、一般社団法人日本物理学会、サイエンス・サポート・アソシエーション

連携: 株式会社クボタ、ダイキン工業株式会社、NPO法人あなたらしくをサポート、一般社団法人ナレッジキャピタル、堺市教育委員会

後援(申請中): 大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、大阪市教育委員会、京都市教育委員会、豊中市教育委員会、伊丹市教育委員会

協力: 男女共同参画学協会連絡会、日本分子生物学会、日本連理学会、日本数学会、日本金属学会、近畿化学協会

※本事業は国立研究開発法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラムの受託事業です。



申込方法 1

関西科学塾ホームページの申込フォームからお申し込みください。
<http://kagaku-juku.jp/>



HPのURL



申込方法 2 (ホームページが見られない場合)

次の内容を書いてメールでお申し込みください。

申込先：関西科学塾 <kagaku_juku_office@cc.nara-wu.ac.jp>

①参加者氏名 ②氏名(ふりがな) ③生年月日(西暦で) ④学校名 ⑤中学? 高校?

⑥学年 ⑦郵便番号 ⑧住所(都道府県から記入) ⑨E-mail(必ず連絡がつくもの)

⑩電話番号 ⑪希望日程(表紙のA~Fから選んでください。いくつでもOK。)

⑫日程毎に同伴者(保護者・教員)の有無・・・B日程乗船は生徒のみ。同伴者は陸上で別イベントあり。



メールアドレス



申込方法 3 (ホームページを見ることもメールもできない場合)

上の内容を書いて、下の問い合わせ先に郵送でお申し込みください。



【重要事項】

- ① 連絡は基本、メールでします。必ず科学塾メールアドレスを受信できるように設定してください。特に携帯の方は要注意。(メールができない方は個別に相談にのります)
- ② 申込方法 1, 2 の方へは受付ID番号をメールで送ります。1週間以内に返信のない場合は受信設定を確認の上、メールでその旨科学塾に連絡してください。ID番号を再送します。
- ③ 申込者多数の場合は抽選を行います。6月末頃に抽選結果と各日程の資料を郵送します。
- ④ C, D, F 日程の抽選合格者には、後日、実験コースの希望調査をします。

問い合わせ先：(メール連絡がお勧めです)

住所：〒630-8506 奈良市北魚屋西町

国立大学法人 奈良女子大学 関西科学塾事務局

e-mail: kagaku_juku_office@cc.nara-wu.ac.jp

Tel: 0742-20-3385

D日程に予定している実験コース 京都大学(中学生)

- ・太陽のにじいろを見よう
- ・「にじいろ」を見よう
- ・高温超伝導を体感してみよう
- ・GPS観測で地球の動きを知る
- ・砂の作る形と模様
- ・野菜などの色の分離実験
- ・DNAとはなにか-DNAに関する基礎実験
- ・電波に耳を傾けよう
~ゲルマニウムラジオの製作にチャレンジ~
- ・イケジョ(医系女子)のお仕事: ヒトを科学する!
- ・地下を"掘らず"に探ってみよう!
- ・私たちは土を食べている
- ・南極の水と石を触ってみよう
- ・生物のミクロの世界を実体験!
~身近な微生物を光学顕微鏡や電子顕微鏡で観てみよう~
- ・みてわかる生物学
~クラゲの蛍光タンパク質で生命をみる~
- ・カオス・フラクタルの世界を知る
- ・蛍光顕微鏡で細胞をみる、染色体をみる
- ・RNAはストレスを感じる?

神戸大学(高校生)

- ・自分だけの香水をつくらう
- ・南海トラフ地震の揺れはどんなに強いのか
- ・水中のDNAを使って魚の生息数を推定する
- ・身の回りの小さな世界~微生物を見よう~
- ・動物の感覚-昆虫の目・鼻・口や脳を見よう~
- ・お酒の強い人、弱い人
- ・赤外線でプラスチックを調べてみよう
- ・X線で見える宇宙 - 爆発した星を探る -
- ・植物のお医者さんになろう ~ 森林と畑の病害診断 ~

C日程に予定している実験コース 大阪府立大学(中学生)

- ・コンピューターシミュレーションを体験しよう
- ・シャーロック・ホームズの体験: ルミノール反応
- ・光と色のサイエンス ~ 回折格子で見る光の虹 ~
- ・DNA鑑定: 遺伝子で身元を突きとめる
- ・エネルギー変換デバイスをつくらう!

大阪府立大学(中学生)

- ・LEDの性質を調べよう!
- ・温めて水を凍らせる? ~ 賢いポリマーの世界 ~
- ・地球を構成する鉱物
- ・色の科学: 色はどうやって測るのか?
- ・吸水性ポリマーを使いこなそう!
~ 水を吸う原理から応用まで ~

大阪大学(高校生)

- ・きれいな水を作るには
- ・再生エネルギー社会の実現をめざして!
~ エネルギー変換デバイスの実験
- ・混ぜると不思議! 電気を流す有機化合物
- ・「ブリッジコンテスト」で学ぶ強くて安い構造物のつくり方
- ・DNAとタンパク質 1 分子を顕微鏡で見よう!

今年度もA~F日程以外に、大学の外で実験教室やサイエンスカフェ、講演会など、小・中・高校生及び保護者対象のイベントを多数計画しています。時々HPをご覧ください。
【関西科学塾ホームページ】 <http://kagaku-juku.jp/>



京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式



京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の表彰式が3月3日（金）、京都大学国際科学イノベーション棟5階シンポジウムホールにて行われました。たちばな賞は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者を育成することを目的として創設され、今回で第9回目となります。

はじめに、伊藤 公雄男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、男女共同参画推進センター長の稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。

次に、山極 寿一総長よりたちばな賞 学生部門受賞者の中塚 祐子氏（工学研究科 博士課程3年）、研究者部門受賞者の池田 華子氏（医学部附属病院 准教授）へ表彰状と記念楯が授与され、株式会社ワコールの安原 弘展代表取締役社長より副賞の「ワコール賞」が授与され

ました。続いて、優秀女性研究者奨励賞 学生部門受賞者の久保田 結子氏（工学研究科 博士課程2年）、仲間 絢氏（人間・環境学研究科 博士後期課程3年）、研究者部門受賞者の中谷 加奈氏（農学研究科 助教）へ山極総長より表彰状が、安原社長より副賞が授与されました。研究者部門の受賞者クロイドン シルビア アタソヴァ氏（白眉センター 特定助教）は欠席のため、受賞の紹介のみがありました。続いて、山極総長、安原社長が受賞者へ祝辞を述べました。

その後、たちばな賞受賞者の中塚氏、池田氏による研究発表が行われました。

最後に、川添 信介理事・副学長より閉会の挨拶があり、表彰式及び研究発表会は盛会のうちに終了しました。



たちばな賞 優秀女性研究者奨励賞 受賞者

たちばな賞（優秀女性研究者賞）

部 門	氏 名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	中塚 祐子	工学研究科 博士課程 3 年	アモルファス酸化物の磁氣的、磁気光学的性質
研究者部門	池田 華子	医学部附属病院 准教授	難治性眼疾患に対する新規神経保護治療法の開発

優秀女性研究者奨励賞

部 門	氏 名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	久保田 結子	工学研究科 博士課程 2 年	非線形波動粒子相互作用による放射線帯電子フラックスの急激な消失・生成過程の研究
学生部門	仲間 絢	人間・環境学研究科 博士後期課程 3 年	バンベルク大聖堂彫刻群と『雅歌』の花嫁神秘主義
研究者部門	クロイドン シルビア アタナソヴァ	白眉センター 特定助教	日本と東アジア域内外における人権の衝突と擁護をめぐる多元的理解と課題解決に向けた学際的研究
研究者部門	中谷 加奈	農学研究科 助教	土石流による具体的な被害状況の検討

平成 29 年度第 1 期研究・実験補助者雇用制度 利用者決定

平成 29 年度 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、17 名（女性 13 名、男性 4 名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは出産・育児・介護等で、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を

補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年 2 回（6 月、12 月）です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

伊藤 公雄支援室長 退任の挨拶

出身大学だった京都大学に「戻った」のは 2005 年。ちょうど、京大でも男女共同参画の動きが始まった時期だった。かなり若い頃から、男性性というジェンダーの視座から、性差別の問題やジェンダー平等政策を研究課題のひとつとしてきた私にも（幸いだったのか不幸だったのかわからないが）、いろいろ仕事が回ってきた。そもそも移動したその年に、男女共同参画企画推進委員会が設置された。すぐにメンバーとして、京大における男女共同参画の理念や基本方針などの策定にかかわることになった。

翌年、JST の「女性研究者支援」のプログラムの募集が開始された。申請段階からかわり、採択後は、女性研究者支援センターの推進委員として、主に広報などを担当した。その後は、男女共同参画推進室のメンバーとして、アクションプラン作りなどにも関与し、結局、在職中の 12 年の間、この課題とつきあうことになった。

大学におけるジェンダー平等問題は、今や国際的にも共通認識となっている（やがて、大学のランキングにもジェンダー項目が入るだろうと、かなり以前から書いたりしゃべったりしてきた）。とはいえ、日本の場合、まだまだ目に見えるような変化は生まれていないように見える。メルティング・ポイントに達することができれば、一気に流動化し始めるとは思うのだが、なかなか先が見えないのだ。

とりあえずは、できることを一歩ずつということだろうと思う。定年後に勤務している京都産業大学でもダイバーシティ推進室長を任命された。京都大学とも連携しつつ、大学の男女共同参画推進の加速を実現したいものだと思っている。



平成 28 年度 ワーキンググループ活動報告

広報・相談・社会連携事業 WG

主査 今村 博臣 (生命科学研究所)

広報事業では、3月10日に Women and Wish フォーラム3「男女共同参画に向けた研究者と大学のダイアログ」を女性教員懇話会との共催で行った。基調講演に続いて、総長との意見交流をおこない、京都大学の Window 構想における本センターが果たすべき役割を再確認した。

社会連携事業としては、関西の他大学との連携で第11回女子中高生のための関西科学塾を開催した。京都大学では、11月20日に実験講座を行った。また、12月23日には女子高生・車座フォーラム2016を学内に開催した。両イベントとも多数の高校生および保護者が参加し、次世代の女性研究者としての役割を担う世代に、早い段階から大学の教員や学生と交流する機会を提供することができた。

そして、センターの活動について、ウェブサイトやニュースレターを通して、学内外に広報活動を行った。ウェブサイトについては、大幅に刷新した。

育児・介護支援事業 WG

主査 小西 由紀子 (理学研究所)

当ワーキンググループは京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っています。今年度は4月に男女共同参画推進センター内に待機乳児保育室を開室いたしました。ここでは京都大学の学生・研究者を対象として、認可保育所に入所できなかった生後15ヶ月までのお子さんをお預かりしています。当保育室の利用状況を見ますと、2017年2月、3月には利用者数は定員18名に達しており、依然として年度途中での保育所入所は厳しい状況であることを感じます。また男性利用者の割合は約3分の1であり、男性研究者からのニーズも高いことがうかがえます。留学生や外国人研究者の利用者も増えています。

利用者の中には、月齢制限のために、お子さんの保育所が決まらないまま退室せざるをえない方も少なからずおられます。京都市の一時保育などはほぼ空きがないようですので、そのような方への支援対策は今後の課題です。

病児保育事業 WG

主査 足立 壯一 (医学研究所)

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」(以下、病児保育室)は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供(生後6ヶ月から小学校3年

生)を対象とし、急な疾病により保育園/幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っています。事前登録制による運用で、登録者数はのべ913名、うち平成28年度の新規登録者102名と年々増加しています(平成28年12月末現在)。定員は5名(感染隔離室1名を含む)であり、平成28年度は597名の利用がありました(平成28年12月末現在)。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日もしばしばみられますが、利用者からは概ね良いご意見をいただいています。また、今年度も京大病院オープンホスピタルでのポスター掲示やホームページ等を通じての広報活動も継続して行いました。

保護者からの保育許可基準の引き下げを求める要望を受けて、京都大学医学部附属病院感染制御部の承諾を得て平成28年4月より利用基準(利用開始時間)を変更したところ、利用率は増加傾向にあります。また、予約時間や事前登録方法の見直しも行った結果、より利用しやすくなったという声をいただいています。感染対策上、困難な点もありますが、京都大学職員・学生が育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要があると考えています。

就労支援事業 WG

主査 佐藤 亨 (情報学研究所)

本WGの主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の実績は、第1期で応募者27名、利用者18名、第2期で応募者31名、利用者19名と、時期により変動はあるもののここ数年増加傾向にある。予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。

雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。

連載：研究者になる！－第60回－

研究者に「なった」！

教育学研究科・教授 桑原 知子

私はこの「研究者になる！」のコーナーが好きで、いつも楽しみに読ませていただいている。これまで書かれてきた方たちの多くは、「早くからこの道をめざしていて、夢がかなった」というより、「思いもかけず今の道に進むことになった」と書かれていて、また、「自分の力というより、他の人のおかげで今の自分がある」と振り返られているのが印象的だった。

ご多分に漏れず、私もまた、こんな人生をたどるとは、夢にも思っていなかった。そして、やはり、恩師（河合隼雄先生）との出会いが今の自分を作っているように思う。

現在私は「臨床心理学」を専門とし、カウンセリングや心理療法に携わる仕事をしているが、高校時代にはこんな領域があることすら知らなかった。高校では理系のクラスにいて、大学は理系を受験したのだが、見事に失敗。高校の恩師は、国語の成績だけが群を抜いてよかった私に「お前は国語の教師になるべく生まれてきたのだ」と言った。結局私は文系に方向転換し、国文学を専攻する大学生となった。

しかし、自分がなにをしたいのかわからず、また、授業にも興味をもつことができなかった。そんなある日、テレビで「自閉症」のドキュメンタリーを見て、「こんな世界があるのか」と衝撃を受けた。あくる日に図書館でこの言葉を調べて（40年余り前は自閉症などほとんどの人は知らなかった）、「臨床心理学」という言葉に出会うことになる。

私は、これを専門としているらしき大学の先生のとこに相談に行くことにした。今でもよく覚えているが、その先生の部屋の前でノックしようとして、私は逡巡し、いったんその場を離れた。しかし、帰り道の階段の踊り場に大きな鏡があり、そこで自分の姿を見た私は、踵を返し、思い切りよく扉をたたいたのである。

その先生は女性で、私が「臨床心理学の道にすすみたい」と言うと、「あなた、結婚したいでしょ？ 子どももほしいでしょ？ だったらやめなさい」と言われた。そんな恐ろしいものなのかとちらりと思ったが、さらに食い下がって相談した。そのときに、臨床心理学を学ぶには大学院まで行かなくてはいけないこと、また、京大では教育学部に行かなくてはいけないことを知っ

た。私は、再受験をして教育学部に入り、臨床心理学の道にすすむことになった。

入学するやいなや、私は意気揚々と自閉症サークルに入り、自閉症の子どもたちの療育に関わり始めた。しかし、うまくいかない。テレビでは45分で子どもが言葉を話すようになっていたのに（45分の番組だった）、実際には一年やっても言葉を発しないのである。私は絶望し、自分がこの道には向いていなかったのだと思った。

河合隼雄先生の「臨床心理学」の講義も受けたのだが、そのすばらしさを当時は理解できなかった。もともと理系でトレーニングを受けてきた私は、「このような症状にはこのような治療を」というような明快な理論を期待していたのに、それを得られなかったのである。（医学とは違って、心の領域は、より「関係性」を含みこんだアプローチを必要とするため、異なった理論体系をもっている。当時はそのようなことを理解できなかった。）

その後も、実際心理療法に携わりつつも、ずっと疑問は消えなかった。プライベートでも、「結婚して子どもを育てて母になる」という人生を当然のこととして予想していたのに、まったく違う人生をたどることになる。

「教育分析」という、自分自身がカウンセリングを受けて自らのことを考えるトレーニングがあるが、それを私はスイスでおこない、その後何年もかけてやっと、今自分がなぜこの仕事についているのか、そして、このような生き方をしているのかについて、理解するようになってきた。この間、私をずっと支え、導いてくださったのは、河合隼雄先生である。

先日実家の押入れを片付けていたら、小学校のときの文集が出てきた。よくある「大きくなったら」のコーナーで、私は「大きくなったらおんなの学者になりたいです」と書いていた。「おんなの」とついているところに時代を感じる。

研究者に「なる！」と思って今の私があるのではない。いろいろ考えてはいてもそのとおりにとはならず、しかし、たぶん人には行くべき道があって、多くの人に支えられながらその道を歩いていくのだろう。私は研究者に「なる！」のではなく、「なった！」のである。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

“Women and Wish” フォーラム3 男女共同参画に向けた研究者と大学のダイアローグ



3月10日（金）、国際科学イノベーション棟会議室 5a・5bにて“Women and Wish”フォーラム第3回「男女共同参画に向けた研究者と大学のダイアローグ」を開催しました。

はじめに、今村 博臣 広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行で、山極 壽一 総長より開会の挨拶がありました。「みなさんのご意見を聞いて京都大学の将来計画に活かしたいと思っています。女性研究者、女子学生、女性職員が増えるということがいったい社会、京都大学にとってどういう大きな意味があるのかということと一緒に考え、それに向けての取り組みを一緒に考えていきたいと思っています。ぜひ今日はいろんな意見をお聞かせください。」と述べました。

続いて、男女共同参画推進センター長の稲葉 カヨ 理事・副学長より、「2006年に女性研究者支援センターが発足した当時から、みんなの意識がそれなりに醸成してきているということは言えると思います。私の経験も踏まえてお話することがあればと思います。今日は楽しみにしております。」と挨拶がありました。

次に、病児保育事業ワーキンググループ足立 壯一 主査、育児・介護支援事業ワーキンググループ小西 由紀子 主査、広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ



今村 博臣主査、就労支援事業ワーキンググループ佐藤 亨主査に代わり伊藤 公雄男女共同参画推進本部支援室長より、各事業の紹介がありました。

次に、医学部付属病院総務課企画・法規掛の北浦 和子氏より、「京大病院の取り組みについて」と題し、講演がありました。病院の第三期中期計画に基づく病院の取り組みとして、女性医師へのヒアリングをもとに「院内保育所きらら」、「病児保育室こもも」の利便性を改善してきたことや、勤務時間に制約ある医師の仕事と家庭の両立を支援するため「キャリア支援診療医」の称号を新設したこと、新保育所の構想について説明しました。



次に、センターのサービス利用者を代表して2名の方が講演を行いました。まず、医学部付属病院の中嶋 千紗助教より、自身の産休、育休後の復帰について話がありました。復帰の際の働き方について、医員として週4日勤務、教員として時短勤務、キャリア支援診療医を紹介し、キャリア支援診療医については、時給が低いことがネックになり利用する人が周りにいないと話しました。大学院生は認可保育園入園において順位が低く、夫婦ともに大学院生の場合入園が非常に難しいので、京都大学に待機乳児保育室があるということは大変ありがたく、研究を続けていく上で非常に有用であると語りました。また、病児保育室は必ず必要な施設だと思うが、他の大学病院には設置されていないところもあり、京都大学の様々な施設について学会や講演などで話をすると、「京大はいろいろなオプションがあっただけいいですね。」「働き方をいろいろ選べていいですね。」などと言われることが多く、このような流れを続け、それが日本中に広がればと語りました。



続いて、理学研究科の渡邊 裕美子助教が待機乳児保育室の利用について話しました。保育室を利用できなかったら認可保育園に入るまでの1年間育児休暇を取り、家で育児をする傍ら研究ができるかできないかという状態であったため、利用することができ大変よかったと語りました。また、初めての育児で不安と心配の毎日であったが、保育室で保育士



さんに相談できたことや、子育てに研究にと前向きに取り組んでいる女性研究者の姿が身近にあったことも、非常によかったと話しました。一方で、保育室の利用可能月齢が15カ月末までというルールに基づき、9月に異動で来られた方が12月末に退室になったことを挙げ、9月に始めた仕事を1月には休まなければいけないということに、もう少し柔軟な対応ができないものかと語りました。また、修士学生が「保育料金が高すぎて利用できない」と言っていたことを受け、潜在的な利用できない原因があるかもしれないと述べました。そして、職場に育児中の女性教員がいないため、センターが育児中の研究者がつながりを持てる場所になってくれればと希望を述べました。

その後休憩をはさみ、女性教員懇話会より「アンケート結果について：各部局における子育て・介護の支援施設、制度等の現状や要望と懇話会からの提案」の題で発表があり、前半部分を医学研究科の木下彩栄教授が担当しました。京都大学を訪れた先生から搾乳設備について問い合わせがあった際、どこにあるのかわからなかったという経験から、女性教員懇話会で働く環境や設備についてのアンケートを実施したと語り、「どこの部局にも授乳、搾乳のできる設備が必要ではないか」「搾乳設備がなくトイレで搾乳しました」「子供を連れて学会、フィールドワークに行けないか」「会議がなかなか17時に終わらない」など様々な意見を紹介しました。また、助産専門の先生より、母乳育児をしながら仕事をする場合は搾乳スペースが必要で、そうでなければ乳腺炎などのリスクが高まると聞いたことを受け、京大の中の育児用設備について実際に聞き取り調査を行ったと語りました。その結果、女子学生用の休養室はあっても育児用のスペースは整っていないところが多く、育児用の設備については情報を把握していないところが多かったと述べました。

後半はアジア・アフリカ地域研究研究科の平野美佐准教授が担当し、ASAFASでの取り組みとして2015年に男女共同参画委員会が発足し、子育て介護フィールドワーカーワーキンググループで2年間活動してきたことを語りました。おむつ替えシートの設置、研究会等で子供を預ける際の託児費用の支援、ホームページの拡充、女性交流室を整備し子育て交流室を設置したことを紹介し、子育て交流室では、搾乳、授乳、ミルク作りができ、おもちゃもあって少しは仕事ができると説明しました。これらができた背景には、山極総長の「WINDOW構想」、稲葉理事の「男女共同参画推進アクションプラン」があり、上からと下からの声がうまく循環してできたのではと語りました。続いて、他大学の取り組み例として学内保育園や学



童保育を紹介し、京大にも学内保育園ができればと述べました。最後に懇話会からの提案として、授乳、搾乳施設の整備や育児に関する設備の情報を載せた校内マップの作成、新築、改築の際に女性教職員、院生の意見も取り入れること、子育てに有用な情報が共有できるプラットフォームの構築などを挙げ、発表を終了しました。

その後、ディスカッションに入り、山極総長より「現状の問題点がわかり、これからの指針を作るのに大変役立ちます。」と言葉がありました。続けて、会議



を17時までにするのは部局長会議でも再三言っており、それが徹底していないことに関しては、積極的に部局の問題として言っていただきたいと述べました。設備に関しても、まず現場でどういう形でできるか考えて部局で取り組み、その上でできないことは本部でなんとかしていくと話し、問題解決のためにはネットワークを作ることも大切で、男性教員を巻き込んで組織を作るということも重要だと語りました。続いて、稲葉理事は、教員と事務が情報を共有できていないことがあるため、本部として各事務局に対して女性が使えものはどこにあるかという情報を流してもらうことはできると述べました。学童保育については聞き取りを行った際、どうやって連れてくるのかなどの理由から皆が必要ないと答えた経緯があり、学内保育所は場所の確保が最大の問題とした上、他大学では保育料が高いため待機の間は預けるが、認可が下りれば出て行ってしまう現状があると、現在の待機乳児保育室やおむかえ保育の運用になっていることを説明しました。その後、参加者も交え育児用設備や職場環境について意見交換をし、問題点の共有と対処法を議論しました。

閉会の挨拶では伊藤支援室長が、育児用設備のマップ作りやASAFASの例の情報共有ができるのではと述べ、総長へ男女共同参画の委員会を各部局に作っていただきたいとお願いし、フォーラムを終了しました。



ベビーシッター利用育児支援

京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用

料金の一部を助成しています。対象事業は以下の2つです。詳細、ご利用については、センターのホームページをご覧ください。

対象事業	①ベビーシッター派遣事業	②ベビーシッター派遣事業（多胎児分）
利用対象者	配偶者が就労している、もしくは配偶者の病気入院等により、サービスを使わなければ就労することが困難な本学教職員	義務教育就学前の双生児等多胎児を持つ本学教職員
対象児童年齢等	0歳～小学校3年生、その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童	義務教育就学前の児童（多胎児以外の児童を含む）
割引金額	1日につき1家庭2,200円（2,200円以上で利用可）	1日につき1家庭9,000円（2,200円以上で利用可） 義務教育就学前の多胎児が3人以上の場合は、18,000円（2,200円以上で利用可）
割引券の利用可能枚数	1日1枚、1月24枚、1年280枚まで	1日1枚、1年2枚まで

ILAS セミナー「ジェンダーと科学」開講

平成29年度のILASセミナー「ジェンダーと科学」が開講しました。1回生を対象に、講師のレクチャーおよび討論を通じて、ジェンダーについての基礎知識や考え

方を身につけます。自然科学とともに、社会科学・人文科学を含む学際的な視点から、ジェンダー問題について多面的に考察を加えます。講師3名で講義を行います。

「ジェンダーと科学」講師・テーマ一覧

講師	テーマ
竹内 里欧 (教育学研究科 准教授)	ILAS セミナーの目的と内容について 討論とワーク・ショップ
栗屋 智就 (医学研究科 特定助教)	ヒトの発生・発達から考えるジェンダーと性差
山内 淳 (生態学研究センター 教授)	性の進化について



出前講義

3月13日（月）京都府立洛北高等学校にて、稲葉理事・副学長が『「免疫」味方？それとも敵？』の題で特

別講義を行いました。



連載：研究者になる！－第61回－

人との出会いと研究

医学部附属病院・准教授 池田 華子

私は、“困っている人を助けたい”という純粋な気持ちで、医師になるべく、医学部に入学しました。2回生のクラブの夏合宿で、当時6回生の先輩から、研究室で楽しく実験をしている話を聞いたのが、研究に興味を持ったきっかけです。当時薬理学教室（成宮周教授）の准教授をされていた垣塚彰先生（現在生命科学研究所教授）は、学生の私にもわかりやすくお話下さり、研究の楽しさを語って下さいました。“とりあえずやってみたら”と言われ、大学院生のお仕事をお手伝いさせていただくことになりました。当時は、分子生物学で学んでいたようなDNAシーケンスやプラスミド構築、cDNAスクリーニングなどを、行うこと自体が楽しく、実験に夢中でした。その後、神経変性疾患の発症メカニズムの研究を始めることになりました。培養細胞を用いた実験をして少したったころ、蛍光顕微鏡で観察中、とても面白い現象を見つけました。細胞の中に蛍光の塊があって、その細胞では細胞が死にかかっているのです。興奮して、垣塚先生にお伝えしたことを覚えています。その後、1年ほどは本業も忘れて実験をし、論文としてまとめていただくことができました。進路を決める段になり、基礎（研究者）の道を選ぶか、臨床（医師）の道を選ぶか、少し迷った時期もありましたが、自分には研究者として多くの患者さんを助けられるほどに大成できる能力が無いこと、臨床医であれば目の前の患者さんを助けられる可能性があること、そして何より、人（患者さん）とコミュニケーションを取りたい、と思ったことから、臨床医（眼科医）の道を選びました。

眼科医になって数年、患者さんの喜びを共有できる日々、充実して楽しい毎日でした。臨床系では外病院で2-3年研修をしてから大学院に戻って学位を取ることが多いので、深い考えもなく、当時大学におられた高橋政代先生に相談に行きました。すると、理化学研究所（神戸）の故笹井芳樹先生の研究室でES細胞を用いた網膜の分化誘導の研究に携る人が必要だということです。今更基礎の研究室でやっていける自信もなく、迷



いはありましたが、笹井先生のお話をお伺いし、数年間、また研究を頑張ってみよう、と理研行きを決断しました。もちろん大変なことも多々ありましたが、実験を始めてみると、毎日が楽しく、世の中で自分しか知らない現象に遭遇することの醍醐味を再び味わうことになります。

学位論文を仕上げた後は、滋賀県の一般病院で眼科医として忙しい日々を送っていました。当時の眼科教授から、大学に戻って基礎的研究を立て直してほしい、また、若い女性医師にとってのロールモデルとなってほしい、とお声かけいただき、ここでもまた散々迷いましたが、教室への奉公のつもりで大学に戻ることにしました。日常診察の中で、治せない眼疾患を何とかしたい、という思いを持っていましたので、神経保護の研究に取り組むことにしました。子供を育てながら、診察をしながら、学生教育をも行いながら、の研究は、正直、時間のやりくりが大変で、なかなか論文としての成果出せず、苦しい日々でした。しかし、京都大学の女性支援制度の研究補助を使わせていただき、また、優秀な大学院生たちが頑張ってくれたおかげで、ようやく最近、形になりつつあります。先日、京都大学のたちばな賞（優秀女性研究者賞）をいただきました。時間の制約がある中で、自分のできる範囲で頑張ってきたことを認めていただけたのは素直にうれしいです。

このように、私がこれまで研究を行ってきた、行っていくことができたのは、人との出会いに恵まれたからだと思います。研究に興味を持たせてくれた先輩、研究の手ほどきを下さり、神経保護研究の種を下さった垣塚先生、理研での研究の機会を下さった笹井先生や眼科の先生方、京大に戻るきっかけを下さった眼科前教授…人とのつながりを大切にすること、チャンスをつかむべくアンテナを張り巡らしておくことは、研究のみならず人生の様々な岐路で役に立ちます。そして、もう一つ、私がここまでやってこられたのは、家族、先輩・同僚・後輩を始め、多くの方々の理解と協力があってこそのもので、日々、感謝の気持ちを忘れずに、少しでも患者さんに還元できるような研究を、これからも続けていきたいと考えています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

平成 29 年度 2 期研究・実験補助者雇用制度 利用者決定

平成 29 年度 2 期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、16 名（女性 11 名、男性 5 名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは出産・育児・介護等で、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を

補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年 2 回（6 月、12 月）です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

「女子高生・車座フォーラム 2017」12 月 23 日（土・祝）に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと「女子高生・車座フォーラム 2017 京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、さまざまな疑問に教員や大学院生、学生がお答えします。

日 時 2017 年 12 月 23 日（土・祝）10 時～17 時
会 場 京都大学国際科学イノベーション棟、他
参加費 無料
募集定員 女子高校生 100 名程度（先着順）
保護者 50 名程度
申込方法 男女共同参画推進センターホームページより

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

申込期間 2017 年 9 月 25 日（月）～11 月 24 日（金）



日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」

5 月 29 日（月）、大阪府立国際会議場にて、日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」が開催され、本学からは、稲葉カヨ理事・副学長、船曳 康子大学院人間・環境学研究科准教授、学生数名が参加しました。

船曳准教授が登壇したパネルディスカッションでは、関西 10 大学や企業の研究現場で働く女性研究者の経験や実情が語られるとともに、これから研究者を目指す若い後輩たちへのメッセージが贈られました。

当日は、高校生をはじめとして 350 名の参加があり、満員となった会場では、参加者が女性研究者たちの生の声に

耳を傾けました。

フォーラム後に関係者が集まった交流会では、本学から参加の修士課程学生ほか、各参加大学の学生がフォーラムの感想や将来の夢についてスピーチを行い、参加者は和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo

保育園入園待機乳児保育室

学生、研究者の学業、研究と育児の両立を支援することを目的とし、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けています。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。



開室期間	平成 29 年 4 月 5 日～平成 30 年 3 月 30 日
開室日時	月曜日～金曜日 9：00～18：00 (時間外保育は、8：00～9：00 及び 18：00～20：00 までとし、別途利用料が必要です。)
保育場所	京都大学男女共同参画推進センター内
利用資格	京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員（週 30 時間以上勤務、日本学術振興会特別研究員を含む。）、医員。
対象乳児	生後 9 週目～15 ヶ月未満の健康な乳児
定 員	4～5 月：3 名、6 月～8 月：6 名、9 月～翌 3 月：18 名



病児保育室「こもも」

病児保育室「こもも」は、京都大学教職員・学生の子どものが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行います。



保育場所	京都大学医学部附属病院外来棟 5 階 ※東玄関（東大路通沿い）から入ってすぐ右にあるエレベーターで 5 階です。
対 象 者	生後 6 ヶ月～小学校 3 年生までの病中・病後の子ども
利用資格	京都大学教職員及び学生
定 員	5 名（隔離室を含む）

開 室 日	月曜日～金曜日
開室時間	7：30～19：00
利用料金	子ども 1 人につき、1 時間あたり 500 円 (昼食・おやつ代を含みます) ※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。
保育体制	看護師、保育士

おむかえ保育

「決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。」「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない……」などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を実施しています。運営は、民間企業に委

託して実施しています。保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。

保育場所	京都大学男女共同参画推進センター保育室
対象者	生後2ヶ月～小学校3年生までの子ども
利用資格	京都大学に所属する学生・常勤の教員、研究員（週30時間以上勤務、日本学術振興会特別研究員を含む）、医員、常勤の職員
定員	5名程度（兄弟姉妹、年齢構成により異なる場合があります。）

開室日	月曜日～金曜日
開室時間	17:00～22:00
利用料金	利用料金は、970円～1,410円（税込）／30分（※時間帯により異なる） ・利用は2時間以上、30分単位で受け付けます。 ・子ども1人についての料金です。 ・学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。 ・交通費・夕食等は別途実費が必要です。 ・状況により、その他手数料が必要です。

ベビーシッター利用育児支援

男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者が提供するサービスを利用

した場合に、その利用料金の一部を助成しています。対象事業は以下の2つです。

- ① ベビーシッター派遣事業
- ② 双生児等多胎児家庭育児支援事業

アジア・アフリカ地域研究研究科の子育て交流室と子育て等支援の取り組み

アジア・アフリカ地域研究研究科は、本部キャンパス総合研究2号館内に「ASAFAS 子育て交流室」を設置しています。写真のとおり、部屋で子供を遊ばせながら勉強・研究をすることができますし、臨時託児所開設スペースとしても使用できます。

本研究科ではシンポジウム等で出張託児を行う費用もサポートしています。また育児・介護などの事情を抱えている人の研究補助や海外フィールドワーク支援も行っています。

子育てや介護を個人の問題にするのではなく、社会で支援することが大切であり、大学もその一部です。そこで研究科長以下教員・職員・学生らで取り組んでいます。一歩踏み出してみると、公費払いをはじめとして、大学制度の中でも意外とできることはありました。

子育て交流室は原則として本研究科関係者用ですが、他部局でも必要とされている方は利用できる場合もあり

ますので、お問い合わせ等は研究科の子育てフィールドワーカーワーキンググループまで。

ML: kosodate@asafas.kyoto-u.ac.jp

HP: <https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kosodate/>



連載：研究者になる！－第62回－

ただ狂へ

文学研究科・教授 金光 桂子

進路を決めたのは高校一年生の時だった。冬の夜空に光るさえずえとした月を眺めながら、ふと「文学部で古典文学を勉強しよう」と思い立った。なぜ突然そんなことを思いついたのか、今となってはよくわからない。ただ、さしたる理由もなくこの年頃にありがちな(?)無常観にとらわれており、明日どうなるかもわからない人生、好きなことをやらねば損だと思ったことは確かである。その先三十年も生き長らえると知っていたら、違う道を選んだかもしれない。

大学院への進学を志した時も、「研究者」という将来像をどこまで具体的に描いていたか、はなはだ疑わしい。ただ大学での学問がおもしろかったから、その楽しい時間を少しでも引き延ばしたかったに過ぎない。とはいえ、修士課程の二年間は決して楽しいことばかりではなかった。研究の難しさもようやくわかってきた頃だったから、お気楽に勝手なことを書いていればよかった卒業論文と違って、修士論文には難渋した。集めてきた資料が、どうしても一本の線につながらない。ついに修論の提出はほぼ諦めてしまい、ただ興味の赴くままに文献をあさっていた。あにはからんや、その時たまたま見つけたある資料が、すべてをつなぐミッシングリンクだったとは――できすぎた話のようだが、実話である。

かくして無事に修論を仕上げることができ、博士課程への進学も決まった時、真っ先に浮かんだのは「これで三年間遊べる」という思いだった。将来への不安がないわけではないが、今心配しても仕方がない。学生でいられる三年間は、何も考えずに好きなことをやろう。というわけで、進学の決まった次の日から図書館にこもり、作品に注釈を付けることに没頭した。論文を書かねばならないという重圧なしに(書かねばならないのだが)ひたすら作品を読んでいたこの時期は、まさに至福の時だった。

しかし、そんな甘い考えは長くは続かない。その後、縁あってとある大学に雇っていただけることになり、学

生の身分を離れることになった。それはもちろん大変ありがたい話なのだが、問題は、勤務先の諸々の事情により次の年までに博士論文を提出する必要が生じたことである。博士論文なんてまだずっと先の話とのんびり構えていた身としては、焦る以前に呆然とするばかり。その時藁にもすがる思いで引っ張り出してきたのが、かつて没頭して作った注釈である。注釈といっても勝手気ままなメモに過ぎない代物ではあったが、それを読み直し整理し膨らませることによって、なんとか博士論文の体裁を整えることができた。

以上が、私が研究者になった次第である。こう書きつらねてみると、ただ好きなことをやってきただけで、あとは思いつきと開き直りと偶然の産物で乗り切り、たいした努力もしていなければ特に悩みもなかったように見える。いや、たぶんその頃はそれなりに努力もしていたのだろうし、深刻な悩みもあったに違いない。しかし、その辺のことは不思議とあまりおぼえていない。今研究者をめざしている人たち、あるいはめざすかどうか迷っている人たちに対して、私が自分の体験から言えるのはこれしかないかもしれない。みなそれぞれ悩みは多いだろう。しかし、それもいずれは思い出せないほど遠い昔のことになる。だから安心して、今はしっかり悩んでほしい。それと同時に、自分が夢中になって楽しめることを存分に楽しんでほしい。

何せうぞ くすんで 一期は夢よ ただ狂へ

(閑吟集)

悩んでしかめっ面ばかりしていても仕方ない。「一期は夢」という無常観にあえて共感してもらおうとは思わないけれど、「ただ狂う」＝夢中になって遊ぶことができることは、研究者として必要不可欠の資質であるに違いないのだから。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

たろばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

全学共通科目（後期）「ジェンダー論」開講

落合恵美子教授の全学共通科目「ジェンダー論」が開講しました。現代日本のジェンダーを広い視野に位置づけて理解し、課題解決の方法について自ら考える力を養うことを目指します。

また、ゲストスピーカーをお招きし、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブ、日本および世界の他の地域のジェンダーの状況や課題についてお話をうかがいます。



	テ - マ
10月 2日	アンケート
10月 16日	日本の現状 国際比較から際立つ変化の乏しさ
10月 30日	伝統を問い直す
11月 6日	近代家族と男性稼ぎ主モデル
11月 13日	第2の近代のジェンダー 欧米社会と日本
11月 20日	ケアと経済 高齢化する社会の国際比較
12月 4日	ジェンダー平等と父親の育児休業
12月 11日	リブの時代 ビデオ
12月 18日	ハイジはペーターと結婚するのか？
12月 25日	東南アジアの女性は地位が高い？低い？
1月 15日	男性のワーク・ライフ・バランス
1月 16日	セックスというコンタクト・ゾーン
1月 22日	総括

京大病院 オープンホスピタル

10月28日（土）、京都大学医学部附属病院でオープンホスピタル（病院見学会）が開催され、病児保育室「こもも」がポスター参加しました。

病児保育室の利用状況、熱があるときの過ごし方、薬の飲ませ方、保育室での遊びなどを紹介しました。ポスターはセンターのホームページにも掲載しています。

京都大学男女共同参画推進センター 病児保育室 こもも

病児保育室の活用率の推移

1. 病児保育室の活用率
2. 病児保育室の活用率の推移
3. 病児保育室の活用率の推移
4. 病児保育室の活用率の推移

Ⅱ. 病児保育室での遊びの目的と過ごし方
Ⅲ. 病児保育室での遊びの目的と過ごし方
Ⅳ. 病児保育室での遊びの目的と過ごし方
Ⅴ. 病児保育室での遊びの目的と過ごし方

第12回女子中高生のための関西科学塾 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生のための関西科学塾は、科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の一環として関西の大学が連携し、女子中高生を対象に講演会や実験などを行う企画です。第12回目となる今回は奈良女子大学を中心に、神戸大学、大阪大学、大阪

府立大学、大阪市立大学、京都大学などが参加し、開催しました。京都大学では、11月19日（日）に18のグループが様々なテーマで実験講座を行い、中学生162名、保護者・引率教員53名が参加しました。



■京都大学での実験一覧

	テ ー マ	部 局	講 師
1	太陽のにじいろを見てみよう	理学研究科	浅井歩
2	「にじいろ」を見よう	理学研究科	馬場正昭
3	高温超伝導を体感してみよう	理学研究科	吉村一良
4	GPS 観測で地球の動きを知る	理学研究科	風間卓仁
5	砂の作る形と模様	理学研究科	成瀬元
6	野菜などの色の分離実験	理学研究科	阿部邦美・常見俊直
7	DNA とはなにか — DNA に関する基礎実験	理学研究科	朴昭映
8	電波に耳を傾けよう〜ゲルマニウムラジオの製作にチャレンジ〜	理学研究科	川畑貴裕
9	イケジョ（医系女子）のお仕事：ヒトを科学する！	医学研究科	木下彩栄
10	地下を“掘らず”に探ってみよう！	工学研究科	後藤忠徳
11	私たちは土を食べている	農学研究科	間藤徹・落合久美子
12	南極の氷と石を触ってみよう	人間・環境学研究科	石川尚人
13	生物のミクロの世界を実体験！	人間・環境学研究科	幡野恭子
14	みてわかる生物学 — クラゲの蛍光タンパク質で生命をみる —	情報学研究科	前川真吾・細川浩
15	カオス・フラクタルの世界を知る	情報学研究科	宮崎修次
16	蛍光顕微鏡で細胞をみる、染色体をみる	生命科学研究所	Peter Carlton・佐藤綾
17	RNA はストレスを感じる？	高等研究院物質-細胞統合システム拠点	王丹

平成 30 年度第 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者募集

平成 30 年度第 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者を募集します。育児又は介護のために十分な研究・実験時間が確保できない研究者に対し、研究又は実験業務（注：事務及び教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、女性研究者に限らず、育児又は介護に携わる男性研究者も対象となります。

今回の募集について、雇用期間は平成 30 年 4 月から平成 30 年 9 月末までの間です。応募締め切りは平成

30 年 1 月 12 日（金）17 時必着、選考結果は 2 月下旬頃に通知する予定です。詳細、申請様式等については、男女共同参画推進センターのホームページをご確認ください。

Web： <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/hojo/Index.html>

問い合わせ先：総務部人事課職員掛

(g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

栃木県立宇都宮女子高校の生徒が京都大学を訪問しました。

11 月 10 日（金）、栃木県立宇都宮女子高校の生徒 41 名、引率者 2 名が京都大学を訪問しました。

医学部の講義室にて、本学の稲葉カヨ理事・副学長（男女共同参画推進センター長）が、自身の大学生から研究者への道のり、専門である免疫学の講義を行い、研究というのは迷いや挫折にも増して成し遂げた時の達成感、満足感は何にも増して大きいものであると述べました。最後に、是非京都大学に来てくださいと締めくくりました。



研究・イノベーション学会第 32 回年次大会 女性エンジニア活性分科会 企画セッション



10 月 29 日（日）、京都大学吉田キャンパスにて開催された女性エンジニア活性分科会（JWSE）企画セッションに、稲葉カヨ理事・副学長が登壇しました。

「女性研究者支援 ― 京都大学の取り組み ―」をテーマに、本学の男女共同参画推進事業のあゆみや支援制度、本学教員の家事・育児に関する意識、仕事を継続するために必要なことなどについて講演され、参加者は資料を見ながら熱心に耳を傾けていました。

講演後は、コメンテーターが各登壇者の意見をまとめられ、現状の把握とともに将来に向かって「女性活躍にむけて」の意見交換が行われました。

特に女性エンジニアがその能力を活かし、生き生きと力を発揮できるよう、この分科会ではそれぞれの取組について講演され議論が交わされました。参加者からも多くの賛同が寄せられ、盛況のうちに閉会しました。



連載：研究者になる！－第63回－

学校嫌いから研究者に

生態学研究センター・准教授 酒井 章子

小学校最初の3年間をごく小規模な海外の日本人学校で過ごしたせいか、ずっと学校が苦手な子供でした。中学校では、服装や持ち物を制限され検査されるのも嫌でしたが、1日やるのが決まっていて、つまらなくても授業に出なくてはいけない、教科書に書いてあるのに板書をノートに取らなくてはいけない、みんなと同じようにしなければならぬ、というようなことが、いちいち苦痛でした。進学した高校は県内では自由な校風で知られていましたが、嫌いな授業はさぼってばかりで、ぎりぎり卒業しました。母に「今日は学校を休む」というと「じゃあ一緒に美術展に行こう」と誘ってくれ、一緒に出歩いてくれました。

ところが京大に来てみると、好きな授業だけ受けていればいいし、欠席しても誰も何もいわない。人と違っていても、誰も気にしない。おもしろそうな先生がいると研究室を訪ね、調査についていたり、研究手伝いのバイトをしたり、自主ゼミに出たり、中高とは反対に、どっぷり大学に入り浸っていました。

理学部に入ったときはミクロな生物学の方に興味があったのですが、卒業研究では生態学を選びました。ミクロは競争が激しそうだし、マクロの方が同じ研究室でもみんなばらばらの材料を研究していて、自分にはそちらの方があっていそうに思えたからです。バイトでしていたテーマがそのまま卒業研究になり、バイト代がもらえなくなりました。

研究者になると決めて大学に来たわけではありませんでしたが、大学や研究、出会った研究者や大学院生も面白くて、迷わず大学院に進学しました。大学院では、立ち上がったばかりのボルネオ熱帯林の調査地に長期滞在して研究しました。指導教員が来るのは2、3ヶ月に一度、あとはたまにファックスでやりとりするだけで、修士最初の1年はまったく研究できていませんでしたが、無知の強さで焦りもせず毎日森を散歩して、今から考えると贅沢な時間だったなと思います。

学位取得後は、パナマのスミソニアン熱帯研究所に2年間滞在しました。その後、特別研究員、筑波大学を経て生態学研究センターに助教授として戻ってきました。

研究でも私生活でも、大きな転機が30代後半にあり

ました。研究での転機は、総合地球環境学研究所（地球研）に異動し、研究者約70名が参加するプロジェクトの副リーダー、リーダーを務めたことです。ずっと基礎生物学としての生態学を研究していたのに、環境問題をテーマに、しかも文系研究者とも一緒に学際プロジェクトをすることになったのです。私生活は、そのプロジェクト期間中に結婚し子供を二人授かりました。二回目の産休は、リーダーとして受けなければならないプロジェクト最終評価、京都大学への再異動と重なりました。つらい経験もありましたが、周囲の方々がたくさん助けていただきました。

それまでは興味の赴くまま研究をしてきましたが、この転機に、これからの限られた時間で自分は何をしたいのか、じっくり考えるようになりました。生態学では、リモート・センシングから分子生物的手法、データ解析手法まで、どんどん新しい技術が導入されています。でも、自分にはなんにも技術はない。頭が切れるわけでもなく、フィールドワークに長けているわけでもない。悩みは多くまだここに書けるような形にはなっていませんが、少しずつ前には進んでいると思っています。

最後に、このごろ思うこと。ひところより、女性研究者を増やそうという配慮や、育児・出産に関する制度の整備がなされるようになりました。しかし、社会全体でも研究の世界でも、育児は女性がするもの、リーダーシップは男性がとるもの、といった役割分担の刷り込みはまだ強く、日々再生産されています。二人の息子が見ているテレビでも、戦隊モノのリーダーはいつも男です（チームの女性比率は若干あがっているようですが）。自分の意見を主張するのは女性らしくない、といった刷り込みが、国際ランキングで低迷する日本のジェンダー・ギャップや、科学者になりたいと思う小学生の男女差の一番大きな要因ではないか、と思います。定説や常識を疑って新しい発見をするのが研究者ならば、研究者は他の人より少しはこの刷り込みから自由なはず。そのような刷り込みを減らしていこう、という発信も、社会における研究者や大学の役割ではないでしょうか。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

女子高生・車座フォーラム 2017

12月23日(土)、京都大学国際科学イノベーション



棟シンポジウムホールにて「女子高生・車座フォーラム 2017」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高校生に京都

大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうという企画で、今年で12回目の開催となります。北は秋田県、南は福岡県から高校生119名、保護者51名の参加がありました。



はじめに、今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行で、稲葉 カヨ理事・副学

長より開会の挨拶がありました。京都大学では男女共同参画の取り組みの中で女性教員の採用を増やすため、2020年までを目標とするアクションプランに3つのテーマ、「女性リーダーの育成」「家庭生活との両立支援」「次世代育成支援」を挙げており、中でも「次世代育成支援」ではより多くの女性を京都大学で育てていきたいと述べました。また山極総長が掲げるWINDOW構想につ



いて「野性的で賢い学生を育て、背中をそっと押して彼らが活躍できる世界を開いた窓から送り出すということが、私たち京都大学教職員共通の夢であり、目標である。」との言葉を紹介しました。最後に「失敗を恐れずにチャレンジをしていただきたい、ぜひ京都大学に来て皆さんと一緒に学びたいと思います。今日一日みなさんにとって有意義な一日であることを祈っています。」と開会の挨拶を締めくくりました。



次に、川添 信介理事・副学長より京都大学の概要について説明がありました。「自分で自分の興味に基づいて学んで欲しい。京都大学では学生が自分でテーマを見つけ自分で勉強を続けていく、それを周りの教職員がサポートする、そういう基本的な考え方を持っている。」「難しいテーマにチャレンジする、そういう意味での自由な学風というのがモットーで、学問について自由な学風を守りたいと京都大学は強く思っている。」と述べました。最後に、「京都大学は女子学生の皆さんにとって魅力的な大学だと信じています。おもしろいというのは山極総長が頻繁に使われている関西弁ですけれども英語で interesting というよりは、ちょっと変わったことでもやれますよというニュアンスをもっている感じです。ぜひ京都大学においでくださって有意義な人生のきっかけになればと思っています。」と締めくくりました。

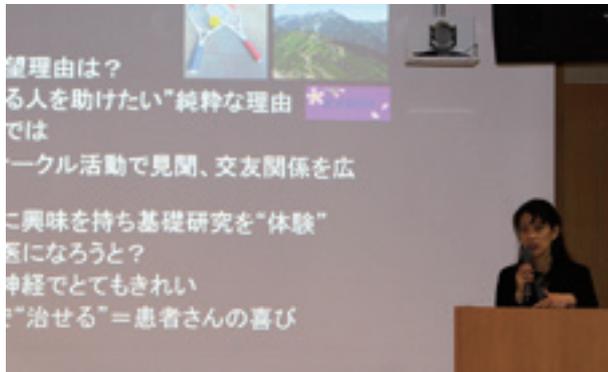


続いて、教育推進・学生支援部入試企画課より、平成30年度学生募集要項についての説明があり、アドミッ

ションポリシーや入試についての説明がありました。

その後、医学部附属病院の池田華子准教授が「失明を防ぐ～眼の病気に対する神経保護治療研究～」の題で講演を行いました。池田先生は、「困っている人を助けたい。」

「姉が医学部に行っていてその勉強の内容を聞くと、とっても楽しそうだったので医者になりたい。」と医学部を志望した理由を語られました。京都大学入学後は、クラブ活動や全学のサークルで様々な学部の方々と交流される中で、クラブの先輩の基礎研究の研究室での体験を聞いたことがきっかけで基礎研究に興味を持ったこと、2回生の時に、現在もつながりのある先生の研究室に見学に行き、「研究をやってみたい」とお願いしたところ、快く「じゃあやってみたら」と受け入れていただいたというエピソードを語られました。学生の中に基礎研究を体験できたことは、京都大学ならではの経験であり、今の研究にもつながっていると話されました。卒



業するときに臨床医になっていくか、あるいは基礎研究を続けていくかの選択をする際、初心に帰り「目の前の困っている患者さんを助けたい」との思いから臨床医を選びました。眼は非常に美しく、中枢神経の中で唯一目で見える組織であり、自分の手で手術をして治せる病気があり、白内障で見えなかった患者さんが手術の翌日に見えてすごく喜んでいただける、患者さんの喜びを共感できることから眼科医になられた思いを熱く語られました。最後に高校生たちにメッセージとして「何か興味のある面白いと思えることを探していただきたいなと思います。今の興味とまた大学に入っているいろいろなことを勉強していく中で考える興味と違って全然かまわないと思います。いくらでも修正は可能です。」「二番目に人の

出合いを大事にして欲しいと思います。ひとりでは何もできません。一人で学問ができるのでしょうか？できません。人の出会いは本当に大切にしていきたいなと思います。」「やりたいと思ったことはどんどんチャレンジをしてください。そのためには京都大学は恵まれた環境だと思います。やらないと何も始まりません、失敗は成功のもとです。あきらめないでやってください。」と語られ、「何かを継続すると、人に認めもらえるようなことではないかもしれませんが、自分の中で必ず成果が生まれると思います。京都大学で皆さんと何らかの機会でご一緒できる日がくればいいなと楽しみにしています。」と締めくくりました。



その後、昼休憩に入り、昼休憩後はグループワークの説明と講師の紹介がありました。高校生は希望学部別のグループに分かれ各部屋に移動し、グループワークを行いました。高校生には事前に聞きたいことを質問用紙に記入してもらっており、それをもとに学生スタッフが主に受験勉強や学生生活などについて実体験を、講師が研究生活や専門などについて語りました。

高校生がグループワークに参加している間、保護者は京大生との交流会に参加しました。稲葉理事の挨拶の後、保護者から京大生へ学校生活や学部などについて疑問に思うことを質問してもらい、学生が回答しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。グループワークの最後に、グループワークで聞くことができなかった質問や学部を超えた質問などを質問用紙に記入してもらっており、佐藤 亨男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれの質問に各分野の講師が回答しました。

「小説を研究することについて文学部と総合人間学部での違いはなんですか。」「発達



教育学に興味がある、他の分野と結びつけて考えるとするとどこが一番つながりがあるか。」「教育学部と医学部で子どもの心理学の実践的な学習ができるのはどこでしょうか。」「医学部で工学部と共同して医療機器や研究のための機械開発などすると聞いたけど、他学部との協力について知りたい。」「理学部にいる間に哺乳類の行動についての研究はできますか。」などたくさんの質問が

あり、学部ごとの特徴や学べることの違いを話しました。佐藤室長は、「大学は教育と研究の二つの看板があり、教育は組織で行い、研究者は個人商店であり、教授が千人いれば千軒の店が集まって京都大学というデパートができているというイメージです。」と話しました。

その後、入試に関する質疑応答が行われ、車座フォーラムは盛況のうちに終了しました。

グループワークの様子



文学部



教育学部



法学部



経済学部



理学部



医学部



薬学部



工学部



農学部



総合人間学部（文系）



総合人間学部（理系）



保護者（京大生との交流）

車座フォーラム参加者の声（アンケートより）

- ・大学でしている研究や研究者としての仕事とか、とても分かりやすく説明して下さい、イメージが湧いた。学部の特徴なども分かって、これからの進路選択に役立たせたいと思う。研究者になることについてくわしく考えたことはなかったけど、それも選択肢のひとつだなと感じた。
- ・研究者になるという道や、他の仕事にもつく道など様々なことを視野に入れてたくさん悩みたいと思います。他人の考えや流行などに流されず、自分という個人で何をしたいか、やってみたいことをしっかり考えて勉強していきたいです。
- ・研究の事や留学、大学生活などを聞かせていただき、自分の大学へ入った後やその先の就職将来のことなどを深く考えるにあたって、抽象的だったものが具体的に考えるきっかけになったと思います。
- ・学部で学ぶ学問が、将来的に自分にどのように役に立つか、実生活でどのように生かされるのかを講師の方から伺えて、魅力を感じました。とても有意義な時間になりました。ありがとうございました。
- ・研究とは難しく、簡単にはできないと思っていましたが、興味を持ったことに徹底的に向き合い、まずはやってみることで成果がでるものなのだと分かり、とても関心がわきました。また大学では、人の役に立つ研究を行っていることが分かり、将来へと繋がる研究でもあることを知ることができました。グループワークでは、教授さん学生さんがどんな質問にも丁寧に答えて下さってたくさんを知ることができ、ますます京都大学が魅力的に感じられました。



講師・グループ・会場

グループ	氏名	所属	研究分野	会場
文学部	平川 佳世	文学研究科	西洋美術史（特殊素材に描かれた絵画、西洋美術における子供の表象など）	国際科学イノベーション棟 ミーティングルーム
教育学部	稲垣 恭子	教育学研究科	教育社会学：女性の教養、教育関係の社会学など	総合研究 8 号館 会議室 2
法学部	西谷 祐子	法学研究科	国際的な家族関係と移民、国際取引	国際科学イノベーション棟 会議室 5b
経済学部	王 英燕	経済学研究科	組織行動論・国際人的資源管理	総合研究 8 号館 演習室 1
理学部	常見 俊直	理学研究科	理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携	総合研究 8 号館 数理会議室
	関口 春子	防災研究所	大地震の揺れの生成メカニズム	
医学部	池田 華子	医学部附属病院	神経保護剤による眼難治疾患の新たな治療法開発	総合研究 8 号館 講義室 3
	田村 恵子	医学研究科人間健康科学系専攻	がん患者・家族の緩和ケア	
	池添 冬芽	医学研究科人間健康科学系専攻	高齢者の介護予防、高齢者に効果的な運動トレーニング法の開発	
	義村 さや香	医学研究科人間健康科学系専攻	自閉スペクトラム症の認知研究/司法精神医学	
薬学部	伊藤 美千穂	薬学研究科	フィールドワークを軸とした薬用植物研究、おのいの生薬薬理、生薬のレギュラトリーサイエンス	国際科学イノベーション棟 会議室 5b
工学部	佐藤 亨	情報学研究科	電波工学、レーダー、イメージング	総合研究 8 号館 講義室 4
	伊庭 千恵美	工学研究科	住宅や建築の温熱環境と省エネルギー、建築材料の耐久性	
農学部	小杉 緑子	農学研究科	植生と大気間のガス交換過程	総合研究 8 号館 会議室 1
	今村 博臣	生命科学研究科	生物物理、生化学、化学生物学、細胞生物学	
総人・文系	廣野 由美子	人間・環境学研究科	英文学、19 世紀イギリス小説	総合研究 8 号館 演習室 2
総人・理系	清水 扇丈	人間・環境学研究科	数学（解析学・流体方程式の研究）	総合研究 8 号館 演習室 3

学生スタッフ

グループ	氏名	所属
文学部	渡 智一郎	文学部
教育学部	冨田 一葉	教育学部
法学部・経済学部	桑原 静羽	法学部
	河合 美代	経済学部
理学部	磯田 珠奈子	理学研究科
	栗原 悠宇希	理学部
医学部	向平 妃沙	医学研究科
	勝島 倫子	医学研究科
	三木 麻紗与	医学部
薬学部	田中 良尚	薬学部
工学部	石田 彰紀	工学部
	高木 理絵子	工学部
農学部	八十川 環	農学部
	松岡 珠美	農学部
総合人間学部（文系）	近藤 香澄	人間・環境学研究科
総合人間学部（理系）	今城 葉月	人間・環境学研究科

プログラム

- 10：00-10：30 受付：京都大学国際科学イノベーション棟
シンポジウムホール
- 10：30-10：35 開会の挨拶（理事・副学長 稲葉カヨ）
- 10：35-10：55 京都大学の紹介（理事・副学長 川添信介）
- 10：55-11：10 入試に関する説明
（教育推進・学生支援部 入試企画課）
- 11：10-11：30 女性研究者の講演
「失明を防ぐ～眼の病気に対する神経保護治療研究～」
（医学部附属病院 池田華子）
- 11：30-13：00 昼食・休憩
- 13：00-13：40 講師紹介・グループワークの説明
（広報・相談・社会連携事業 WG 主査 今村博臣）
- 13：40-15：00 グループワーク「車座になって話そう」
高校生：講師・京大生とのグループワーク
保護者：京大生との交流
- 15：00-15：10 休憩
- 15：10-15：50 まとめの全体会
（男女共同参画推進本部支援室長 佐藤 亨）
- 15：50-16：00 休憩
- 16：00-17：00 入試に関する質疑応答
（教育推進・学生支援部 入試企画課）

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

Ⅱ 「育児・介護支援」事業

育児・介護支援事業ワーキンググループ活動報告

当ワーキンググループは京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っています。
今年度も4月に男女共同参画推進センター内に待機乳児保育室を開室いたしました。ここでは京都大学の学生・研究者を対象として、認可保育所に入所できなかった生後15ヶ月までのお子さんをお預かりしています。近年京都市に認可保育所が相次いで開設されていますが、依然として年度途中での保育所入所は厳しいもので、保育室の利用者数は2月、3月には定員18名に達する見込みです。



育児・介護支援事業 WG 主査 小西由紀子

■H29 活動記録

- ・4月5日(水) 平成29年度保育園待機乳児保育室を開室
- ・1月29日(月) 待機乳児保育室利用者の懇談会開催

京都大学男女共同参画推進センター 平成 29 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」利用案内

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生、研究者の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けます。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。運営については、民間企業に委託し、大学が一部費用を負担して実施します。

◇保育施設の概要

施設の名称: 京都大学男女共同参画推進センター保育園
入園待機乳児保育室

施設の所在地: 京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター内

受入定員: 4 月～5 月: 3 名、6 月～8 月: 6 名、9 月～翌 3 月: 18 名

◇保育の概要

開室期間: 平成 29 年 4 月 5 日から平成 30 年 3 月 30 日
開室日: 月曜日～金曜日(国民の祝日に関する法律に定める休日、大学の創立記念日、大学が定める夏季・冬季休業期間を除きます。また、京都大学男女共同参画推進センター長がやむを得ない事情により必要と認めるときは、臨時に休室することがあります。)

開室時間: 9 時～18 時

時間外保育は、8 時～9 時及び 18 時～20 時までとし、別途利用料が必要です。

対象乳児: 入室時生後 9 週目～平成 29 年 3 月末時点で 15 ヶ月未満の健康な乳児(15 カ月になる月の前月まで利用できます。)

運営体制: 運営を保育業者に委託します。

◇利用条件

利用資格: 京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員(週 30 時間以上勤務、学術振興会特別研究員を含む)、医員

★開室期間: 平成29年4月5日(木)～平成30年3月30日(金)
★開室日時: 月曜日～金曜日 午前9時～午後6時
(時間外保育は、午前8時から9時/午後5時から6時)
★保育場所: 京都大学男女共同参画推進センター
★利用資格: 京都大学に所属する学生、研究等に携わる教職員
(日本学術振興会特別研究員を含む)
★対象乳児: 生後9週目～15ヶ月未満(退室時)の健康な乳児
★定員: 4月～5月: 3名、6月～8月: 6名、9月～翌3月: 18名
※平成29年度新入学生・新着担任者、及び諸事情により自効体の保育所の3月入所に申し込めなかった方を優先します。
詳細は男女共同参画推進センターのホームページで!
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/index.php>

◇利用料金(税込、乳児 1 人あたり):

週5日利用: 50,000 円/月、学生 40,000 円/月

週4日利用: 44,000 円/月、学生 35,000 円/月

週3日利用: 35,000 円/月、学生 28,000 円/月

週2日利用: 25,000 円/月、学生 20,000 円/月

※1) 週4日、週3日、週2日の利用は、あらかじめ曜日を指定して、利用するものとします。

※2) 月の途中の入・退室は日割り(1 日 2,500 円/学生 2,000 円(税込))計算も可能です。

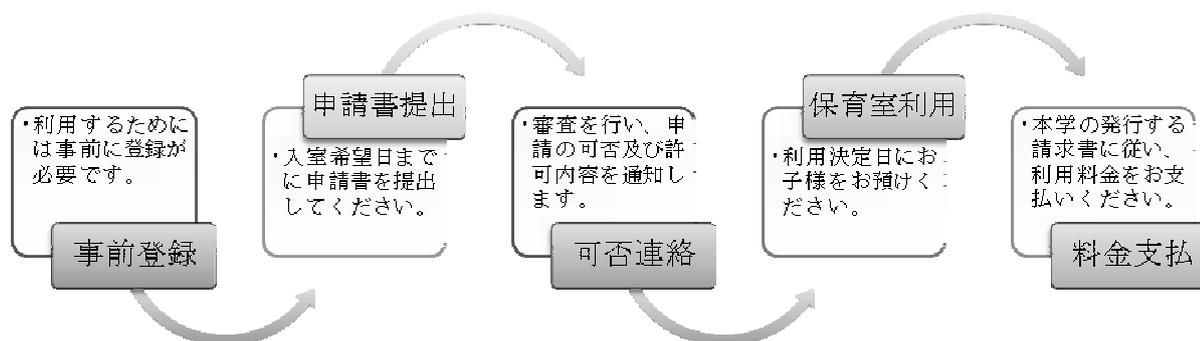
※3) 時間外保育料金は、30 分 1,000 円/学生 800 円(税込、乳児 1 人あたり)です。

※4) 紙おむつ、ミルク、おやつ、食事等は利用料金に含まれませんので保護者が持参してください。

※5) 双子等の複数の乳児が利用する場合の利用料金は、乳児1人当たりについて、所定の利用料金に 80/100 を乗じた額とします。

入室申込: 1 ヶ月単位での申込みとします。但し、入・退室の月はこの限りではありません。

◇利用方法



1. 事前登録

利用希望の方は、別紙 1「事前登録票」に必要事項を記入のうえ、事前登録を行ってください。事前登録票は、ホームページ (<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>) からダウンロードし、メールで送付することもできます。

送付先:京都市左京区吉田橋町
京都大学男女共同参画推進センター保育室利用係
メールアドレス:w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

(注) 定員を超えることが予想される場合は、先に事前登録した方の利用が優先されます。

2. 保育室利用申請書提出

原則として、入室希望日の 1 ヶ月前までに、別紙 2「利用申請書」・別紙 4「健康・身体状況伺い書」を提出してください。送付先・方法は事前登録と同様です。ただし、特別な事由のある場合は、事前登録票と合わせて、入室希望日の 1 ヶ月以内の提出も受け付けます。なお、申請事項に変更が生じた場合は、別紙 3「利用変更申請書」に変更内容を記載し提出してください。

なお、保育室入室までに自治体が発行する利用不可通知の控えを提出する必要があります。

3. 申請結果通知書の交付

受入の可否については書類審査を行って決定し、男女共同参画推進センターから申請者に「申請結果通知書」によりお知らせします。

4. 保育室の利用

保育室の利用については、「保育室利用の手引き」及び「京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室利用規程」を遵守し、利用してください。

5. 料金の支払い

利用者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。

*利用登録・申請において得た個人に関わる各種情報は、保育室の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

別紙一覧(省略)

別紙 1:「保育園入園待機乳児保育室」利用の事前登録票

別紙 2:「保育園入園待機乳児保育室」利用申請書

別紙 3:「保育園入園待機乳児保育室」利用変更申請書

別紙 4:「保育園入園待機乳児保育室」健康・身体状況伺い書

■保護者懇談会(2018年1月29日)



「保育園入園待機乳児のための保育室」の利用者を対象に保護者懇談会を行いました。育児・介護支援事業WG主査 小西由紀子先生の司会進行で、12名の参加者が一緒に昼食を食べながら、子どもたちの保育室での姿をスライドで見たり、保育士さんから日々の様子や、成長の過程を教えてもらうなどして、交流を深めました。



平成 28 年度待機乳児保育室 利用者アンケート（回答者：20 名）

・ どうやってこの待機乳児保育室を知りましたか

センターの HP を見て：6 名

知人の紹介：7 名

ポスターを見て：6 名

・ 翌 4 月以降の状況

認可保育園・認定こども園を利用：16 名

小規模保育事業所を利用：1 名

その他：3 名

・ 月齢制限のため、年度途中で退室された利用者の方対象（1 名）

3 月末までの状況

次が決まらなかったため、自宅で世話をした：1 名

・ 利用者の声

・ 毎日楽しく通園させていただき、感謝しております。

・ 待機児童乳児室を利用することができたお陰で 10 月から研究を開始することができました。また、保育士さんやスタッフの方々、皆様が優しく親切で子供も楽しそうに過ごしていたので安心できました。写真を時々頂いたり、クリスマスが退室の時に写真付きのプレゼントがとても嬉しかったです。子供が大きくなったら見せようと思います。

・ いつも素晴らしい保育をしていただき、感謝しております。子どもも保育園に行くのを楽しんでいるようです。

・ よい保育士の先生方に助けていただき、刺激をたくさん受けて元気に育てしております。非常に助かっています。ありがとうございます。

・ 4 月～6 月までお世話になりました。粉ミルクがアレルギーのため飲めなかったのですが、手間のかかる冷凍母乳で対応して下さい、大変助かりました。

また、保育室内に授乳室があり、登園時、帰宅前などに授乳できたのも良かったです。子供の笑顔から、保育士さんは勿論、事務所の方々にも沢山可愛がって頂いているのが伝わってきて、安心して預けられました。

色々お世話になり、本当にありがとうございました。

・ いつも大変お世話になっております。出産も育児も初めてで不安しかない状況で産休直

後の職場復帰は難しいと悩んでおりましたが、急な申請であったのにも関わらず、快く入室を受け入れてくださり本当に感謝しております。

毎日の状況もご丁寧に教えていただいたり、保育士の皆様方にはとっても良くしていただきまして、いつも安心して預けることができました。息子もたくさんのお友達に囲まれ、日々たくましく成長しているように思います。本当にありがとうございます。

・大変手厚い保育をして頂き、夫婦共々大変感謝しております。いつも温かい雰囲気の中で、行事の度にいろいろお部屋を飾ってくださったり、クラフトをくださったり、写真をくださったり、本当に嬉しく思っております。年間通して、娘も精神的に穏やかに過ごせたと思います。この園がなければ、到底仕事は今のようには出来ていませんでした。本当に有難うございました。

・いつもお世話になっております。

私たちは夫婦共働きで、妻が仕事復帰を求められる中、昨年、息子が待機児童になってしまった際にはどうなることかと思いました。様々な手段についてインターネットなどで検索したところ、当保育室を見つけました。申請から利用日まであまり日数がなかったにもかかわらず、手続きや面談など速やかに進めていただき、大変助かりました。保育室の雰囲気も大変良く、何より息子がいつもニコニコと幸せそうにしています。本当にありがとうございました。

・利用当初からとてもアットホームな雰囲気で、緊張していた私も（おそらく）子供も大変癒されました。また、愛情深く保育していただき続けている日々心から感謝しています。待機児童保育室ではなければ、ずっとお世話になっていたと思います。本当にありがとうございました。

・生後9週目からお世話になり、大変感謝しています。

私は大学院生で、休学もしていませんでした。仕事をしている方より、認可保育園の入所が難しく、また、学生には育休がないので、保育室を利用して、とても助かりました。ありがとうございました。

・この半年の間、大変お世話になりました。娘は保育室での生活はとても楽しそうで、日々日々健康に成長しています。保育室のほかの赤ちゃんとも仲良く、いい友達になって、嬉しそうです。保育士さん方のお世話、心より感謝します。また会いたいです。

・できたら何となくでもいいので「今日はこの先生がこの子を見る」という担当があれば、帰りの時に担当の先生からわが子の1日の様子を全部聞けるのでいいなあ、と思いました。

皆さん優しく丁寧なので問題ないですが「〇〇どうでした？」て聞いた時に、「えっと誰か知ってます？」みたいなこともあったので。

全体としては満足しています。ありがとうございます。

・出産2か月後からお世話になっており、手続きも直前になってしまいましたが、とても迅速に対応していただき、感謝しております。

保育士さんたちにも、本当に丁寧に、温かく接していただき、安心して預けることができました。このまま、こちらにお世話になりたいぐらいです。

・子どもが生後9週目のまだ首が座らないうちから「ゆりかご」にお世話になりはじめました。ゆりかごの皆さま方がこの月齢の子どもを受け入れて下さる体制をつくってくださったお蔭で、こんなに早い時期から預けることができました。特に日中授乳に伺うタイミングに関して、先生方は随分苦慮されたのではないかと思います。予定時間より早く空腹になり子どもが泣いても上手くあやして下さる先生方には、「さすが保育のプロ」と思わずにはられません。また発達を促す遊びを色々取り入れてくださったり、甘えたいときは存分に甘えさせてくださるなど、子どもは大変充実した生活を送ることができたと思います。重ね重ね御礼申し上げます。

核家族化が進み、日本の母親たちの多くが「育児がつらすぎる」と悲鳴をあげる時代と言われます。一方で、アフリカのある部族には、子供たちを仲間全員で子守りする「共同養育」の環境が受け継がれており、そのお蔭で育児をしながらでも妊娠・出産し次々と子どもを増やし繁栄できるようになったそうです。私はゆりかごの皆さま方に「共同養育」をしていただいたお蔭で、スムーズに仕事に復帰でき、強い育児ストレスや孤立を感じずに過ごせたと思います。

ゆりかごの皆さま方に心より感謝致します。

・お世話になっております。12月からそちらに通わせていただき、言葉では語りつくせないほど助けて頂きました。私が復職し、(夫は育児休暇が取れないポジション) てんやわんやの状態です。育児と復職が重なりましたので、保育室の支援がなければ復職や生活が成り立たない状態でした。女性の職場復帰に欠かせない制度だと感じています。保育室の先生方、事務の方々にもとてもよくして頂き、退室するのが寂しいです。本当に世話になりました、深く感謝申し上げます。

・いつも笑顔と愛情をもって子供達に接していただき、安心して仕事ことができました。年度途中で認可保育園に入れた時も、もちろん入れなくて困っていらっしゃる方が沢山いらっしゃるわけですし喜ぶべきだったのですが、こんなに早く決まるなんて、、と正直がっかりしてしまった自分がいました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

・利用できて本当に助かりました。子供の社会性や運動能力も大きく変わり、彼女にとってもとてもよい経験になりました。母乳が詰まりやすく状態がよくないため、預けている途中で授乳に行けることが大変ありがたかったです。

・預けていただいた間に私は、仕事も勉強もできて、遊ぶ時間もよくありました。本当に心より感謝をしています。

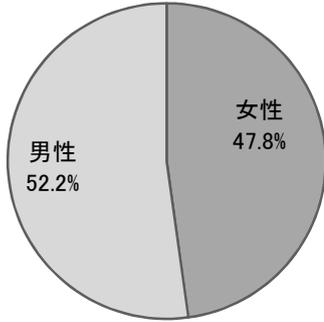
・皆さん、優しくしてくれて本当にありがとうございました。

・このたびは、娘が保育室を利用させていただき、誠にありがとうございました。保育士の皆様にいつも温かく迎えていただき、連絡票にも愛情あふれるコメントをいただき、本

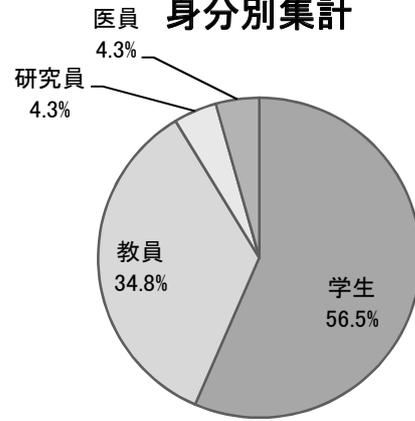
当にうれしくありがたく思っております。産後はまだまだ子どものことが気がかりでありますが、職場の敷地内に預けられることで、心と体の両方の負担が少なく過ごさせていただきました。本当にどうもありがとうございました。

平成 29 年度待機乳児保育室利用実績

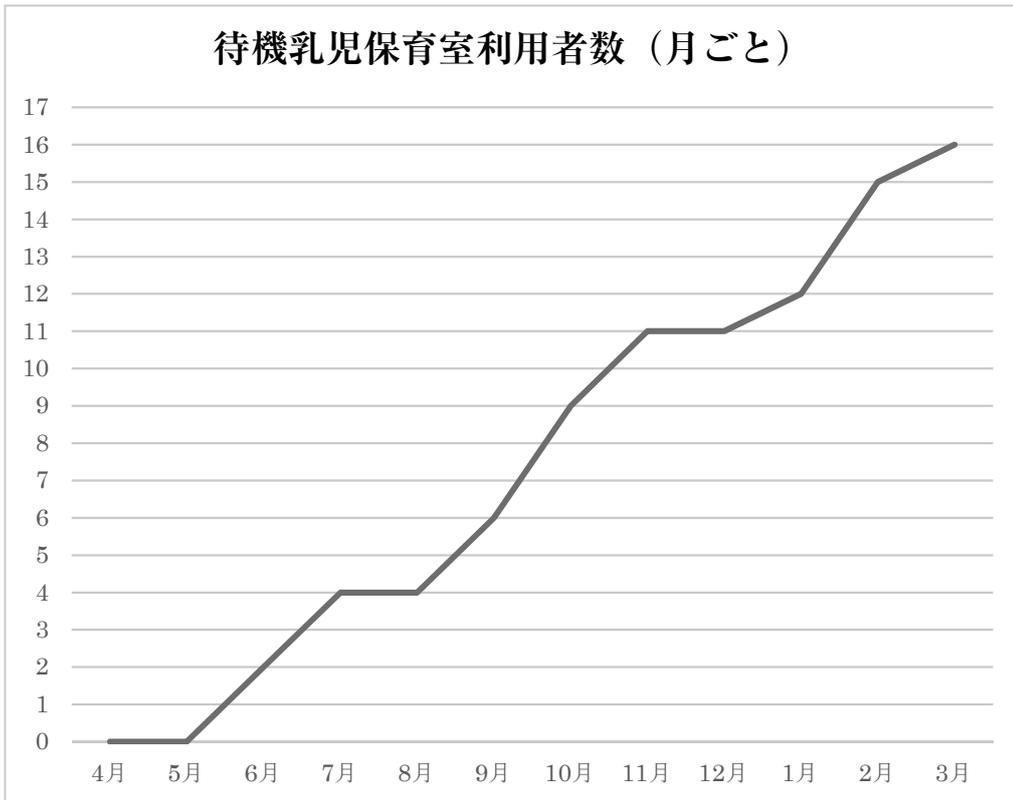
性別集計



身分別集計



待機乳児保育室利用者数（月ごと）



おむかえ保育

■利用案内

決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない…などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を開設します。この保育は、研究等仕事の都合で子どもを保育機関に迎えに行けない保護者に代わり、保育者が子どもを迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。運営については、保育業者に委託して実施します。ご利用を希望される方は、下記の内容を熟読のうえ、お申し込みください。

◇利用条件

利用資格:

京都大学に所属する学生、常勤の教職員、研究員(日本学術振興会特別研究員を含む)、医員

保育対象:

生後2カ月から小学3年生までの利用資格者の子ども

利用定員:

子ども5人程度(兄弟、年齢構成により異なる場合がある)

利用料金:

①保育料金970円(税込)/30分～1,410円(税込)/30分(時間帯により異なる)

* 子ども1人についての料金です。

* 利用は2時間以上、30分単位で受け付けます。

* 学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。

②その他利用手数料(状況により異なる)

※交通費・夕食等は別途実費が必要です。

※詳細については別紙3「おむかえ保育利用料金表」をご覧ください。

1. 事前登録(無料)

別紙1「おむかえ保育事前登録票」に必要事項を記入のうえ、利用希望日の2日前の15時までに事前登録を行ってください。登録事項に変更が生じた場合は、再提出してください。

2. 利用方法

(1)利用申込(FAX)

利用希望日の2日前の15時までに、別紙2「おむかえ保育申込票」を、センターにメールかFAX(075-753-2436)にて申込みをしてください。

事前登録票を2日前までに提出済みで、特別な事由のある場合は、利用希望当日の15時まで申込を受け付けます。ただし、利用希望当日の申込みの場合は、保育者手配の都合によりご希望に添えない場合がありますのであらかじめご了承ください。



おむかえ
に行くって

男女共同参画推進
センターで保育します

子どもを保育機関に迎えに行くことのできない研究者に代わって、センターが子どもを迎えに行き、センターの保育室にて保育を行います。

利用日時：月曜日から金曜日 午後5時から10時
利用資格：本学の学生、常勤の教職員、研究員、医員
利用定員：生後2ヶ月目～小学3年生までの子ども(5名まで)

登録と申込が必要です。(有料、学部学生・院生は半額補助があります。)

詳細は、男女共同参画推進センターのホームページを参照してください。
(URL) <http://www.cpm.kyoto-u.ac.jp/> (TEL) 753-2437

おむかえ保育

(2)利用申込受付連絡

別紙2の申込票の受信を確認後、センターから、指定された連絡先に受付確認の連絡をします。

(3)利用可否連絡

申込日の翌開室日に、センターから利用の可否を電話連絡します。当日申込の場合は、16:30 までに利用の可否を電話連絡します。

(4)保育者との打合せ

保育者手配が可能な場合、利用前日(当日申込の場合は当日)に保育者から保護者に電話がありますので、迎えに行く保育機関の場所、方法、夕食の有無、実費支払いの金額等について、トラブルにならないよう詳細に打ち合わせを行ってください。

子どもの夕食は、保護者が用意するか、保育者に購入を希望する場合は、コンビニエンスストア等で購入できるもの(おにぎ

り、パン等簡易なものに限る)を指定してください。

乳児のミルク、離乳食(レトルト食品など)、哺乳瓶、おむつ、着替え等は保護者が用意してください。

(5)利用

利用にあたっては、「京都大学男女共同参画推進センターおむかえ保育利用規程」を遵守してください。

お子様が当日熱のある場合や、伝染病疾病の疑いのある場合は利用できません。この場合、キャンセル料が発生しますので、あらかじめご了承ください。

3. 料金の支払い

保護者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。振込手数料は、保護者負担となります。

利用料金①、②に掲げる以外の料金(交通費、夕食費等)については、子どもをセンターに迎えに行った際、実費額を保育者へお支払いください。

◇保育について

保育場所：京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター保育室

◇補償制度について

万一の事故の場合には、施設に起因する損害は国立大学法人総合損害保険、業務に起因する損害は保育委託業者の賠償責任保険が適用されます。

○事前登録票、申込票は、ホームページ

(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>)からダウンロードできます。

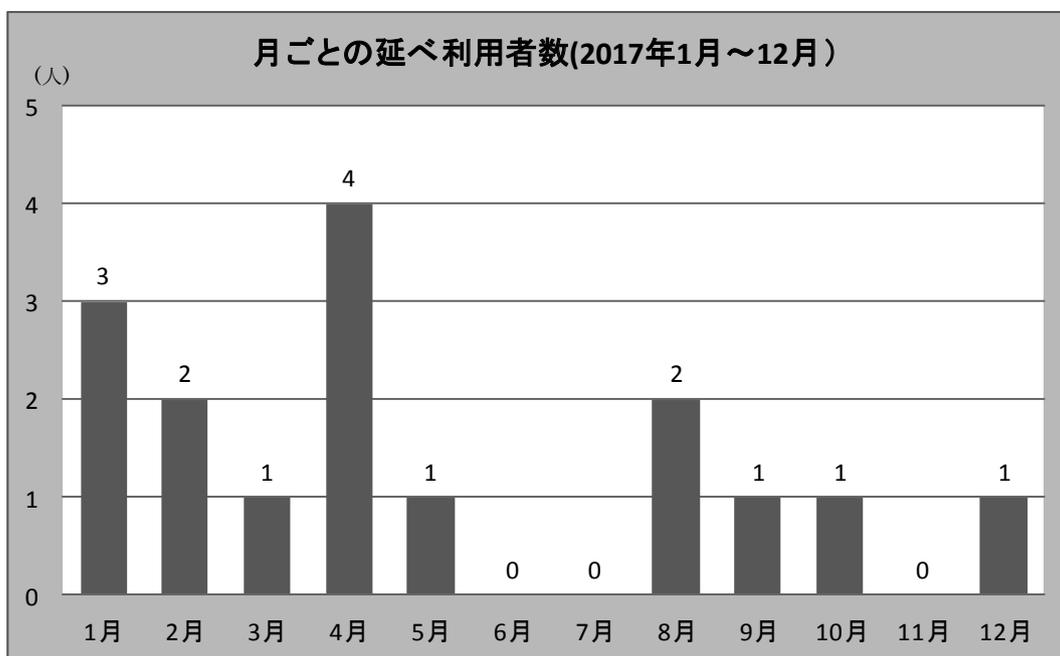
○事前登録及び利用申込において得た個人に関わる各種情報は、おむかえ保育の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

別紙一覧(省略)

別紙1:「おむかえ保育事前登録票」

別紙2:「おむかえ保育申込票」

別紙3:「おむかえ保育利用料金表」





京都大学男女共同参画推進本部では
ベビーシッター利用育児支援を行っています。



京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者（以下「ベビーシッター事業者」という。）が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ①ベビーシッター派遣事業
- ②双生児等多胎児家庭育児支援事業

【注意事項】

○割引券発行枚数の上限は、1家庭につき①：280枚、②：2枚まで。

○最初の利用方法

- 1 ベビーシッター事業者（webサイト）もしくは別紙に掲載されている、「割引券取扱事業者」から選んだベビーシッター事業者と事前に請負契約をする。
- 2 下記の必要書類を人事課職員掛まで直接お持ちいただくか、学内便等でお送りください。

- 1) ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書
- 2) ベビーシッター事業者との利用契約書（請負契約書）の写し

※以下のことが明記されているかご確認ください。

- ・ベビーシッター事業者の住所・名称・代表者氏名
- ・利用者の住所・氏名
- ・サービス内容・料金
- ・その他必要な事項

3) その他必要書類

- ①については、配偶者の在職証明書等（配偶者が本学教職員の場合にはその旨を申告）
- ②については、子供の年齢・人数がわかる書類（扶養に入っている場合にはその旨を申告）
- 3 学内便等で割引券が届きましたら、利用者記入欄に記入の上、利用時にベビーシッターに割引券を渡してください。
ベビーシッターが「報告用半券」を返却しますので、必ず受け取ってください。
- 4 割引券利用後の「報告用半券」は、翌月5日までに総務部人事課職員掛へ学内便等で提出してください。

○2回目以降の利用方法

- 1 割引券の発行依頼を E メールにて、人事課職員掛までお送りください。

ベビーシッター育児支援割引券発行依頼（2回目以降）

所属・職名：氏 名：

利用月：平成 年 月 希望枚数： 枚

- 2 割引券が届いた以降は、最初の利用方法3、4と同じです。

○利用するベビーシッター事業者を変更した場合

ベビーシッター事業者変更届を、E メールに添付して、人事課職員掛までお送りください。なお、変更届の提出と割引券の発行依頼を同時に行う場合は、変更届に発行希望枚数等を記載してください。

○制度自体に関しましては、公益社団法人全国保育サービス協会 HP をご覧ください。

担当：男女共同参画推進本部（総務部人事課職員掛）

（内）本部 16 2283

E-mail g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Ⅲ 「病児保育」事業

病児保育事業ワーキンググループ活動報告

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」(以下、病児保育室)は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供(生後6ヶ月から小学校3年生)を対象とし、急な疾病により保育園／幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っています。事前登録制による運用で、登録者数はのべ1016名、うち平成29年度の新規登録者103名と年々増加しています(平成29年12月末現在)。定員は5名(感染隔離室1名を含む)であり、平成29年度は809名の利用がありました(平成29年12月末現在)。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日が続くこともしばしばみられますが、利用者からは概ね良いご意見をいただいています。また、今年度も京大病院オープンホスピタルでのポスター掲示やホームページ等を通じての広報活動も継続して行いました。

保護者からの要望を受けて、京都大学医学部附属病院感染制御部の承諾を得て平成28年4月より利用基準(利用開始時間)を変更しました。また、予約時間や事前登録方法の見直しも行った結果、より利用しやすくなったという声をいただいています。感染対策上、困難な点もありますが、京都大学職員・学生が育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要があると考えています。



病児保育事業WG主査 足立 壯一

■H29 活動記録

- ・10月28日(土) オープンホスピタルにポスター参加

病児保育室「こもも」

病児保育室は、2006年2月に附属病院内に開室しました。

2007年に、病児保育室登録者に対して利用者の声を聞くためのアンケート調査を行い、その結果出された意見に基づいて、2008年より、学生割引(半額)を導入、病児保育相談窓口の開設、お昼の食事メニューを増やす、ホームページに病児保育室のスタッフの紹介や保育室の紹介を写真入りで行うといった改善を行ってきました。

また、2009年2月には、感染隔離室の設置について、アンケートによる学内のニーズ調査を行い、2009年12月に病児保育室内に、感染隔離室を設置しました。

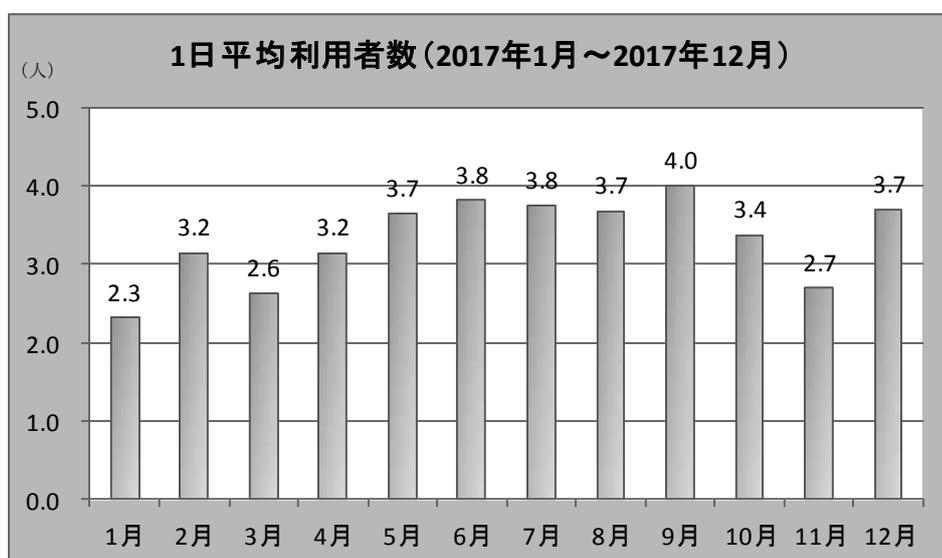
作年度より更に保育サービスを充実させるため、京都大学構成員にアンケートを行い、利用開始時間を7時30分からに変更しました。

■病児保育室利用状況

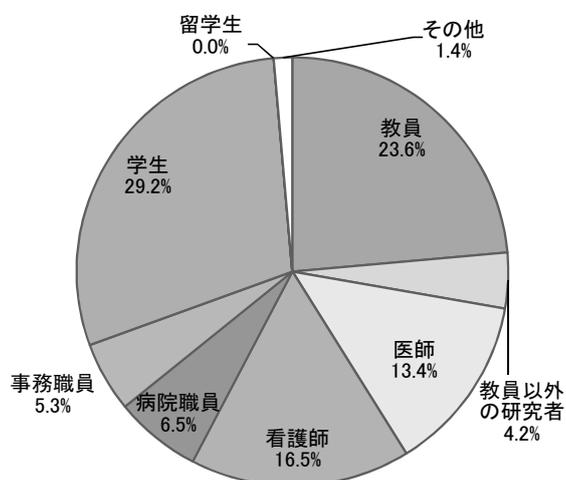
1.利用実績(2017年1月～2017年12月)

1)利用者数

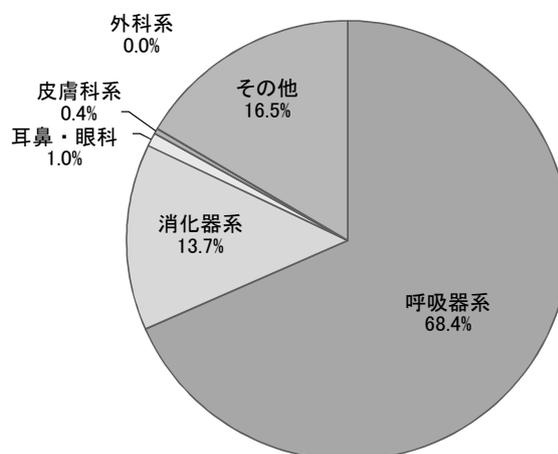
月	人数	うち隔離室利用者
1月	44	21
2月	63	9
3月	58	1
4月	63	1
5月	73	6
6月	84	2
7月	75	1
8月	70	1
9月	80	10
10月	71	1
11月	54	1
12月	74	5



2)利用者の職種別分布



3)利用疾患別延べ人数



京大病児保育室

こもも

- ★事前診察が必要。京大病院では7時から救急外来で受診できます。
- ★熱が38.5度以上でも利用できるようになりました。
- ★感染隔離室があります。
- ★病児保育室では、医師の観察があります。



- 開室日時：月曜日～金曜日 午前7時30分～午後7時
- 場 所：医学部附属病院 外来棟5階 
- 利用資格：京都大学の教職員および学生の子どものみで、生後6ヶ月から小学校3年生までの病中・病後の子ども（伝染性疾患を除く）
- 料 金：1時間500円（昼食・おやつ代込）
※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します
- 定 員：5名 



利用方法など、詳細は男女共同参画推進センターのホームページで！



http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo/byoujihoiku/index.html



新年あけましておめでとうございます。

皆さま、楽しいお正月を過ごされましたでしょうか。
今年のお正月は、例年よりも暖かく過ごしやすかったですね。

昨年より引き続き、感染性胃腸炎がまだまだ流行しています。
インフルエンザも流行の時期になってきましたので、
手洗い・うがいなど、いつも以上に心掛けてくださいね。

本年も、
子どもたちにとって楽しく安心できる温かい病児保育室であるよう、
また働きながら子育てをする保護者の方々への手助けとなりますよう、
職員一同協力して努めて参りたいと思います。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



こももでのインフルエンザの利用基準



インフルエンザが流行してきました。

今年もこももでは1月12日よりインフルエンザ対策を行うことになりました。
今回はこももでの、インフルエンザ対策を紹介します。

病児保育室内での感染拡大及び附属病院内での院内感染の防止のため、インフルエンザウイルス流行期には、38.5℃以上の発熱児は原則としてインフルエンザウイルス抗原の迅速検査を行い、陰性と判定された方のみ病児保育室でお預かりすることとします。

ただし、発症から12時間程度は迅速検査の信頼性が低いため、インフルエンザウイルス流行期の病児保育室の入室基準について以下のように定めています。

○ BT38.5℃以上の発熱時

発熱した時刻より、12時間以上経過してからインフルエンザウイルス抗原検査施行。

陽性→病児保育室利用不可。(発症後の利用基準は下記)



陰性→病児保育室利用可能。

○ すでに BT38.5℃あるが12時間未満の場合、病児保育室で BT38.5℃以上に上昇した場合、隔離室に移動して保育可能。

(家族・兄弟にインフルエンザ罹患者がいる場合は利用不可、またはお迎え)
12時間以上経過してから、インフルエンザウイルス抗原検査施行。

結果は、上記に準ずる。

○ インフルエンザ発症後は、解熱後 (BT38℃以下) 24 時間経過すれば隔離室で保育可能。

発症後5日経過しかつ解熱後3日(学童は2日)経過すれば通常保育室で保育可能。それまでは隔離室で保育。(学校感染症に準ずる)



◇ 隔離室優先順位について ◇

利用者の増加により、感染隔離室が既に空いていない状況があるかもしれません。

その場合は、入室時に38.5℃以上の発熱がある場合や、入室中の発熱の際には利用できないか、お迎えに来て頂く場合がありますのでご了承ください。

おもちゃ紹介⑨

～プラレールの電車～



インフルエンザが流行しているようです。「こもも」では1月末にインフルエンザ後の利用児が多かったですが、その後はインフルエンザ後の利用は少なく、落ち着いています。

保育園・小学校では流行しているところもあるようです。手洗いうがいをしっかりと乗り切りましょう。



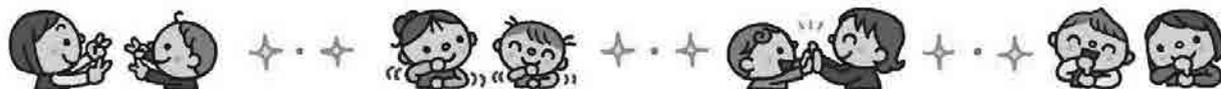
さて、男の子の人気の遊びナンバーワンのプラレールの新しい電車が入りました！新しい電車は速く走るし音も静かです。これからまた、みんなの遊びにたくさん付き合ってくれると思います。

それと一緒にプラレール踏切セットも入りました！

電車を通ると自動的に踏切が下りて、通り過ぎると踏切が上がり、自動車を通してくれます。トミカの車がぴったり使えます。

新しいセットでみんなが遊んでくれるのを楽しみにしております。





登録内容変更についての確認のお願い

京都大学男女共同参画推進センター
病児保育室 こもも
室長 足立 壮一

利用者各位

病児保育室にご登録いただきありがとうございます。
病児保育室では新年度にあたり、登録票の変更等の確認を行なっております。
平成 29 年度より下記の内容につきまして変更のある場合、病児保育室まで
Eメールで変更事項をお知らせ頂きますようよろしくお願いいたします。
皆様ご多忙の折大変申し訳ありませんが、ご協力を宜しくお願い致します。

連絡先：病児保育室こもも TEL 075-751-3090

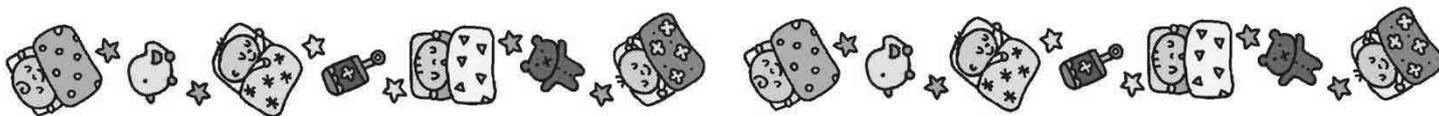
<変更事項>

- ・住所
- ・電話番号
- ・保護者勤務先 職種
- ・メールアドレス
- ・通園通学施設
- ・退職される(された)方、職種が学生でなくなる(なくなった)方



なお病児保育室利用対象が小学 3 年生までとなっていますので、
小学 4 年生になられる利用児はこちらで登録削除させていただきます。

登録様式は、京都大学男女共同参画推進センター 病児保育室 HP
(http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/hoiku_kaigo/byoujihoiku/) からダウンロードできま
す。





4月になりました

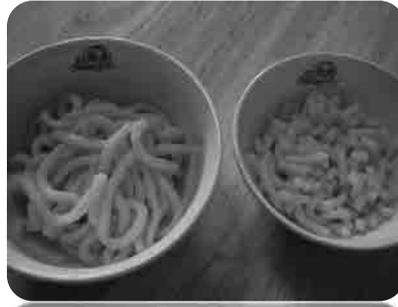


今年は、寒さが続いていましたが、ようやく春の日差しが心地よくなってきましたね。

今回は、こももでのお食事について紹介します。



こももの昼食は、病院内にあるファミリーダイニングさんで作っていただいています。
メニューは、おうどん・おにぎり・ハンバーグ・オムライス・サンドイッチです。
昼食とおやつ料金は、1時間の利用料金に含まれています。



乳児さんには、おうどんは、細かく刻んだり、柔らかく煮込んだりしています。
おにぎりは、小さなおにぎりにして提供しています。



その他のメニューも、子供さんの食べやすい大きさにカットして提供しています。

食物アレルギーや未摂取の食物のある子供さんには、
食物アレルギーチェック表を用いて、アレルギー食物や未摂取の食物除去の対応を行っています。

食物アレルギーの種類にもよりますが、メニューより卵除去はしていただけます。
そのほかの食物アレルギーについては、お手数ですが、お弁当を持参していただいています。

また、離乳食の乳児さんは、離乳食を持参していただいています。
ご希望により、お弁当がいい方は持参していただいても大丈夫です。

昼食の時間は、11時ころから食べ始めますが、
小学生の大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんたちは、もう少し遅い時間
から昼食をいただくこともあります。本人の体調などによって
少し時間は変わってきますが、1つのテーブルでお友達みんな一緒に
いただいています。



お食事について、不明な点・ご要望がある場合は、おっしゃってくださいね。

おもちゃ紹介⑩ ～音の出るおもちゃ～



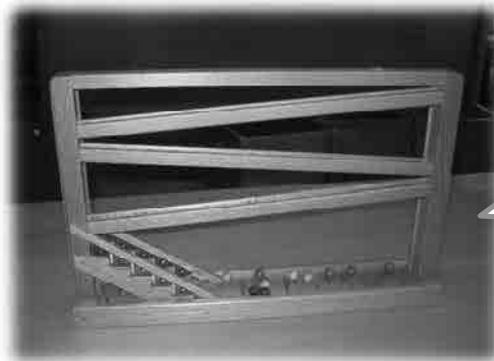
4月になりました。入園、入学、進級など、環境が変わったおともだちが多いことだと思います。4月はまだ寒暖の差も大きく体調を崩しやすい時期です。しっかり食べてしっかり寝て、風邪などひかないように気を付けてください。

さて、保育室には音の出るおもちゃがたくさんあり、どれも子どもたちに大人気です！！



歌の絵本！！
小さい子たちは大好きです。
歌に合わせて体を揺らしたり
一緒に歌ったりして楽しんでいます。

新幹線が走るおもちゃ。踏切の音、電車の走る音、鉄橋の音、ドアの音など色々鳴ります。電車好きの子に人気あり。



小さい球を転がすと最後の階段で音が出ます。
優しいきれいな音が出ます。
何回でも転がしたくなります。



子どもが喜びそうなものがたくさんついているおもちゃ。
特にチャイムを鳴らすとおとうさんやおかあさんが出てくるところが人気です。本物のチャイムと間違えて「おかあさんだ！」と入り口をみることもたびたび。



おもちゃ紹介⑪

～おうちと人形～



おうち 入口



おうち 窓



病児保育室にはこどもが入れるくらいの「おうち」があります。

みんなは「おうち」が大好き。人形やままごとなどのおもちゃを持って入って遊んでいます。

おもちゃをたくさん持ち込むとせまくなって、座る場所もなくなるくらいなんです。それでも喜んで入って遊んでいます。

こどもは狭いところが大好き。狭い空間に居る安心感があるのかなあと思ったりします。

おうちにはポストがついていてお手紙が入っています。「ゆうびんでーす」とお手紙をドアの差込口にいれます。ずーっと繰り返して遊んでいたります。

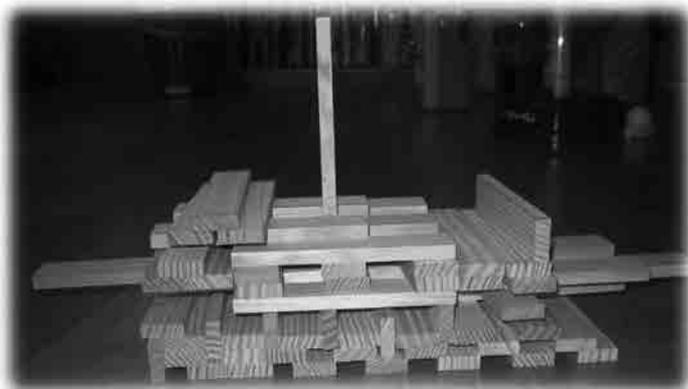
「めるちゃん」というお人形。ベビーカーに乗っています。ベビーカーを押すのもみんな大好きです。男の子も女の子も「お買い物に行ってきたーす。」とベビーカーを押して遊んでいます。



おもちゃ紹介⑫ ～カプラとレゴ～

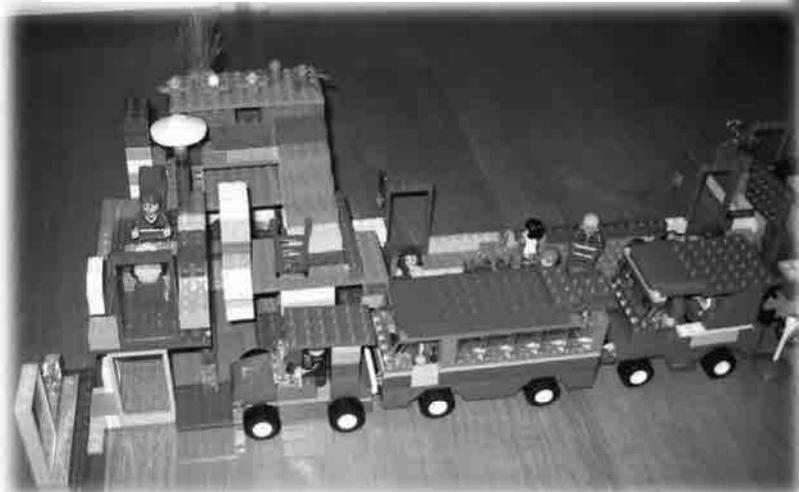
保育園でもおなじみだと思いますが子ども達に人気のある「カプラ」と「レゴ」です。保育園年長さんから小学生の男の子たちがよく遊んでくれます。

この間も小学生のおともだちがカプラで作ってくれました。左はふね、右はお城だそうです。



こちらはレゴで作ったおうち。
3階建てのおうちには屋上に花が咲き車は家の横につけられます。右はシンプルなおうち。バイクや自転車に乗った人が並んでいます。

子どもたちの発想の豊かさにはいつも驚かされます。ゆっくりと時間をかけて遊べるので、わたしたちも一緒になって作って楽しんでいます。



おもちゃ紹介⑬ ～アンパンマンのジュース屋さん NEW～

新しいおもちゃがいくつか入りました！！

みんなが好きでよく遊ぶ「アンパンマンのジュース屋さん」に、新しいタイプのジュース屋さんが出ましたよ。

サイズが大きく、前面の扉を開けてジュースの補充ができ、ジュース缶もたくさん入ります。缶を捨てるバイキンマンのゴミ箱もあります。チーズのカードも付いています。



みんなが遊びたがりますが、小さい子には前からあるタイプもおもしろいようで、それぞれ違うタイプのジュース屋さんで遊んでいます。みんなにたくさん遊んでもらえてアンパンマンもうれしそうですよ。

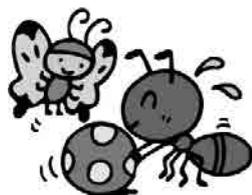
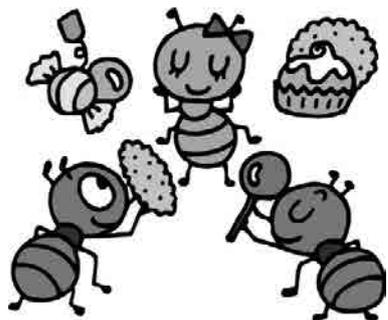


おもちゃ紹介⑭ ～きかんしゃトーマス レッツゴー大冒険～

みんなが大好きな「機関車トーマス」のおもちゃです。

色々なところをトーマスが走っていきます。ヘリコプターのハロルドに助けてもらったり、橋を渡ったり、クレーンのクランキーに上げてもらったりしてゴールを目指します！

その度に手前にあるスイッチやレバーを操作するのですが、それがとてもおもしろいようで、ついついハマってしまいます。3歳くらいから小学生まで遊べるおもちゃです。



おもちゃ紹介⑮ ～くみくみスロープ～



10月は運動会シーズン。保育園の運動会は終わりましたでしょうか。このところ雨が多いので「延期になった…」というところもあるのでは。

さて今回は、くもん出版の「くみくみスロープ」というおもちゃです。

いろいろなパーツを組み合わせてスロープを作り、小さな球を転がします。よく転がって、おさらの部分ではくるくる回って落ちて楽しいです。パーツをはずしたりつけたりも案外簡単で、2～3歳の子でも組み立てられ、いろんな形にすることができます。作ってもらうなら1歳くらいから、自分で作るなら小学生まで、楽しんで遊べます。

この間来てくれた5歳のお友だちが、見本の写真を見ながら、大きなスロープを一人で組み立てて遊んでいました！！見本通りでなくても自由に組み立てられるのもいいところですよ。





こももでのインフルエンザの利用基準



インフルエンザが流行してきました。

今年もこももでは12月18日よりインフルエンザ対策を行うことになりました。
今回はこももでの、インフルエンザ対策を紹介します。

病児保育室内での感染拡大及び附属病院内での院内感染の防止のため、インフルエンザウイルス流行期には、38.5℃以上の発熱児は原則としてインフルエンザウイルス抗原の迅速検査を行い、陰性と判定された方のみ病児保育室でお預かりすることとします。

ただし、発症から12時間程度は迅速検査の信頼性が低いため、インフルエンザウイルス流行期の病児保育室の入室基準について以下のように定めています。

○ BT38.5℃以上の発熱時

発熱した時刻より、12時間以上経過してからインフルエンザウイルス抗原検査施行。

陽性→病児保育室利用不可。(発症後の利用基準は下記)



陰性→病児保育室利用可能。

○ すでにBT38.5℃あるが12時間未満の場合、病児保育室でBT38.5℃以上に上昇した場合、隔離室に移動して保育可能。

(家族・兄弟にインフルエンザ罹患者がいる場合は利用不可、またはお迎え)
12時間以上経過してから、インフルエンザウイルス抗原検査施行。

結果は、上記に準ずる。

○ インフルエンザ発症後は、解熱後(BT38℃以下)24時間経過すれば隔離室で保育可能。

発症後5日経過しかつ解熱後3日(学童は2日)経過すれば通常保育室で保育可能。それまでは隔離室で保育。(学校感染症に準ずる)



◇ 隔離室優先順位について ◇

利用者の増加により、感染隔離室が既に空いていない状況があるかもしれません。

その場合は、入室時に38.5℃以上の発熱がある場合や、入室中の発熱の際には利用できないか、お迎えに来て頂く場合がありますのでご了承ください。



伝えたい、
医療を支える
わたしたちの力

京大病院

オープンホスピタル

OPEN HOSPITAL 2017

10/28^土
2017

10:00-16:00

場所 当院外来棟
アトリウムホール 他

国立大学法人【特定非営利活動法人】
京都大学医学部附属病院
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
TEL.075-751-3005
<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp>

京大病院

京大病院 寄席 大浴場 予約不要

14:00-15:00 病床第一病室・第二病室
様式各様 様二様





京都大学男女共同参画推進センター 病児保育室 こもも



I. 病児保育室とは

「京都大学男女共同参画推進センター病児保育室」(以下、京大病児保育室)は、京都大学教職員・学生の子とが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない種別が専ら研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が無任する安心できる環境において、病児の保育を行っています。

II. 病児保育室の利用状況について

2015年6月に病児保育室利用許可基準を見直し、2016年4月より開室時間の変更を行い、利用しやすい環境に取り組みました。

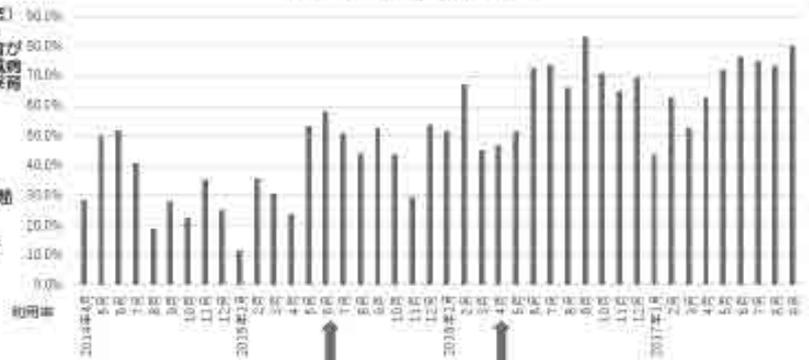
左記は利用許可基準見直し約1年前から現在までの病児保育室利用率を調査した結果です。

対象：病児保育利用者 生後6ヶ月～小学3年生

期間：2014年4月1日(火)～2017年9月29日(金)

利用率：開室日数×5人(定員)を総数として算出

病児保育室の利用率の推移



左記のグラフから

- ・利用許可基準の見直し前は、利用率32.6%でしたが、見直し後は60.6%となり、以前より利用率が上昇したという結果が得られました。



III. 病児保育室での熱があるときの過ごし方

病児保育室では熱のある子と回復期の子ども同じお部屋で過ごしています。

熱がある子には、その時々状況で体温調整が必要となります。体温が上がる前には寒気がして手足が冷たくなるので温めてあげたり、体温が上がってしまうと、体全体が熱くなるので薄着にしたり、汗をかいた時は涼感タオルをきています。

熱が高くても、比較的機嫌よくおもちちゃで寝たり、寝度やおやつを摂取できる子もいますが、しんどくてぐったりしてしまう子どもたくさんいます。機嫌よく過ごせる場合は、熱の経過や本人の表情を観察しながら、解熱剤は使用せずに様子を見ています。

しんどくなると、食べることもできず、水分をとることも難しいことが多く、脱水になったり、体力も落ちてきてしまいます。このような場合は、病児保育室担当の医師と保護者の方と相談し、脱水予防、体力維持のために解熱剤を使用することもあります。

また、既往で熱性痙攣があったり、38.5度以上で解熱剤を使用して欲しいなど、お話しいただければ病児保育室担当の医師と状態を相談しながら、症状に合わせた対応をさせていただきます。



IV. 病児保育室での薬の飲ませ方

病児保育室では、内服薬のある子は抱っこしてもらい、しんどい時でも子どもたちに話かけて飲んでもらっています。薬を飲むのが好きな子、得意な子どもは、やはり、苦手な子どもたくさんいます。

薬は基本的にお白湯で内服してもらっています。薬を少量のお白湯で粘正状にし、スプーン1口で内服できるようにしています。

薬が苦手な子は、製剤や薬を握っている動作が怖い場合があります。そのため、少しお茶をいれ、お茶を握って薬を飲ませたり、「早く飲んでお茶が飲めるよ!」など、少しでもお茶を握る喜びを取り除き、薬が飲めたら「飲めたねー!がんばったねー!」と飲めたことを褒めて、子どもが白湯を握るようにしています。

また、お兄ちゃんやお姉ちゃんになってくると、薬の大切さを説明すると納得して飲んでくれる子もいます。

ジュースやお茶ゼリー、これに混ぜて飲ませてほしいと希望のある方は、相談していただくと大丈夫です。薬の飲み方をお話しください。

V. 病児保育室での遊び～ある日の保育室



病児保育室は、いつも行っている保育園とは違う場所、まして遊び出だりして調子が悪い時に来るので、子どもたちが不安になるのは仕方がないことです。その不安を和らげ「楽しいな」と感じて過ごしてもらうことを一番考えています。「わあ、これで遊ばたい!」と思ってもらえるように、おもちゃをたくさんそろえています。

年齢構成も様々で、同じような年齢の子が集まることはあまりありません。

この日は3歳前後の男の子がそろい、プラレールやプリオのレールセットを総動員して、部屋いっぱいレールを敷きみんで遊びました。

…と言ってもなかなか一緒に遊ぶところは深まらず、各々が電車を走らせて満足していただのですが、



子どもたちに人気のおもちゃ



アンパンマンのジュース屋さん。1歳ころから遊べます!



みんなが好きな「機関車トーマス」のおもちゃです。



「こもも」のおうち。ままごとや人形を持って入って遊んでいます。

IV 「就労支援」事業

就労支援事業ワーキンググループ活動報告

本 WG の主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の実績は、第1期で応募者 34 名、利用者 17 名、第2期で応募者 34 名、利用者 16 名と、時期により変動はあるものの、ここ数年増加傾向にある。予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。



雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適応した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。

就労支援事業WG主査 喜多 恵子

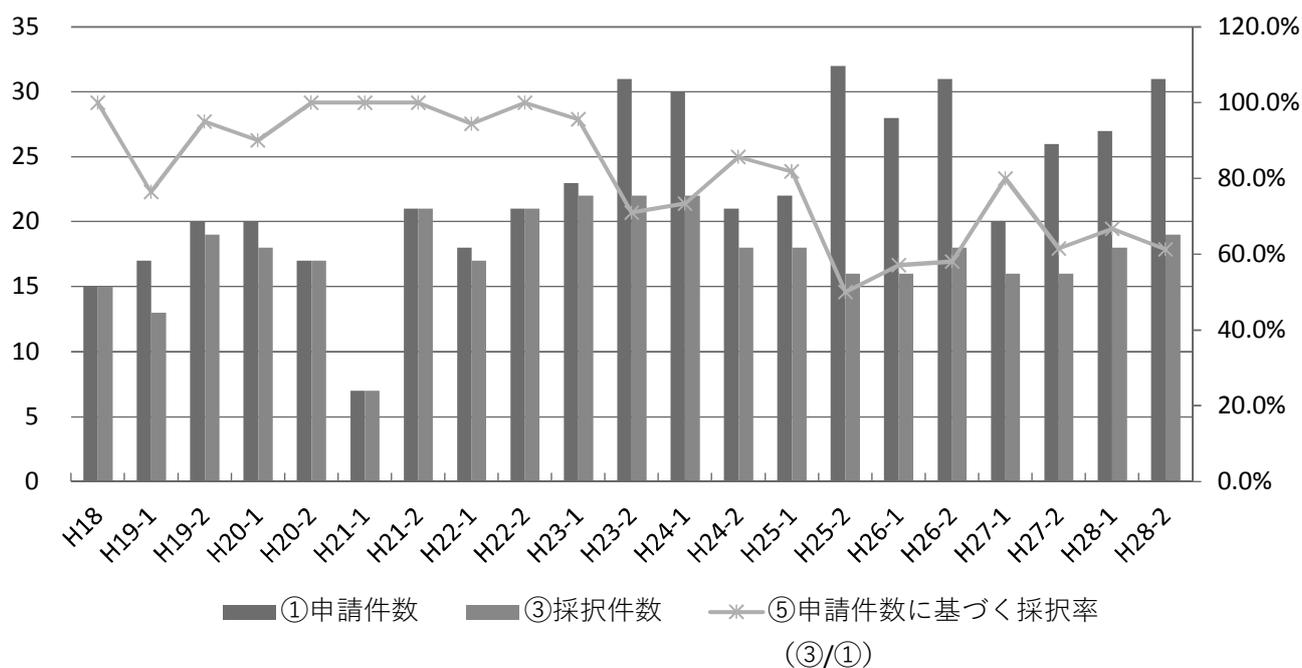
■H29 活動記録

- 6月1日(木) 第44回就労支援事業ワーキンググループ会議
- 6月5日(月) 平成29年度2期 就労支援事業による支援希望者募集開始
- 8月3日(木) 第45回就労支援事業ワーキンググループ会議
- 12月4日(月) 第46回就労支援事業ワーキンググループ会議
- 12月11日(月) 平成30年度1期 就労支援事業による支援希望者募集開始
- 1月31日(水) 第47回就労支援事業ワーキンググループ会議

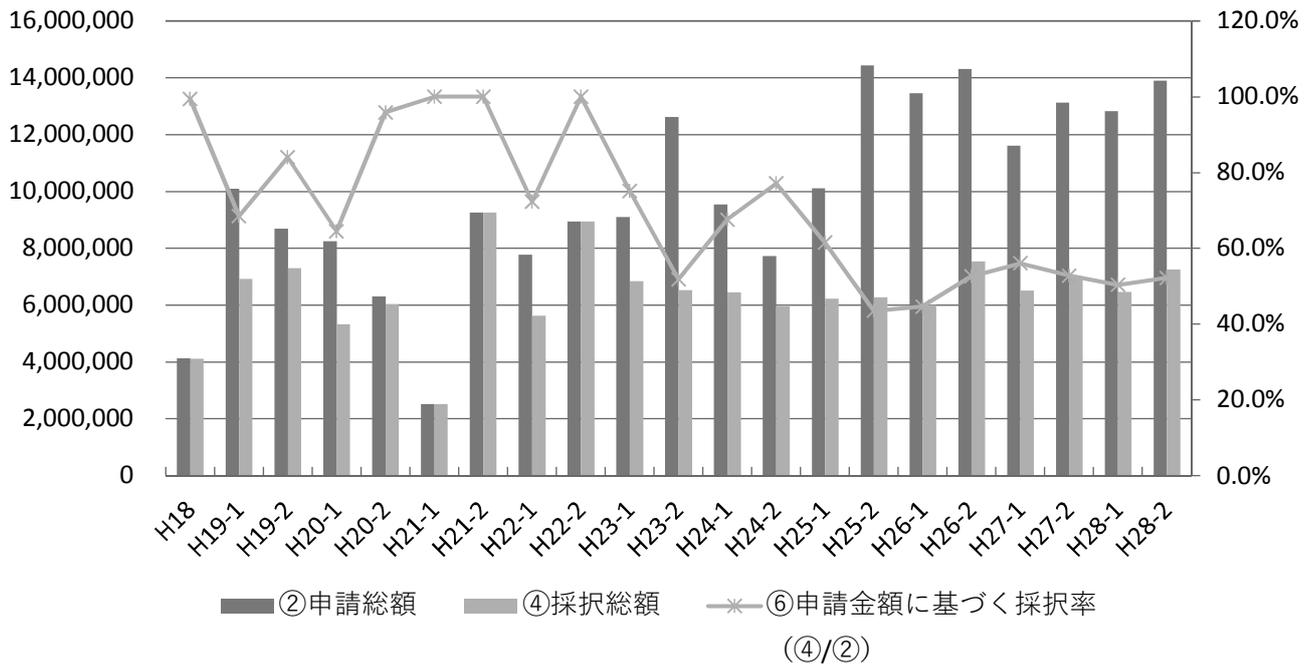
研究・実験補助者雇用制度 利用状況

期 間	①申請件数	②申請総額	③採択件数	④採択総額	⑤申請件数に基づく採択率	⑥申請金額に基づく採択率
H18	15	4,124,400	15	4,100,400	100.0%	99.4%
H19-1	17	10,091,600	13	6,911,800	76.5%	68.5%
H19-2	20	8,683,500	19	7,291,000	95.0%	84.0%
H20-1	20	8,246,400	18	5,321,200	90.0%	64.5%
H20-2	17	6,294,300	17	6,035,100	100.0%	95.9%
H21-1	7	2,505,000	7	2,505,000	100.0%	100.0%
H21-2	21	9,261,000	21	9,261,000	100.0%	100.0%
H22-1	18	7,772,500	17	5,617,500	94.4%	72.3%
H22-2	21	8,932,500	21	8,932,500	100.0%	100.0%
H23-1	23	9,100,000	22	6,837,500	95.7%	75.1%
H23-2	31	12,617,500	22	6,530,000	71.0%	51.8%
H24-1	30	9,545,000	22	6,450,000	73.3%	67.6%
H24-2	21	7,729,000	18	5,957,500	85.7%	77.1%
H25-1	22	10,115,000	18	6,219,400	81.8%	61.5%
H25-2	32	14,440,000	16	6,275,000	50.0%	43.5%
H26-1	28	13,452,500	16	6,002,500	57.1%	44.6%
H26-2	31	14,300,000	18	7,528,750	58.1%	52.6%
H27-1	20	11,600,018	16	6,503,000	80.0%	56.1%
H27-2	26	13,128,998	16	6,931,000	61.5%	52.8%
H28-1	27	12,830,184	18	6,466,000	66.7%	50.4%
H28-2	31	13,896,100	19	7,253,000	61.3%	52.2%
H29-1	34	14,890,586	17	7,051,000	50.0%	47.4%
H29-2	34	14,690,886	16	6,649,000	47.1%	45.3%

研究・実験補助者制度の申請件数等



研究・実験補助者制度の申請金額等



■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告①

対象者:平成 28 年度第 2 期 研究・実験補助者雇用制度利用者 19 名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率: 100%(19 名)

1. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

- ・産休復帰後、3 週間ほど連続して進捗状況をモニターしたり、必要なステップで確認作業を行うという行程を、4クール繰り返すような長期間の実験を行っています。復帰後は、自分の体調がすぐれなかったり、こどもの体調不良などで予期せず病欠をとることがありましたが、実験補助者にこの行程を補助してもらうことで、途切れず解析を進めることができました。
- ・利用者の研究では、実験準備として緑藻の継代培養や特定の細胞の採取に多くの時間を要します。また解析試料の作製に約3日間の連続した時間を必要とします。実父母の世話で平日夜や休日の実験時間の確保が難しかったのですが、実験作業を実験補助者に分担していただき、限られた時間で何とか実験を継続することができました。
- ・補助者の方が研究をサポートしてくれることで、保育園の迎えの時間までに仕事を終わらせる事、子供の体調不良時でも研究が中断されることが少なく、研究を続けられる事が可能となりました。それにより、研究論文の発表につながりました。
- ・毎回同じことを書いておりますが、膨大な作業時間を要する単純作業、入力作業等を、一人ではなく補助者の方と一緒にすることで、研究を進めていくリズムがうまれました。とくに今期は、これまでに入力した分の中から漏れや間違いを修正する作業およびデータの総合的な整理をおこなったので、1人でやるより作業効率がずいぶん高かったと確信しております。また、作業途中での中断が少なかったことも、正確性を高めるのに役立ったと思っています。
- ・分析前後の時間を要する作業や一部の機器分析を実験補助者に行ってもらえることで、すぐに主要な分析作業に入れるため、分析に集中、短縮化できる。分析後もすぐに解析作業に入ることができるので結果がすぐに把握でき、その結果をもとに次の実験計画もスムーズに立てられるようになったため、報告会や学会で発表ができるような研究成果が得られ、現在はその内容に基づいて論文執筆を行うことができています。
- ・有機合成実験をいろいろ手伝ってもらいましたので育児を並行しながら研究を進めることができました。また、研究・実験補助者が実験を行ってくれる間に自分は論文作成・文献調査など育児で限られている勤務時間を有効に使うこともできましたのですごく助かっております。
- ・私が研究室にいる時間が限られているため、生物の発生時間の関係でこれまで1日1回しかできなかった実験がありました。今回、「研究・実験補助者雇用制度」を利用することにより、そ

の実験を1日2回以上行なうことが可能になり、今までと比べて効率よく実験をすることが可能になりました。

- ・大学院生を研究補助者として雇用し、数値計算をしてもらうことで研究が飛躍的に進展した。特に幅広いクラスの超伝導体においてトポロジカル超伝導が実現するメカニズムを示すことが出来た。その結果、補助者である大学院生も多くの経験を積み、一層の成長を遂げることができた。
- ・申請者の配偶者は毎日深夜帰宅のため、平日は育児・家事のすべてを申請者が行っている。本制度の利用以前は勤務時間内に実験、娘の就寝後にデータ解析等のデスクワークを行い疲労や睡眠不足を感じていた。利用後は、実験補助者に遺伝子解析実験をお願いし、その後の配列解析や進化解析等のデスクワークを申請者が行うことで、疲労感が減少し、研究に集中することができている。
- ・私たちは、C. elegans における抑制スクリーニングに取り組んでおります。このため、蛍光顕微鏡を用いて、GFP を持つ検体と持たない検体が混在している状況から GFP を持つ検体のみを採取する必要がありますが、これは非常に手間と時間がかかる作業です。このプロジェクトに取り組むのが私自身のみですと、非常に面倒な作業となります。何人かの学生の助けがあって、この遺伝子スクリーニングプロジェクトは魅力的なものとなり、とてもうまく進めることができました。雇用していた学生は全員学部生であり、検体の選別という業務はルーティンワークかつ比較的単純作業ではありますが、学生たちは非常に効率的に作業を行ってくれました。したがって、予想していた以上に遥かに早くスクリーニング結果を得ることが出来ました。
- ・産休・育休の間に、研究業務が止まってしまい、1年しかないグラントの進捗が危ぶまれましたが、この制度で実験補助者を雇用することができ、早めに技術を移転し研究業務をサポートいただいたので、後任の研究者への業務補引継ぎが比較的スムーズに進み、大幅に遅れることなく研究を実施できました。
- ・専門分野の新しいプロジェクトの計画を立てるのが必要でありながらも、講師としての職務にほとんどの時間を取られてしまい、なかなか難しいと考えておりましたが、研究・実験補助者雇用制度のおかげで、半年という短い時期で計画を立てるだけでなく、形成的調査まで行うことができました。
- ・実験動物の飼育や組織切片の作成など、単純作業だが時間がかかる部分を補助者に任せることができ、時間的な余裕ができた。その時間を自身の実験に費やすだけでなく、次なる実験計画の策案や、補助者を自前で雇用するための助成金申

請にも活用できた。

・子供が0歳児の為、急な発熱などで、実験の途中で帰宅を余儀なくされることが何度ありましたが、補助者が実験の続きを行ってくれたことで、その実験を無駄にせずに最後まで終えることができました。再現性を確認するために、最低3回以上同じ実験を行うのですが、このような結果が予め分かっている実験を任せられたことで、新規の実験に時間を割くことができました。新たに生まれた時間で、実験のアイデアを練るなど、論文投稿準備を行うことができました。

・これまで多大な労力と時間を費やしていたマウスの維持、管理と実験を補助して頂いたことで、時間的余裕ができるようになった。その空いた時間を用いて、他の実験、学生の指導、子供との時間を新たに作れるようになり、非常に充実した時間を過ごせていると感じる。

・実験補助者の協力により、子供の風邪等の急な予定変更の場合でも実験を中断することなく続行出来ました。育児中で限られた時間の中で、実験補助者と協力して研究を進めたことで、客観的に自分の研究を見ることができ、自分自身の考えの整理も出来たと思います。新しいアイデアや実験の工夫など話し合いながら研究を進めることが出来、効率良く研究の進捗が得られたと思います。

・本制度を利用させて頂きましたことで、研究補助者の多大な支援を得て、限られた時間内により専門性の高い研究活動に専念することが出来、予定していた研究計画の遂行において大きな後押しとなりました。また、責任を持って役割分担をしてくれる補助者の存在により、業務を整理し直し、優先度の高い事項により焦点を当てて本務および研究に従事することが可能になりました。

・3つの研究をパラレルに進められるようになり、研究速度が速くなりました。投稿論文執筆も大きく進んでいます。

・私は主に腫瘍における拡散強調MRIを用いた新たな画像診断法の開発を行っていますが、特にマウスの腫瘍モデルを作成するための細胞やマウスの世話に時間がかかり、また臨床研究も行っているため研究・臨床・育児の両立は大変で、研究にも支障を来すのではないかと危惧しておりました。そうした中、実験補助の方に細胞やマウスのお世話を分担してもらうことにより本来の研究に集中することが出来、大変有難いことでした。

2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

・産後、自分やこどもの体調が安定しなかったり、こどもを予防接種や健診、病気などで病院に連れて行かなければいけない日も多く、想定外のことが多いですが、そのような時に、仕事を任せられる補助者を雇用できて本当に良かったです。

・両親の在宅介護および生活支援を行い、心身両面で疲労が蓄積するなかで、仕事を続けています。実験補助者雇用制度のおかげで、時間的制約の中で実験や研究を継続することができ、本当に有り難く思います。

・仕事や育児の時間を確保することができ、精神的にも体力的にも無事に過ごせていることに感謝しています。また、補助者の方も子育て中の女性です。子育てをしながら研究に携わる中スキルアップしてきており、本制度利用当初と比較すると、専門的な技術が必要な解析も可能となってきました。お互いにとってよい制度であると感じます。

・昨年まで修士過程の学生さんだった補助者は、博士課程には進学せず、ご結婚され、12月には結婚式がありました。若い女性が進学と結婚を両立させない、という事実は私にとって驚きでしたが、わたしたちの作業時間は、願わくは、補助者にとっても、充実した時間だったと思います。

・小学生以下の子供がいる女性研究者としては、このような制度が利用できることは大変有用で助けられた。雇用期間が半年で、選考結果が出てから雇用申請手続きの期限までの期間が短いので、条件的に雇用できる人が学生などに限られてしまう。

・私は出産2か月後から仕事に復帰していますが、育児と研究を並行することはやはり体力を含めいろんな意味で大変です。今回「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで本当に助かっておりますのでこれからも支援を強く希望しております。

・今回、「研究・実験補助者雇用制度」を利用することにより実験がスムーズに進むようになり、気持ちに余裕ができたからか、家での育児や家事も少し楽になったように感じます。今後も利用できるならば是非利用したいと考えています。

・子育てと研究を両立しつつ高い研究成果を挙げるために大変有用な制度だと思いますので、ぜひ継続してほしいと思います。私も大変助けられました。どうもありがとうございました。

・未就園児を育てる申請者にとって、研究と育児の両立は大きな悩みで、限られた時間でしか実験・研究を行えないことに常に不安を抱えていた。本制度を利用することで、研究の面で助けられただけでなく、抱えていた不安な気持ちが弱まり、精神的にも余裕を持ち研究に取り組むことができています。

・私と私の夫は共に京都大学で働く研究者であり、私自身妊娠しておりますが、共に仕事で忙しい状況です。私は、妊娠後、以前と同じようには元気に体を動かすことが難しくなっておりますが、従来から置かれている環境のプレッシャーは依然つづいており、これがプロジェクトの進行を妨げ、さらには私自身が少しフラストレーションを感じている点でした。本制度で補助を頂いてからは、とても献身的な学生たちからの手助けを多大に得ることができ、妊娠した研究者の私にとっては大変助かったと同時に勇気づけられました。したがって、プロジェクトをはるかに早く、そしてスムーズに進めることができ、精神的な安定感と満足感を得ることができたため、何の心配もなく産前休暇に入ることが出来ました。

・補助していただけるのは大変ありがたいし、産休取得により迷惑をかけてしまうというネガティブな思考もあったのですが、上司からも「この制度があるのでそれほど気にしなくていい」と言

われ、かなり救われる心境でした。

・3歳の幼児の母でありながらも、補佐員を採用することによって、講師としての職務と研究成果を上げるための国際プロジェクトとの両立が可能だということを改めて実感しました。

・昨年4月から助教に着任し、今回初めて研究・実験補助者を雇用する良い機会となった。研究を補助してもらっただけではなく、補助者を如何に活用できるかどうかというマネジメント面での良い経験とすることができた。

・子育て中は、子供の急な発熱など、予測不能なアクシデントが発生して、予定している実験ができなくなることがあります。この制度を利用することで、アクシデント時に補助者が代わりに実験を遂行してくれたことで、数週間かけて行って来た実験が無にならずに済み、本当に助かりました。学生も、雇用されているという意識からか、以前よりも責任を持って仕事に取り組んでいる様に感じています。

・この制度を利用することにより、これまで時間が無いことで諦めていた仕事や家庭の事に関して、積極的に取り組むことができるようになった。

・育児中は時間に追われているために、落ち着いて研究計画を練ったり、他の研究者とのディスカッションを行ったりする時間を作るのが難しくなっていると感じています。そのような状況の中、共に研究を進めてくれる実験補助者の存在は非常に大きかったと感じています。

・本制度利用前には、平日に二人のこどもが起きている間に家庭で共に過ごせる時間はたった数時間でしたので、親子共に精神的・身体的にも負担が大きく、離職を検討する日々でした。本制度により、育児や家事、介護に費やせる時間が増え、家族全員の精神的な負担が軽減されましたことを日々感謝しております。

・子どもが3人いて、私が1人で育てているために、子どもの発熱等の病気での対応及び、学校行事等が多く、研究の進みが大変遅く困っていました。本制度を利用させていただくにあたり、私以外でもできる事務雑用や実験補助、論文の検索等、大変多くの仕事を補助者の方にさせていただき、論文執筆が進み、学会発表参加にも繋がっています。採用いただき、ありがとうございました。

・細胞やマウスのお世話を分担して頂いたことにより作業のスピードアップにつながり、研究に、より集中的、効率的に打ち込むことができました。結果的に複数の論文投稿に繋がり、非常に感謝しております。

3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

・財源に対しての競争率が高いのだと思いますが、来年度の雇用制度にも応募しましたが、不採用となり非常に残念でした。

・利用できる期間の制限をなくして頂けるとよいと思いま

した。例えば、複数人の子供を出産した女性は、長い期間手のかかる乳幼児の育児をすることになり、3ヵ年では不足する方もいるのではないのでしょうか。また、介護は育児と異なり先が見えないため、期間の制限があつて困る方もいるのではないのでしょうか。一律に、利用期間を3年と区切るのではなく、その方の置かれている状況によって補助期間を決めた方がよいと思いました。

・雇用期間が半年で、選考結果が出てから雇用申請手続きの期限までの期間が短いので、申請手続きなども慌ただしく、雇用する期間が半年だと条件的に雇用する人が見つかりにくく学生などに限られてしまう。また、実験補助者には、ある程度実験作業に慣れてもらうまでに時間がかかるので、一度作業を習得してもらった補助者を継続して雇用できることが望ましい。これらの理由から、申請を1年単位に変更してもらえることを強く切望する。それに伴って、研究内容によっては利用して半年ではなかなかすぐに成果がでない場合もあるので、成果報告などの調査も1年経過ごとにしていきたい。また、大きな成果を上げるためには、この制度を複数年継続して利用できることが望ましいと思われる。

・特に困ったことはありません。これからも支援を希望しております。

・育休から復帰しても、保育園との両立など女性研究者を取り巻く環境は厳しいので、3年くらいのスパンで計画できるともっとありがたいと思いました。

・個人的な意見ですが、「研究・実験補助者雇用制度」の結果発表から、技術補佐員の雇用までの期間をもう少し延ばしていただきたいと思います。重要な仕事を任せる技術補佐員だからこそ、相応しい人を見つけるのに時間がかかるため、2ヶ月間という短い期間では難しいと思います（また、結果発表前に技術補佐員を探しはじめても、確実に採用されるかどうかかわからないため、有能な補佐員の確保が厳しい状況です）。また雇用期間に関しても、半年あるいは1年間の雇用も可能という選択肢があれば、さらに助かります。

・特にございません。感謝のみです。

・実験補助者の雇用期間の契約が短く、また賃金も低く設定されているため、優秀な補助者の確保が難しいと感じる。この予算における問題を改善することでより多くの方が制度を有意義に利用できるようになるのではないかと思う。

・大学の財政状況が厳しい中、育児中の研究者をサポートして頂けるこの制度の存在にはとても感謝しています。一方で、雇用できる期間が半年と短く、給与面などの雇用条件の問題もあり、この条件で雇用できる人材を見つけるのが困難だと感じました。大学院生などの雇用を想定されているかとは思いますが、私の所属する研究室には該当する

大学院生は居ませんでした。今回、私の場合は、設定よりも短期間にして条件を改善することに加え、期間外は研究室の指導教員の予算で雇用して頂くことで、実験補助者の方に納得して頂きました。実験補助職は、専門知識や経験が必要な専門職だと思いますが、それに見合った待遇の雇用ができないということに歯痒さを感じました。財政状況が厳しい中、難しいとは思いますが、このような考えに従って制度をさらに良くして頂けることを願っています。

- ・困ったことや改善を求める点は特にございません。
- ・今期分においては無事採用して頂きましたが、次期分は採用が叶いませんでした。実験は継続して行っているため突然補助がなくなるとやはり金銭面、時間面での負担が大きいです。是非、継続の研究にも予算を少しでも多く分配して頂けたらと思います。

4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール（うち所属部局から）	6
センターHP	2
指導教官からの情報	6
知人からの情報	2
その他	3
合計	19

5. その他

・国際学会などに参加すると、欧米と比べて日本の女性研究者の割合が少ないような印象があります。これからもいろいろな制度や事業を継続、充実させていただければ幸いです。

・6月には、京都産業大学にて少し懇談する機会があり、また、来月4月からは、関西学院大学へ異動することになりました。このような制度は他大学になく、残念に思っています。制度の充実と共に、他への啓発（制度整備の伴走）があるとよいと思います。これまで、ありがとうございます。

・このような制度をさらに増やしていただいて採択率や支給率や連続利用年数を増やす方向で改善してもらいたい。

・以前、子供服の古着の交換会があり、大変助かったのですが、また似たようなイベントを開いていただけると嬉しいです。開催する側としては大変でしょうが…。

・本制度は育児中の研究者にとって本当に心強く、とても良い制度だと思います。今後も引き続きこのようなサポート制度が続くことを希望します。

・育児も頑張りたいと常々思っており、このような制度があって大変うれしく思っております。今後も継続していただければいいなと思います。

・いつも丁寧にご支援をくださいますこと感謝しております。今後も貴センターの取り組みに関しまして、継続してご案内を全教職員宛にお送りくださいますと幸いに存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

・保育園の利用が1歳半までで利用がしにくいと思います、もう少し大きい子どもも利用できるとありがたいです。また、兄弟で土曜日にみていただける支援もあれば、もっと研究が進みますので、是非お願いしたいです。

■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告②

対象者:平成 29 年度第 1 期 研究・実験補助者雇用制度利用者 17 名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率: 100%(17 名)

1. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

・専門分野の新しいプロジェクトの計画を立てるのが必要でありながらも、講師としての職務にほとんどの時間を取られてしまい、なかなか難しいと考えておりましたが、研究・実験補助者雇用制度のおかげで、短い時期で計画を立てるだけでなく、形成的調査まで行うことができました。

・雑務から解放され、実験時間の確保だけでなく、論文や外部資金申請書の執筆時間が増えました。それに伴い、研究ストーリーの再考や綿密な実験計画の構築につながると実感しています。また、何気ない会話などから精神的な負担も軽減されたと感じます。そして何より、子どもの保育園までの送迎が可能となりました！

・マウスのケージ交換と PCR による genotyping を補助員に任せられることにより、週に 10 時間程、本実験や論文の作成に割くことができるようになりました。

・産休・育休からの復帰後、保育園に預けている間のみという非常に限られた時間しか研究に従事できない状況になった。とにかく時間が足りず、産前のように進めることができないためもどかしかったが、本制度で雇用した実験補助者の助けを得て、プロジェクトを前に進めることが可能になった。

・この制度を利用させていただき、事務的な部分を依頼できるようになったため、実質的な研究の遂行にあてられる時間が増えました。また、今までは自分で事務作業を含めほぼすべてを行っていたため、なかなか時間に余裕がなく予定通り研究が進まず共同研究先にも迷惑をかけていましたが、今回の制度をきっかけに、研究補助の方以外の研究室の方にも手伝っていたできるようになってきました。

・事務作業にとられる時間を減らすことができ、介護の時間を確保できた。補助者がいなければ、中国の研究者とは英語またはドイツ語・フランス語のできる者(教授や若手研究者の一部のみである)を通じて間接的にしか交渉ができなかったところ、補助者を介して直接にやりとりができ効率的であった。

・実務が多く、毎日研究の時間を確保することが非常に難しい職場にあります。科研費を獲得できても、各種手続きが煩雑で時間がかかってしまい、自分ひとりでは到底論文投稿や調査を実施できず研究者としてのキャリアを諦めることも検討していました。2017 年度から研究・実験補助者雇用制度を利用することで、事務的な手続きに時間を費やすことなく各種申請や書類の整理を行うことができ、研究と実務の両立が可能になりました。

・手術や外来の終わる夜間から研究活動を開始することが多いが、加えて当直業務が平均週 1 回あり、子供を迎えに行かねばならないため、実験を行う時間を確保することが極めて難しい。実験補助者雇用制度により、動物実験を行ったり動物を飼育維持管理を委託することが可能になり、また、細胞培養、核酸抽出や蛋白抽出などの実験や、PCR、ウエスタンブロット、免疫化学組織染色等も実施していただけるようになり、研究活動が進行できるようになった。

・マウスへの連日の薬剤投与や薬剤調整、動物実験の補助やマウスの遺伝子型決定のための DNA 調整などを補助者に行ってもらうことによって、限られた研究時間内で実験を継続することができ、また、時間をデータ解析や論文作成などに使用することができました。

・実験を継続的に実施できています。私 1 人では、子どもの発熱等で実験が滞ってしまっていますが、補助者がいてくださることで、研究ペースが落ちないです。

・有機合成実験をいろいろ手伝ってもらいましたので育児を並行しながら研究を進めることができました。また、研究・実験補助者が実験を行ってくれる間に自分は論文作成・文献調査など育児で限られている勤務時間を有効に使うこともできましたのですごく助かっております。

・本制度により無菌操作に優れた技能をもつ実験補助者を雇用させていただきました。おかげさまで、危機的な状況にあった貴重な数百の緑藻株のコレクションが見事に救われ、それらの維持管理、凍結保存や実験に必要な細胞試料の調製などが、順調に回り始めました。

・利用者の研究では、実験準備として緑藻の継代培養や特定の細胞の採取に多くの時間を要します。また解析試料の作製に約3日間の連続した時間を必要とします。別居している実母の世話で平日夜や休日の実験時間の確保が難しかったのですが、実験作業を実験補助者に分担していただき、限られた時間で何とか実験を継続することができました。

・本年度、国際学会の開催を担当することとなり、海外の機関での調査のための出張があったりと、なかなかプレパラート作成やデータベースの作成に費やす時間がなかったが、雇用制度を活用できたことで、研究成果のまとめや考察に時間を割くことが可能となり、大変助かった。

・これまで育児により研究を中断していた時間を、本制度の利用によって部分的には中断なく研究をすすめられるようになりました。私は理論分野の研究をしており、研究の多くの部分は自分でやらねばなりません、数値計算など実験と近い部分

について補助者に任せることにより研究の中断をこれまでよりも気にせず済むようになりました。

・補助者の方が研究をサポートしてくれることで、保育所の迎えの時間までに仕事を終わられる事、子供の体調不良時でも研究が中断されることが少なく、研究を続けられる事が可能となりました。これにより、研究論文の発表につなげることができました。

・前期間に続いて実験補助者雇用制度を利用させていただくことができたため、前期間で習得してもらった実験を引き続き行っていただき、さらに別の実験技術も習得していただくことで依頼できる業務の幅が広がり、助かっている。申請者が出張期間中も途絶えることなく、実験を積み重ねていただくことで、多くのデータをとることができ、研究の進展に大きく貢献していただいた。

2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

・3歳の幼児の母でありながらも、補佐員を採用することによって、講師としての職務と研究成果を上げるための国際プロジェクトとの両立が可能だということを実感しました。

・2期目の利用が終わり、継続して支援を受けることで論文の採択や外部資金の獲得など着実に成果が出てきております。大変ありがたく思っております。

・出産後は、保育園の保育時間内しか仕事ができず、また、発熱などの呼び出しの為に、急所帰宅を余儀なくされることがあります。出産前と比較して、実験に割ける時間が大幅に減りましたが、この制度を利用することで、実験の進捗が少し早くなりました。

・本制度に申請する前は、熱が出るたび保育園からの呼び出しがあり、実験を中断せざるをえず、準備に要したそれまでの1週間がすべて無駄になるようなこともあったが、本制度を利用させていただいて以来、そのような状況は回避できており、深く感謝しております。

・研究・実験補助者雇用制度を利用することで、研究に使える時間ができただけでなく、後ろめたさなく子育てしながらでもなんとか研究が続けられるのではないかと思います、気持ちが前向きになりました。

・潜在的には本制度を利用すれば助かる人がもっと多いように思われる。周知・拡大が図られ、男性も利用しやすい雰囲気づくりが進められると望ましいのではないかと。

・3歳になる子どもがおり、共働きで残業が難しいなか実務と研究を両立させるためには、研究・実験補助者制度はとて有り難く、必要不可欠な制度だと感じています。調査・研究に関わるデータや機密事項を共有し、また経理を扱っていただくこともあり、研究・実験補助者として信頼できる方に出会うことがとても大切だと感じています。

・本制度を利用することで、日中業務のある中、実験を依頼し研究を遂行できることが、大変生産的であり、睡眠時間や家族

への時間を最低限であるが確保することにつながり、大変ありがたい制度であると感謝しています。

・朝夕の子供の送り迎えがあり臨床業務もある、限られた研究時間の中で、実験を継続してデータの解析なども進めることができました。子育てで時間の制約がある中で研究を継続するためにとても有用な制度だと思います。

・本当に助かっています。自分で行うには子どもの病気でペースダウンしますが、補助者がいてくれることにより、ペースが落ちず、一定の成果を上げることができています。研究室の皆さんにもご迷惑をおかけしないで研究が続けれます。

・私は出産2ヶ月後から仕事に復帰していますが、育児と研究を並行することはやはり体力を含めいろんな意味で大変です。今回「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで本当に助かっておりますのでこれからも支援を強く希望しております。

・自分は男性ですが、夫婦共働きで妻の労働時間も長い為、託児所の送迎、子供の病気の対応などの負担が大きく仕事が滞っていました。そうした点をご理解いただき、支援して頂けることを心から有難く思っています。

・実家の母親の生活支援を行い、心身両面で疲労が蓄積するなかで、仕事を続けています。実験補助者雇用制度のおかげで、時間的制約の中で実験や研究を継続することができ、本当に有り難く思います。

・小さい子供二人を抱えながらの研究は、思っていた以上に大変です。夫が比較的協力してくれる世の中とはいいいながら、やはり女性の負担は想定以上です。特に子供は病気をするだけでなく、精神的に不安定な時期があることも少なくなく、親の出張が続けば熱をだすし、家庭のこと、研究のこと、様々なことを考えながら生きている毎日の中で、誰かが近くで助けてくれるという安心感は、なにもものにも代えられない一番の安定剤でした。

・今回は2回目の利用となりました。以前は大学院生を補助者として雇用しましたが、今回は博士研究員を雇いました。制度の範囲内で雇用するために時給に制限がついてしまい、自由度があがればもっと使いやすいく感じました。

・仕事と育児の時間を確保することができ、精神的にも体力的にも、無事に過ごせていることに感謝しています。

このような制度がもっと普及し、出産・育児・介護をする研究者の支えになることに期待しています。

・子育てと研究を両立していく上で、日々の生活が精一杯で、研究に対する時間が十分にさけていないことに対する不安を抱えていたが、本制度を利用することで、日々確実に研究が進んでいくという安心感があり、気持ちに余裕を抱えた状態で研究に取り組むことができ、精神的にも体力的にも大変助けられている。

3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

・半期ごとの支援のため、長期的な計画を立てづらい点があります。優秀な補助者を雇用したくても、なかなか短期で雇うことは難しい状況かと思えます。子育てや介護は年単位で行うものだということを鑑みますと、支援も年単位に延長していただくと助かります。いずれにしても、このような支援があること自体素晴らしいことだと思いますので、継続していただければ幸いです。

・補助者が学生だったため、学生の授業や実習の時間が、かなり変動し、初めに申請した勤務予定から変更したいと思うことがありました。その辺の勤務時間をフレキシブルに対応できれば、さらに使用しやすくなると思えました。

・雇用時間が上限 20 時間であるため、増やして頂きたいです。

・研究・実験補助者の条件が短時間・期限限定なので、技術もあつてかつお願いできる人をタイミングよく探すのが難しいと思えました。

・今回は採用決定時に寄付講座終了後の身分が公的に確定していなかったため、補助が3か月で打ち切れ残念でした。

・男性にあまり知られていないようであれば、ポスターなどを増やしてはどうか。必要度がどのぐらい高ければ採用されるのかは、応募状況によって変わると思うが、目安や具体例があれば公表してもらえると利用に結び付くと思う。

・後期でもできれば利用しなかったのですが、第3子の出産を控えており、産休中・育休中は制度を利用できないとのことでした。産休・育休中も動物の維持管理や投与などは研究継続のためには必要になりますので、産休・育休中も利用することができると助かります。

・できれば、もう少し時間数を長く雇用できたらありがたいです。

・特に困ったことはありません。これからも支援を希望しております。

・本制度は、雇用者、被雇用者双方にとって素晴らしい制度であり、ぜひ今後とも継続をお願いしたいと思います。とくに困ったことはないのですが、できれば1年単位にさせていただけたほうが、候補者の募集や雇用契約の際にスムーズかと思えます。

・2の感想でも書きましたが、研究員として活動している方を週に1日来てもらう形で雇用しました。非常に高い研究能力を持った方を交通費なしの薄給で来てもらうことに申し訳ない気持ちもちながらの雇用となりました。事情に応じて技術補助員以外の身分での雇用も可能となったと思います。また、現在は半年間の補助の募集となっているが、これと並行して必要な場合は1年という形での募集も導入されたなら自由度が広がると共に年間スケジ

ュールを考えやすくなり使いやすくなると感じました。

・補助者として、社会人を採用する場合、半年の雇用しか保証ができず(非常に不安定な雇用環境で)、補助者を探すこと自体が難しいです。半年ではなく、少なくとも、1年以上の補助ができれば、もっとこの制度を利用して研究をしよう、とする方が増えるのではないかと思います。

(補足：研究分野によって色々かと思いますが、学生を研究補助者として採用するのは、教育的によいのかどうか、迷うところがあり(講義のTAとは違う)、可能であれば、社会人を採用したいと思っています)

・利用できる期間の制限をなくして頂けるとよいと思いました。例えば、複数人の子供を出産した女性は、長い期間、手のかかる乳幼児の育児をすることになり、3ヵ年では不足する方もいるのではないのでしょうか。また、介護は育児と異なり、先が見えないため、期間の制限があつて困る方もいるのではないのでしょうか。一律に、利用期間を3年と区切るのではなく、その方の置かれている状況によって補助期間を決めた方がよいと思えました。

4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール(うち所属部局から)	7
センターHP	2
指導教官からの情報	6
知人からの情報	3
その他	3
合計	21

5. その他

・育児も頑張りたいと常々思っており、このような制度があつて大変うれしく思っております。今後も継続していただければいいと思います。

・病児保育はいつも利用させていただいており、大変感謝しております。子供もよくなつていて喜んでいますが、時々定員がいっぱいで困ることがあります。

・男性にあまり知られていないようであれば、ポスターなどを増やしてはどうか。

・病児保育、お迎え保育や臨時保育、バウチャーを含めて大変お世話になっております。今年8月まで夫が留学で不在であり、夫婦とも実家が遠方であることから子育て、実務、研究を進めるにあたり、これらの制度があることはとても心強かったです。依頼時にも丁寧にご対応くださり、どうもありがとうございます。

・以前、子供が待機児童になった際に、京大の託児所を利用させていただきました。直前のお願いだったにもかかわらず、すみやかに受け入れていただき、また対応も懇切丁寧で感動しました。その後無事に保育園がみつき、ご無

沙汰してしまっておりますが、本当に感謝しております。

・京大の病児保育について、たいへん素晴らしいと思うが、宇治キャンパスや桂キャンパスにもほしい。

資 料

男女共同参画推進センター 関係者名簿

2017.10.1 現在

役職	氏名	所属・職
センター長	稲葉 カヨ	理事・副学長
男女共同参画推進本部支援室長	佐藤 亨	情報学研究科・教授
広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ		
主査	今村 博臣	生命科学研究科・准教授
事業推進員	鈴木 晶子	教育学研究科・教授
事業推進員	松下 佳代	高等教育研究開発推進センター・教授
事業推進員	久家 慶子	理学研究科・准教授
事業推進員	竹之内 沙弥香	医学部附属病院・特定講師
事業推進員	末永 幸平	情報学研究科・准教授
育児・介護支援事業ワーキンググループ		
主査	小西 由紀子	理学研究科・准教授
事業推進員	岩崎 奈緒子	総合博物館・教授
事業推進員	神吉 紀世子	工学研究科・教授
病児保育事業ワーキンググループ		
主査	足立 壯一	医学研究科・教授
事業推進員	丹羽 房子	医学部附属病院・特定助教
事業推進員	長尾 美紀	医学部附属病院・准教授
事業推進員	嶋野 令子	医学部附属病院・副看護部長
事業推進員	國友 陵一	医学部附属病院・総務課長
事業推進員	隈村 綾子	医学部附属病院・医務課掛長
就労支援事業ワーキンググループ		
主査	喜多 恵子	農学研究科・教授
事業推進員	鈴木 眞知子	医学研究科・教授
事業推進員	高橋 淑子	理学研究科・教授
事業推進員	横山 美夏	法学研究科・教授
事業推進員	瀬原 淳子	再生医科学研究所・教授
事業推進員	船越 資晶	法学研究科・教授
事業推進員	高橋 良和	工学研究科・教授

男女共同参画推進委員会会議 議事

■推進委員会会議議題と資料

2017年4月10日(月)

【議事】

1. おむかえ保育 おむかえ可能範囲について

【報告】

1. 新しいメンバーの紹介
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. ニュースレターたちばな第73号校正版
2. 平成28年度待機保育室 利用者アンケート

5月8日(月)

【議事】

1. 女子高生・車座フォーラム2017 チラシ作成について
2. 関西科学塾 経費負担について

【報告】

1. ベビーシッター育児支援割引券の利用について
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 車座フォーラム2017 チラシ原稿
2. ベビーシッター育児支援関連資料
3. ニュースレターたちばな第73号
4. ニュースレターたちばな第74号校正版

6月12日(月)

【議事】

1. 女子高生・車座フォーラム2017 チラシ・プログラムの確定

【報告】

1. 5/29 日経ウーマノミクスに参加
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 女子高生・車座フォーラム2017 チラシ・プログラム案
2. 研究実験補助者募集 要項
3. WGメンバー一覧
4. ニュースレターたちばな第74号

7月6日(木)

【報告】

1. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 女子高生・車座フォーラム2017 チラシ

9月11日(月)

【議事】

1. 待機乳児保育室・おむかえ保育 警報発令時の対応について

【報告】

1. 京都大学教員・研究員の生活時間に関するアンケート 実施結果
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 警報発令時の待機乳児保育室とおむかえ保育の対応について
2. 平成 29 年度 2 期研究実験補助者 採択結果
3. ニュースレター「たちばな」第 75 号 校正版

10 月 10 日(火)

【報告】

1. 女性研究者の出産に伴う雇用経費支援制度について
2. 来年度の ILAS セミナーについて
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 女性研究者の出産に伴う雇用経費支援制度について
2. ニュースレター「たちばな」第 75 号

11 月 13 日(月)

【議事】

1. 第 4 回 Women & Wish フォーラムの開催について

【報告】

1. 第 10 回京都大学たちばな賞 募集開始
2. 病児保育室の防犯対策について
- 3.

【資料】

1. 第 10 回京都大学たちばな賞 募集チラシ
2. オープンホスピタル 病児保育室ポスター

12 月 18 日(月)

【報告】

1. 第 10 回京都大学たちばな賞 募集終了
2. 病児保育室 防犯設備の設置完了
3. 女性研究者の紹介冊子「青いリボンのエトセトラ Vol.4」発行予定
4. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 女性研究者の紹介冊子「青いリボンのエトセトラ Vol.4」原稿
2. 女子高生・車座フォーラム 2017 プログラム案・グループ分け案 3.
3. ニュースレター「たちばな」第 76 号校正版

1 月 15 日(月)

【議事】

1. 平成 29 年度 待機乳児保育室の開室について

【報告】

1. 第 10 回京都大学たちばな賞 審査状況
2. 病児保育室 防犯対策について(窓ガラス)
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. H30 待機乳児保育室 開室準備資料
2. 車座フォーラム 2017 アンケートコメント
3. “Women and Wish Forum 第 4 回”企画案
4. ニュースレター「たちばな」第 76 号
5. ニュースレター「たちばな」第 77 号 原稿案

京都大学教員数

(平成29年5月1日現在)

区分	総長		役員			教授			准教授			講師			助教			助手			合計		
	男	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総長	1	1																			1	0	1
理事・監事(非常勤含む)			8	1	9																8	1	9
文学研究科						43	11	54	22	2	24	2		2	5	2	7				72	15	87
教育学研究科						12	5	17	9	4	13	1		1	3		3				25	9	34
法学研究科						44	5	49	13	4	17	1	1	2				1	1		58	11	69
経済学研究科						19	1	20	9	2	11		3	3	1		1				29	6	35
理学研究科						83	1	84	75	10	85	10	1	11	75	6	81				243	18	261
医学研究科						73	10	83	55	7	62	49	7	56	36	19	55				213	43	256
医学部附属病院						6		6	14	3	17	8		8	124	18	142				152	21	173
薬学研究科						12		12	12	2	14	2	2	4	9	1	10				35	5	40
工学研究科						124	1	125	113	4	117	28	4	32	111	9	120				376	18	394
農学研究科						60	5	65	50	3	53	4	1	5	61	6	67				175	15	190
人間・環境学研究科						57	10	67	25	5	30		1	1	15	1	16				97	17	114
エネルギー科学研究科						17		17	20		20				10		10				47	0	47
アジア・アフリカ地域研究研究科						14		14	9	4	13				1	1	2				24	5	29
情報学研究科						36		36	22	1	23	8		8	30	2	32				96	3	99
生命科学研究科						17		17	15	1	16	2		2	13	2	15				47	3	50
総合生存学館						6	2	8	4		4										10	2	12
地球環境学堂						16		16	12	4	16				11	1	12				39	5	44
公共政策連携研究部						10		10													10	0	10
経営管理研究部						14		14	4	2	6										18	2	20
化学研究所						26		26	15	1	16		2	2	35	1	36				76	4	80
人文科学研究所						19	1	20	14	2	16		1	1	6	5	11	1		1	40	9	49
ウイルス・再生医科学研究所						17	2	19	16	1	17	4		4	19	5	24				56	8	64
エネルギー理工学研究所						11		11	13		13	1		1	12		12				37	0	37
生存圏研究所						13		13	10		10	2		2	8	2	10				33	2	35
防災研究所						32	1	33	33	1	34		1	1	19	1	20				84	4	88
基礎物理学研究所						10		10	9		9				4		4				23	0	23
経済研究所						12		12							2	1	3				14	1	15
数理解析研究所						12		12	9		9	4		4	10		10				35	0	35
原子炉実験所						15		15	21	2	23	1		1	27	3	30				64	5	69
霊長類研究所						12		12	12		12				7	4	11				31	4	35
東南アジア地域研究研究所						10	3	13	12	2	14				4	2	6				26	7	33
iPS細胞研究所						12	2	14	8		8	3		3							23	2	25
附属図書館										1	1											1	1
学術情報メディアセンター						9		9	6		6	1		1	3		3				19	0	19
放射線生物研究センター						3		3	3		3	1		1							7	0	7
生態学研究センター						6		6	3	1	4										9	1	10
野生動物研究センター						3	1	4	1		1					1	1				4	2	6
高等教育研究開発推進センター						2	1	3	2	1	3										4	2	6
総合博物館						2	1	3	1	1	2	1		1	2		2				6	2	8
フィールド科学教育研究センター						4	1	5	7	1	8	2		2	6	3	9				19	5	24
こころの未来研究センター						3	1	4			1	1									3	2	5
文化財総合研究センター									1		1				4		4				5	0	5
学生総合支援センター						1		1	1	2	3	2		2							4	2	6
大学文書館						1		1													1	0	1
学際融合教育研究推進センター									1		1										1	0	1
国際高等教育院						22	3	25	14	3	17										36	6	42
環境安全保健機構						5		5	4	1	5				8	1	9				17	2	19
情報環境機構						3	1	4	1		1				1	1	2				5	2	7
産官学連携本部									1		1										1	0	1
高等研究院						2	1	3	2		2	1		1	1		1				6	1	7
合計	1	1	8	1	9	930	70	1000	703	79	782	138	24	162	683	98	781	1	1	2	2464	273	2737

(注)育児休業者・退職者・再雇用者は除く

京都大学学生数

学部学生数

(平成29年5月1日現在)

区分	学部学生			聴講生			科目等履修生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合人間学部	424	162	586				12	7	19	436	169	605
文学部	596	404	1,000	31	15	46	14	6	20	641	425	1,066
教育学部	166	121	287	5	5	10	3	1	4	174	127	301
法学部	1,092	414	1,506	3		3				1,095	414	1,509
経済学部	914	237	1,151	1		1				915	237	1,152
理学部	1,263	133	1,396				13		13	1,276	133	1,409
医学部(6年制)	577	113	690							577	113	690
医学部(4年制)	161	423	584							161	423	584
薬学部(6年制)	100	89	189				2	1	3	102	90	192
薬学部(4年制)	176	52	228				1		1	177	52	229
工学部	3,900	381	4,281	1		1	4	1	5	3,905	382	4,287
農学部	894	430	1,324				8	4	12	902	434	1,336
計	10,263	2,959	13,222	41	20	61	57	20	77	10,361	2,999	13,360
	(136)	(87)	(223)					(1)	(1)	(136)	(88)	(224)

(注)()内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

大学院学生数

(平成29年5月1日現在)

区分	修士課程			博士(後期)課程			専門職学位課程			聴講生			科目等履修生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	136	93	229	137	68	205				14	15	29				287	176	463
教育学研究科	48	37	85	53	43	96							2	7	9	103	87	190
法学研究科	22	18	40	59	14	73	259	98	357	3		3	1	2	3	344	132	476
経済学研究科	66	40	106	97	32	129							1		1	164	72	236
理学研究科	554	98	652	414	67	481							2		2	970	165	1,135
医学研究科				512	197	709										512	197	709
	79	100	179	97	92	189	25	34	59				3		3	204	226	430
薬学研究科				19	9	28										19	9	28
	110	30	140	35	18	53										145	48	193
工学研究科	1,351	170	1,521	414	83	497										1,765	253	2,018
農学研究科	477	225	702	176	80	256								3	3	653	308	961
人間・環境学研究科	197	140	337	161	137	298										358	277	635
エネルギー科学研究科	241	24	265	49	21	70										290	45	335
アジア・アフリカ地域研究研究科				83	79	162										83	79	162
情報学研究科	382	41	423	115	24	139										497	65	562
生命科学研究科	103	70	173	63	50	113										166	120	286
総合生存学館				27	26	53										27	26	53
地球環境学舎	43	50	93	30	32	62										73	82	155
公共政策教育部							76	21	97	1		1	1	1	2	78	22	100
経営管理教育部				13	2	15	117	69	186				7	3	10	137	74	211
計	3,809	1,136	4,945	2,554	1,074	3,628	477	222	699	18	15	33	17	16	33	6,875	2,463	9,338
	(317)	(283)	(600)	(463)	(348)	(811)	(44)	(61)	(105)					(2)	(2)	(824)	(694)	1,518

(注1)医学研究科・薬学研究科の博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2)アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3)()内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

京都大学の女性研究者・女子学生の状況

1. 教員数の経年変化と女性比率

(分析データ：京都大学概要 2017)

2004年までは、保田その氏の作成データ（京都大学女性教員懇話会 2005年度ニュースレターNo.2）による

2017年5月1日現在の京都大学の教員数(助手2名を含む)は、全体で2,727名である。そのうち女性教員は全体の10.0%、数にしてわずか272名である。2006年は7.3%だったので、この11年間で2.7%増加している。女性教員数が目立って増加の傾向を見せてきたのは、2000年頃からである。図1に1952年以来的女性教員の推移を示す。

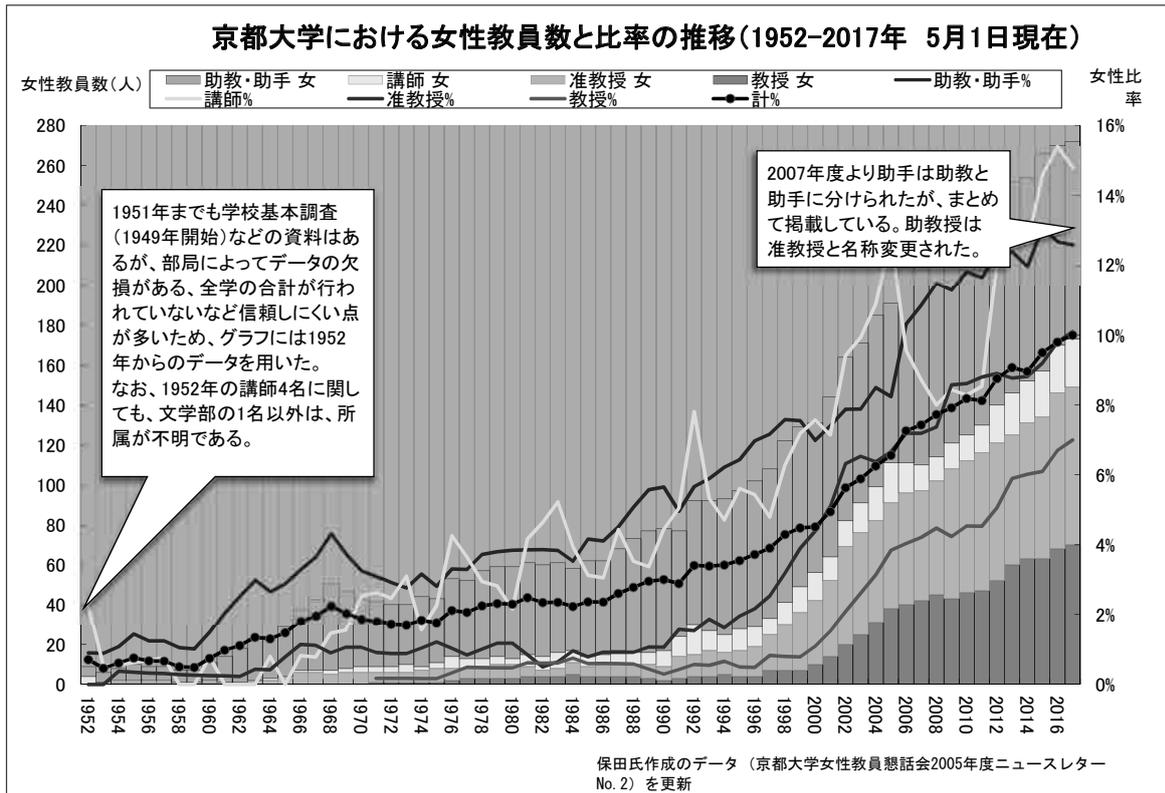


図1：1952年以来的女性教員の推移

職階別に男女比を見ると、女性は総数が少ないのでどのポストでもわずかだが、その中でも、教授ポストの女性比率が特に少なく、7.0%しかない。准教授ポストでは10.1%、講師では14.8%、助教・助手では12.6%が女性である(図2)。

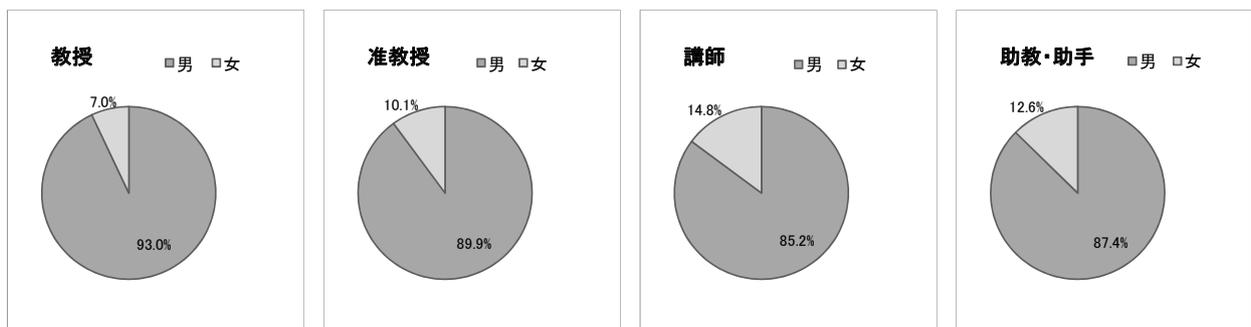


図2 教員の職階毎の男女比 (2017年5月1日現在)

図3の職階分布からわかるように、男性では教授(37.9%)が最も多く、女性では助教・助手(36.4%)が最も多い。

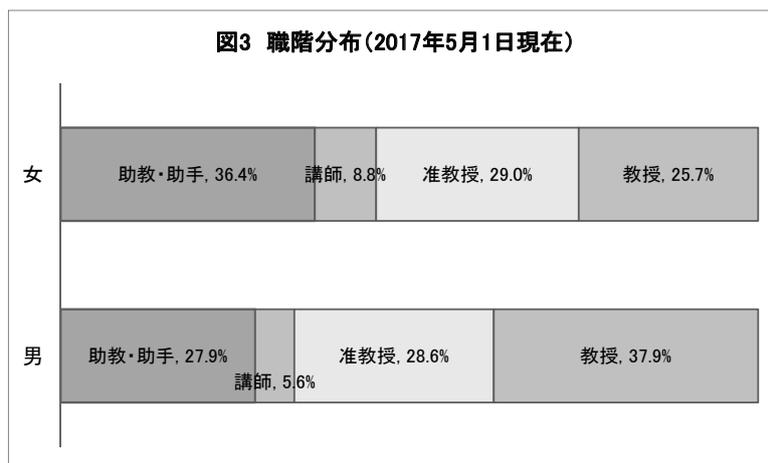


表1に男女別教員数(「定員」)を示す。女性がない部局は載せていないが、総合計は総教員数である。

表1 男女別教員数(「定員」)と女性比率(部局別)

部局	男	女	計	女性比率
附属図書館	0	1	1	100.0%
こころの未来研究センター	3	2	5	40.0%
野生動物研究センター	4	2	6	33.3%
高等教育研究開発推進センター	4	2	6	33.3%
学生総合支援センター	4	2	6	33.3%
情報環境機構	5	2	7	28.6%
教育学研究科	25	9	34	26.5%
総合博物館	6	2	8	25.0%
東南アジア研究所	26	7	33	21.2%
フィールド科学教育研究センター	19	5	24	20.8%
人文科学研究所	40	9	49	18.4%
文学研究科	72	15	87	17.2%
アジア・アフリカ地域研究研究科	24	5	29	17.2%
経済学研究科	29	6	35	17.1%
医学研究科	213	43	256	16.8%
総合生存学館	10	2	12	16.7%
法学研究科	58	11	69	15.9%
人間・環境学研究科	97	17	114	14.9%
国際高等教育院	36	6	42	14.3%
高等研究院	6	1	7	14.3%
薬学研究科	35	5	40	12.5%
ウイルス・再生医科学研究所	56	8	64	12.5%
医学部附属病院	152	21	173	12.1%
地球環境学堂	39	5	44	11.4%
霊長類研究所	31	4	35	11.4%
環境安全保健機構	17	2	19	10.5%
経営管理研究部	18	2	20	10.0%
生態学研究センター	9	1	10	10.0%
iPS細胞研究所	23	2	25	8.0%
農学研究科	175	15	190	7.9%
原子炉実験所	64	5	69	7.2%
理学研究科	243	18	261	6.9%
経済研究所	14	1	15	6.7%
生命科学研究科	47	3	50	6.0%
生存圏研究所	33	2	35	5.7%
化学研究所	76	4	80	5.0%
工学研究科	376	18	394	4.6%
防災研究所	84	4	88	4.5%
情報学研究科	96	3	99	3.0%
総計	2,455	272	2,727	10.0%

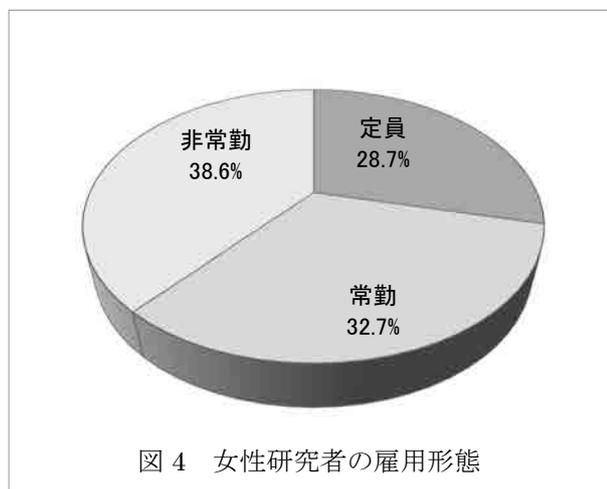
2. 女性研究者の雇用形態

(分析データ：総務部資料 2017年5月1日)

表2に示すように、本学には女性研究者が約955人いる。プロジェクトなどの雇用でない、いわゆる“定員”の教員は273人、残り682人が種々のプロジェクトなどで雇用されている任期付きの研究者である。表2にその職種、職階分布を示した。表2で常勤というのは、勤務形態は定員と同じだが雇用形態が例えば、准教授(産官学連携)というように職名に財源の由来が付いている任期付きのポストを示している。非常勤というのは、勤務形態が非常勤で雇用の財源はいろいろである。例えば「最先端研究」などである。

表2 女性研究者の雇用形態

学内の雇用形態		人数	%
定員	教授	70	7.2
	准教授	79	8.2
	講師	24	2.5
	助教・助手	100	10.8
	合計	273	28.7
常勤	教授	2	0.3
	准教授	24	2.5
	講師	9	1.3
	助教	84	9.7
	研究員	179	18.9
	合計	298	32.7
非常勤	研究員	250	27.3
	医員	129	10.9
	教員	5	0.3
	合計	384	38.6
総合計		955	100.0



3. 女性教員の部局別・職階別分布

表3に全部局の職階別女性教員数(2017年5月1日現在)を示す。

(分析データ：総務部資料2017年5月1日)

表3:部局別職階別女性教員数(2017年5月1日現在、総務部より)

部局	定員					常勤							非常勤				総合計
	教授	准教授	講師	助教 助手	合計	教授	准教授	講師	助教	研究員	合計	研究員	医員	教員	合計		
医学研究科	10	7	7	19	43	1	3	3	15	18	40	51	0	0	51	134	
医学部附属病院	0	3	0	18	21	0	1	1	22	17	41	16	129	0	145	207	
iPS細胞研究所	2	0	0	0	2	0	1	0	5	49	55	8	0	0	8	65	
農学研究科	5	3	1	6	15	0	1	0	4	7	12	17	0	0	17	44	
学際融合教育研究推進センター	0	0	0	0	0	1	6	0	1	2	10	8	0	0	8	18	
工学研究科	1	4	4	9	18	0	1	0	3	9	13	20	0	0	20	51	
高等研究院	1	0	0	0	1	0	2	0	1	4	7	5	0	0	5	13	
理学研究科	1	10	1	6	18	0	0	0	0	10	10	9	0	0	9	37	
人間・環境学研究科	10	5	1	1	17	0	0	1	0	3	4	7	0	0	7	28	
霊長類研究所	0	0	0	4	4	0	0	0	1	6	7	13	0	2	15	26	
教育学研究科	5	4	0	0	9	0	0	0	0	2	2	2	0	0	2	13	
文学研究科	11	2	0	2	15	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	18	
法学研究科	5	4	1	1	11	0	0	0	7	0	7	0	0	0	0	18	
産官学連携本部	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	3	0	0	3	6	
白眉センター	0	0	0	0	0	0	2	0	7	0	9	0	0	0	0	9	
化学研究所	0	1	2	1	4	0	0	0	0	4	4	8	0	0	8	16	
東南アジア地域研究研究所	3	2	0	2	7	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	10	
人文科学研究科	1	2	1	5	9	0	0	0	1	0	1	6	0	0	6	16	
薬学研究科	0	2	2	1	5	0	0	0	0	1	1	5	0	0	5	11	
アジア・アフリカ地域研究研究科	0	4	0	1	5	0	0	0	2	1	3	4	0	0	4	12	
野生動物研究センター	1	0	0	1	2	0	0	0	3	3	6	4	0	1	5	13	
ウイルス・再生医科学研究科	2	1	0	5	8	0	0	0	2	6	8	11	0	0	11	27	
生存圏研究所	0	0	0	2	2	0	0	0	0	7	7	9	0	0	9	18	
生命科学研究科	0	1	0	2	3	0	0	0	0	8	8	6	0	0	6	17	
地球環境学堂	0	4	0	2	6	0	1	0	1	2	4	0	0	0	0	10	
防災研究所	1	1	1	1	4	0	0	0	0	5	5	3	0	0	3	12	
経済学研究科	1	2	3	0	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	7	
国際高等教育院	3	3	0	0	6	0	3	3	0	0	6	0	0	0	0	12	
原子炉実験所	0	2	0	3	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	7	
情報学研究科	0	1	0	2	3	0	0	0	1	3	4	1	0	0	1	8	
フィールド科学教育研究センター	1	1	0	3	5	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	7	
数理解析研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
ころの未来研究センター	1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	2	4	0	0	4	8	
生態学研究センター	0	1	0	0	1	0	1	0	0	2	3	8	0	0	8	12	
アフリカ地域研究資料センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	
高等教育研究開発推進センター	1	1	0	0	2	0	0	0	1	1	2	2	0	0	2	6	
福井謙一記念研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	4	
経営管理研究部	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	5	
総合生存学館	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	
基礎物理学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2	
経済研究所	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	
総合博物館	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	
情報環境機構	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
放射線生物研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	5	
学生総合支援センター	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
環境安全保健機構	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	
エネルギー理工学研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	
附属図書館	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
エネルギー科学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	2	
大学文書館	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	
合計	70	79	24	100	273	2	24	9	82	181	298	250	129	5	384	955	

4. 女子学生の状況

(分析データ：総務部資料 2017 年 5 月 1 日)

2017 年 5 月 1 日現在の京都大学の学部生数、大学院生数、女性比率を表 4 と表 5 に示す。1946 年からの女子学生数とその比率は図 5 にある。

学部学生の女性比率は全体で 22.4%と、教員と比較するとかなり高い。医学部(4 年制)では、72.4%、薬学部(6 年制)では 47.1%、文学部、教育学部は、約 40%が女子学生である。工学部は教員と同じく低く、女性比率 8.9%である。大学院では、修士課程から博士課程に進むに従って、女性比率が、23.0%から 29.6%へと高くなる。しかし、図 6 に示したように教員への道は細いパイになっている。

表4 学部学生数と女性比率

	学部生数計	女性%
総合人間学部	605	27.6
文学部	1,066	40.4
教育学部	301	42.2
法学部	1,509	27.5
経済学部	1,152	20.6
理学部	1,409	9.5
医学部 (6年制)	690	16.4
医学部 (4年制)	584	72.4
薬学部 (6年制)	192	47.1
薬学部 (4年制)	229	22.8
工学部	4,287	8.9
農学部	1,336	32.5
計	13,360 (224)	22.4

注) () 内は、外国人留学生数 (留学ビザ留学生) で内数

表5 大学院生数と女性比率

	修士課程	女性%	博士課程	女性%
文学研究科	229	40.6	205	33.2
教育学研究科	85	43.5	96	44.8
法学研究科	40	45.0	73	19.2
経済学研究科	106	37.7	129	24.8
理学研究科	652	15.0	481	13.9
医学研究科			709	27.8
	179	55.9	189	48.7
薬学研究科			28	32.1
	140	21.4	53	34.0
工学研究科	1,521	11.2	497	16.7
農学研究科	702	32.1	256	31.3
人間・環境学研究科	337	41.5	298	46.0
エネルギー科学研究科	265	9.1	70	30.0
アジア・アフリカ地域研究研究科			162	48.8
情報学研究科	423	9.7	139	17.3
生命科学研究科	173	40.5	113	44.2
総合生存学館			53	49.1
地球環境学舎	93	53.8	62	51.6
公共政策教育部				
経営管理教育部				
計	4,945 (600)	23.0	3,628 (811)	29.6

(注1)医学研究科博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2)アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3) () 内は、外国人留学生数 (留学ビザ留学生) で内数

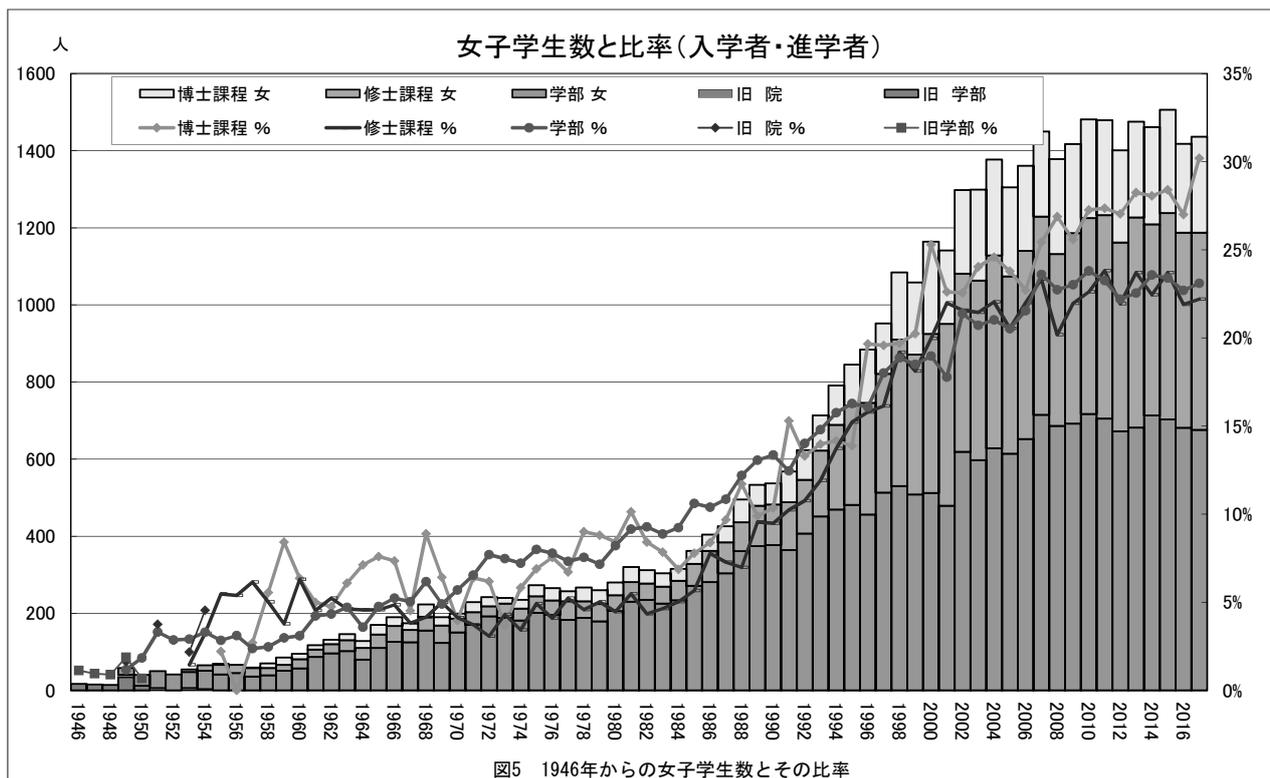


図5 1946年からの女子学生数とその比率

図6 女性の比率の流れ



※ 2.「女性研究者の雇用形態」(表 2、図 4)、3.「女性教員の部局別・職階別分布」(表 3)は、総務部(2017年5月1日現在)より作成。その他は、京都大学概要 2017(2017年5月1日現在)より作成。総務部データと京都大学概要では、集計上の事情によって女性研究者総数で数名の違いがある。また、作図にあたり四捨五入している。

平成29年度 京都大学男女共同参画推進センター報告書

発行日 平成30年3月

発行所 京都大学男女共同参画推進センター

© 京都大学男女共同参画推進センター

